SONY

3-869-979-03(1)

デジタル サーベイランス レコーダー

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告　電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

HSR-J2016
HSR-J2009

安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品は、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあり、危険です。
事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

5～9ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記されています。

定期点検をする

長期間、安全にお使いいただくために、定期点検をすることをおすすめします。点検の内容や費用については、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

故障したら使わない

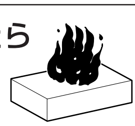
すぐに、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

万一、異常が起きたら

- 煙が出たら
- 異常な音、においがしたら
- 内部に水、異物が入ったら
- 製品を落としたりキャビネットを破損したときは

→ ❶ 電源を切る。
❷ 電源コードや接続コードを抜く。
❸ お買い上げ店またはソニーのサービス窓口に相談する。

炎が出たら



→ すぐに電源を切り、消火する。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

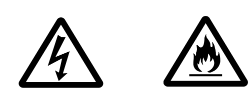
⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



感電　火災

行為を禁止する記号



禁止　分解禁止　ぬれ手禁止

行為を指示する記号



アース線を接続せよ　指示　プラグをコンセントから抜く

目次

目次

⚠警告　火災　感電
下記の注意を守らないと、火災や感電により死亡や大けがにつながることがあります。

禁止

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 設置時に、製品と壁やラック（棚）などの間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口に交換をご依頼ください。

指示

電源コードのプラグおよびコネクターは突き当たるまで差し込む

まっすぐに突き当たるまで差し込まないと、火災や感電の原因となります。

禁止

油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所では設置しない

上記のような場所に設置すると、火災や感電の原因となることがあります。
取扱説明書に記されている使用条件以外の環境での使用は、火災や感電の原因となることがあります。

禁止

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となることがあります。
万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続コードを抜いて、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

分解禁止

内部を開けない

内部には電圧の高い部分があり、キャビネットや裏ぶたを開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となることがあります。内部の調整や設定、点検、修理、別売りのボードの取り付けはお買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご依頼ください。

分解禁止

外装を外さない、改造しない

外装を外したり、改造したりすると、感電の原因となります。
内部の調整や設定および点検を行う必要がある場合は、必ずサービストレーニングを受けた技術者にご依頼ください。

⚠注意 下記の注意を守らないと、けがをしたり周辺の物品に損害を与えることがあります。



指示

本機は日本国内用です

交流100Vでお使いください。
海外などで、異なる電圧で使うと、火災や感電の原因となることがあります。



ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差しすると、感電の原因となることがあります。



指示

接続の際は電源を切る

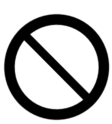
電源コードや接続コードを接続するときは、電源を切ってください。感電や故障の原因となります。



指示

付属の電源コードを使う

付属の電源コードを使わないと、感電や故障の原因となることがあります。

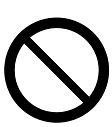


禁止

通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。風通しをよくするために次の項目をお守りください。

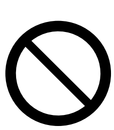
- 壁から5 cm以上離して設置する。
- 密閉された狭い場所に押し込めない。
- 毛足の長い敷物(じゅうたんなど)の上に設置しない。
- 布などで包まない。
- あおむけや横倒し、逆さまにしない。



禁止

不安定な場所に設置しない

ぐらついた台の上や傾いたところなどに設置すると、倒れたり落ちたりしてけがの原因となることがあります。また、設置・取り付け場所の強度を充分にお確かめください。



禁止

ファンが止まったままの状態で使用しない

ファンが止まると、POWERインジケーターが点滅します。そのまま使用し続けると、内部に熱がこもり火災の原因となることがあります。お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

⚠注意 下記の注意を守らないと、けがをしたり周辺の物品に損害を与えることがあります。

禁止

製品の上に乗らない、重い物を載せない

製品の上に乗ったり20kgを超えるモニターなどを載せると、倒れたり、落ちたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

プラグをコンセントから抜く

お手入れの際は、電源を切って電源プラグを抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

指示

移動させるときは、電源コード、接続コードを抜く

接続したまま移動させると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

指示

内部の掃除を依頼する

長い間掃除をしないと内部にほこりがたまり、火災や感電の原因となることがあります。内部の掃除については、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください（有料）。

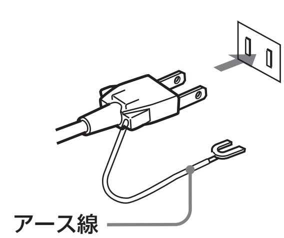
特に、湿気の多くなる梅雨の前に掃除をすると、より効果的です。

アース線を接続せよ

安全アースを接続する

安全アースを接続しないと、感電の原因となることがあります。

電源プラグから出ている緑色のアース線を、建物に備えられているアース端子に接続してください。



不明な点は、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

使用上のご注意

安全上のご注意

電源

- 本機は100V AC 、50/60Hz 電源で使用してください。
- 動作可能電圧、消費電力などを記載した機銘板は、本機の後面にあります。
- 電源コードは壁のコンセントにつないでください。電源のつなぎかたについては、「電源を入れる」（31ページ）をご覧ください。
- 長期間使用しないときは、電源プラグを壁のコンセントから抜いてください。

取り扱い上のご注意

使用・保管場所

長期間ご愛用いただくため、次のような場所での使用および保管は避けてください。

- 極端に暑いところや寒いところ（使用温度は5 ℃～40 ℃です。）
- 直射日光が長時間あたるところや暖房器具の近く
- 湿気、ほこりの多いところ
- 激しい振動のあるところ
- 強い磁気を発生するものの近く
- 強力な電波を発生するテレビ、ラジオの送信所の近く

通風口をふさがない

- 本機内の温度の上昇を防ぐため、本機の両側面、底面にある通風口をふさがないでください。本機の両側面、後面、上面は、壁や天井から5 cm以上離してください。
- 本機底面の脚は外さないでください。脚を付けた状態で平面に設置することによって、床から1 cmの距離を保つことができます。
- 本機を密閉された箱に入れて使用しないでください。

水平位置で使用してください

- 本機は水平平面上で動作するよう設計されています。
- 傾いた場所に設置しないでください。強い衝撃を与えないでください
- 落としたりして強い衝撃を与えると故障することがあります。

お手入れについて

- お手入れをする前に、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- キャビネットやパネルの汚れは、乾いた柔らかい布で軽くふき取ってください。汚れがひどいときは、中性洗剤溶液を少し含ませた布で汚れをふき取り、乾いた布で仕上げてください。
- アルコール、シンナー、ベンジンや殺虫剤など、揮発性のものをかけると、変質したり塗料がはげることがあります。

輸送のときは

付属のカートン、または同等品で梱包し、急激な衝撃を与えないようにご注意ください。

セッティングバックアップ機能について

本機の底面には時間設定を持続するためのバックアップ用電池（リチウム電池）が装備されています。通常の使いかたでバックアップ用電池は充電されます。

最低約30時間でフル充電になり、**約30日間は時間設定**が維持されます。

ご注意

- 充電時間が30時間未満ですと、電源を切った場合セッティングは正しく継続されません。
- バックアップ用電池（リチウム電池）の交換については、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

外部接続機器に関するご注意

RAIDユニット接続時

- RAIDユニットの電源には、無停電電源装置（UPS）を必ず、使用してください。
- 本体内HDDとRAIDユニットとの同時使用はできません。
- 本機とRAIDユニットは電源を切った状態で接続し、RAIDユニットの起動が終了したら本機の電源を入れてください。
  本機の電源を先に入れた場合や、RAIDユニットの起動中に本機の電源を入れると、RAIDユニットを認識できないことがあります。
- 本機でのミラーリング設定は行わず、RAIDユニット側で行ってください。記録レートが制限されたり、ミラーリング設定が2重になる場合があります。
- 接続可能なRAIDユニットについては、お買い上げ店にお問い合わせください。

HDD内蔵機器に対する注意事項

本機には、ハードディスクドライブ（以下HDDと称する）が搭載されています。HDDは精密部品であり、衝撃・振動・静電気・温度・湿度が原因で故障したり、HDD内のデータが破損する恐れがあります。本機を設置・使用するときは、以下の注意事項をよくお読みのうえ、慎重に取り扱ってください。

衝撃・振動を与えない

衝撃・振動が加わるとHDDが故障あるいはHDD内のデータが破壊されるおそれがあります。

- 本機を搬送する場合は、指定の梱包材料で梱包してください。台車などで搬送する場合は、振動の少ない台車を使用してください。過度な衝撃・振動が加わるとHDDが故障するおそれがあります。
- 通電中は本機を移動しないでください。本機をラックから出し入れするときも、必ず電源をOFFにした状態で行ってください。
- ラック内にあるすべてのHDD搭載機器に衝撃を与えないでください。
- 本機をラックから出し入れするとき、ラック内に通電中のHDD搭載機器がある場合は、必ずその機器の電源をOFFにしてください。
- 本機の外装を取り外さないでください。
- 本機を床などに置くときは、本機の底に必ず指定の脚が付いている状態で、静かに降ろしてください。脚が付いていない場合は、脚を取り付けてから置いてください。
- 振動を発生する機器の近くに置かないでください。

電源OFF後30秒間は作業しない

電源をOFFにした後もしばらくの間は、HDD内のディスクは慣性で回転しており、ヘッドは不安定な状態にあります。この期間は、通電中以上に衝撃・振動に弱い状態です。**電源OFF後、最低30秒間は軽い衝撃も与えない**ようにご注意ください。30秒以上経過すれば、（ディスクが静止するので）作業を開始できます。

温度・湿度に関するご注意

適性範囲内の温度・湿度にある場所で、保管・使用してください。

動作温度： 5～40℃
動作湿度： 20～80％(最大湿球温度：29℃) (結露のないこと)
保存温度： －20～＋60℃
保存湿度： 20～80％(最大湿球温度：29℃) (結露のないこと)

HDDに不良症状が現れた場合

万一、本機のHDDが故障した（不良症状が現れた）と思われる場合でも、本機の取り扱いは、上記と同様に行ってください。不良内容の確認や不良解析を行うまでの損傷の拡大を防ぎます。

内蔵の時計を設定して使用する

内蔵の時計で日時を設定していないと、記録ができません。

時計が設定されていない場合、電源を入れて本機を起動すると、警告メッセージ「日時設定をおこなわないと記録できません！」がモニター画面に表示されます。
時計を設定してから使用してください。

HDDの交換

HDD、ファン、内蔵リチウム電池は消耗品です。常温でのご使用の場合、2～3年を目安に交換してください。ただし、この時間はあくまでも交換の目安であり、部品の寿命を保証するものではありません。交換の際には販売店にご相談ください。

録画内容の補償に関する免責事項

本機の不具合など何らかの原因で記録ができなかった場合、不具合・修理など何らかの原因で記録内容が破損、消滅した場合等、いかなる場合においても記録内容の補償およびそれに付随するあらゆる損害について、当社は一切責任を負いかねます。また、いかなる場合においても、当社にて記録内容の修復、復元、複製等はいたしません。あらかじめご了承ください。

概要

ソニーデジタルサーベイランスレコーダーHSR-J2009/J2016は、監視カメラからの映像を記録するデジタルビデオレコーダーです。内蔵のハードディスクに記録するため、カセットテープを使用するレコーダーのようにテープの記録時間や耐久性を気にすることなく、高画質での長時間記録・再生が可能です。

本機の特長

大容量HDD採用による長時間記録

容量500GB（250GB×2）のハードディスクを標準装備し、長時間の連続記録が可能です。

例：通常記録領域99%、アーカイブ領域1%の場合

1入力、1フィールド/秒、画質HYPER：2823時間（117日）

1入力、1フィールド/秒、画質HIGH：4629時間（192日）

1入力、1フィールド/秒、画質LOW：12860時間（535日）

16入力、1.25フィールド/秒、画質HIGH：231時間（9日）

外部接続機器（RAIDユニット）により、さらなる長時間記録が可能

RAIDユニットを接続することで、さらなる長時間記録が可能になります。接続可能なRAIDユニットは1台です。

JPEG2000圧縮方式採用による高画質・高解像度の記録・再生

5段階の記録画質を選択可能

HSR-J2009/2016では、HYPER（42KB/フィールド）、SUPER（34KB/フィールド）、HIGH（26KB/フィールド）、MID（18KB/フィールド）、LOW（10KB/フィールド）の5段階の記録画質を、目的や必要な記録時間に応じて選択できます。

高解像度

720×240ピクセルの高解像度で画像を記録します。

ネットワーク画像伝送の高速化

JPEG2000圧縮方式を採用したことにより、従来のMotion-JPEG圧縮方式と比べて、より高速化を実現しています。

120 field/sでの同時録画再生対応

最大120 field/sで録画と再生が同時にでき、高画質で滑らかな映像を記録できます。また、ライブ監視時には全チャンネルを30frame/sで表示できます。

ROI（Region of Interest）対応で長時間録画

ROI機能により、画面のエリアごとに異なる画質で録画ができます。重要な部分を高画質にしたまま、その他の部分を低画質にして記録データサイズを小さくすることで、従来と比べてより長時間の録画が可能となります。

多彩な記録・再生が可能

内蔵HDDを記録領域、アーカイブの2つの領域に分割して使用できるため、様々な状況に柔軟に対応できます。

- タイマー記録中でもアラーム記録を実行
- 記録を中断することなく再生が可能なプリリバース再生
- 10×14多点アクティビティーセンサーによるアラーム記録
- オーディオ2チャンネルの入力
- ジョグおよびシャトルダイヤルによる変速再生
- 画像の2倍ズーム機能
- プログラム記録
- 特定のカメラ画像のモニターマスク機能
- カメラ毎に画質、記録レート、モーション検出の設定が可能
- 保存期間を過ぎると自動的にデータを消去するオートデリート機能
- 目的別に記録設定を簡単に行える簡易記録設定

最大16入力に対応

HSR-J2016は最大16台のカメラからの映像を記録・モニターできます。

HSR-J2009は最大9台のカメラからの映像を記録・モニターできます。

PTZカメラコントロールが可能

- 全カメラ入力が同軸重畳に対応
  PTZ対応カメラに対して、パン、チルト、ズームなどの遠隔コントロールが行えるほか、カメラ内蔵メニューの操作が可能です。
- 接続可能なPTZカメラについては、ソニーのサービス窓口にご相談ください。

マルチプレクサー機能

マルチプレクサー機能の搭載により、入力映像のモニターや記録した画像の再生時に、画像を分割して複数の映像を同時に見ることができます。
4分割、9分割、16分割の3種類の分割パターンを選択できます。分割したそれぞれの画枠には、重要度などに応じて任意のカメラを割り振ることができます。

多様なシステム構成が可能

ネットワーク対応による遠隔操作

LAN端子によって、TCP/IP経由でコンピューター（WEBブラウザー）から本機を操作し、記録・再生や画像の伝送が可能です。最大15人まで同時接続することが可能です。（画面の更新速度は、本体の動作モードやネットワーク環境により遅くなることがあります。）

データの保存

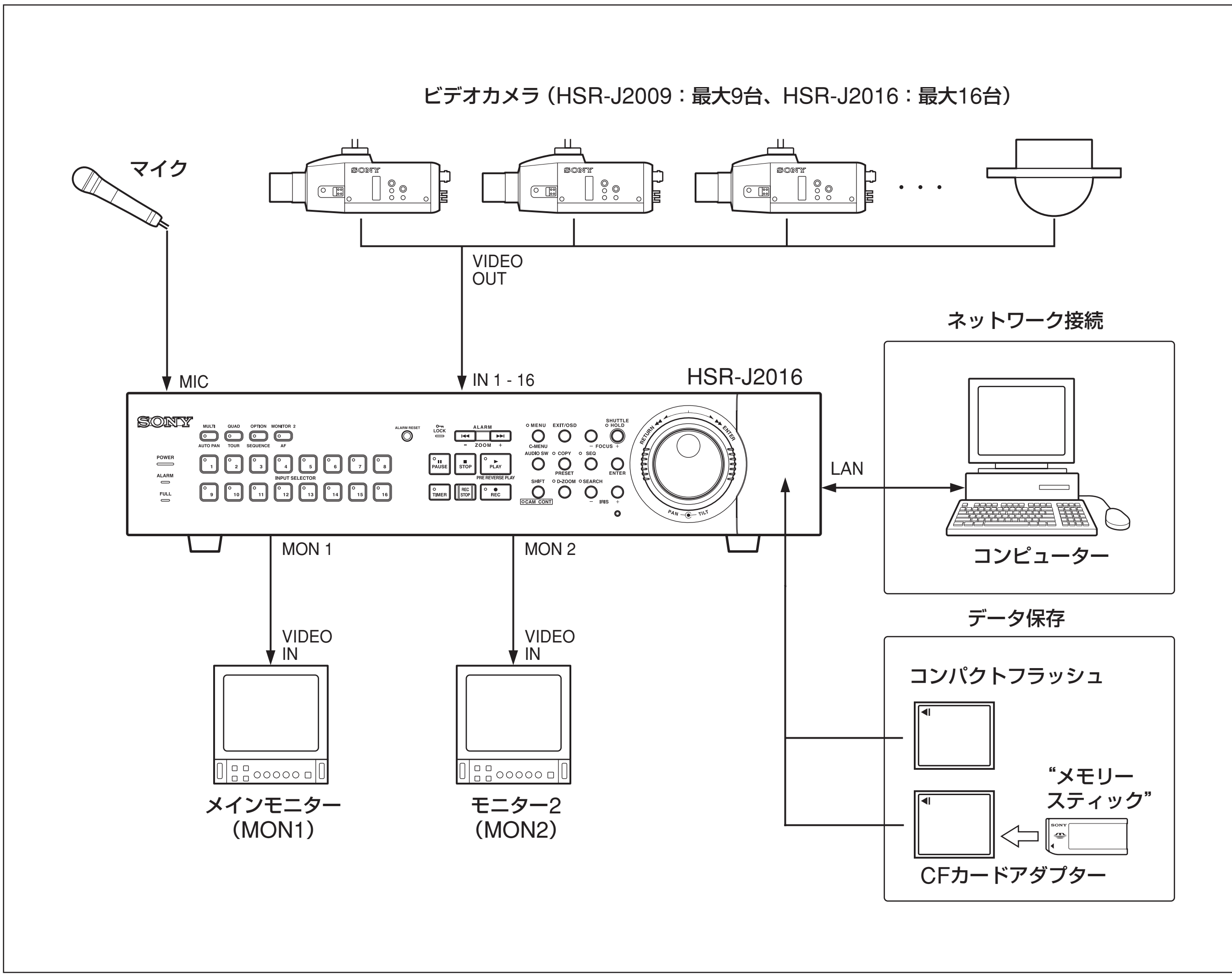
USB接続により、CD-R/RW、DVD+R/+RWにデータを保存できるほか、前面のCFカードスロットにより、コンパクトフラッシュにもデータを保存できます。
また、CFカードアダプター（コンパクトフラッシュType II）を使用することにより、各種メモリーカードでのデータ保存にも対応します。
さらに、ネットワーク経由でコンピューターにダウンロードすることも可能です。

※コンパクトフラッシュ、メモリースティックおよびネットワーク経由のコピー動作には、データ数の制限があります。（Max. 40,000枚/1回）

※接続可能なCD/DVDドライブについては、お買い上げ店にお問い合わせください。

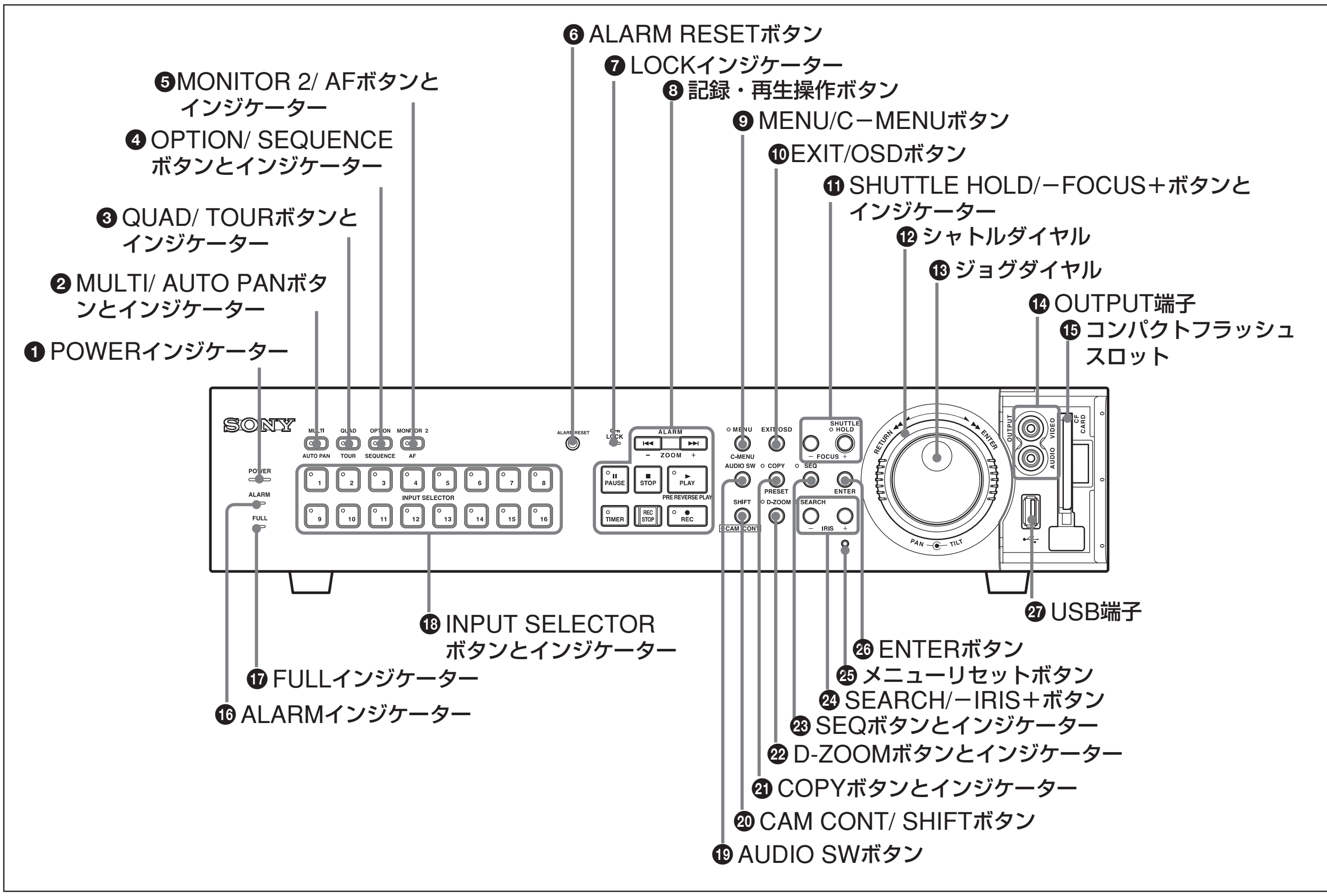
システム構成例

接続したカメラの画像をモニター画面で監視・記録し、記録された
画像を再生します。



各部の名称と働き

前面パネル



❶ POWER（電源）インジケーター

本機が通電状態のとき緑に点灯します。通電が遮断されると消灯します。

HDDまたはファンに異常があると赤で点滅します。

ご注意

本機の内部温度を適正に保つため、ファンが本機側面に装備されています。ファンが正しく作動しないと、POWERインジケーターが点滅して異常を知らせます。そのような場合は、電源を切ってコンセントからプラグを抜き、ファンをさえぎるものがないか確認してください。再度電源を入れたとき、まだPOWERインジケーターが点滅していたら、本機の使用を中止してお買い上げ店またはソニーのサービス窓口までご相談ください。

❷ MULTI/ AUTO PAN（9/16分割画面/オートパン）ボタンとインジケーター

ボタンを押すとモニター表示が9/16分割画面モードに切り換わり、ボタンを押すたびに9分割画面と16分割画面が切り換わります。

カメラコントロール時は

PTZカメラのオートパンを操作します（AUTO PAN）。

❸ QUAD/ TOUR（4分割画面/ツアー）ボタンとインジケーター

ボタンを押すとモニター表示が4分割画面モードに切り換わり、ボタンを押すたびに4分割画面が切り換わります。

カメラコントロール時は

PTZカメラのツアーを操作します（TOUR）。

❹ OPTION/ SEQUENCE（オプション/自動切り換え）ボタンとインジケーター

9/16分割画面を表示中にボタンを押すと、OPTION画面に切り換わります。

カメラコントロール時は

PTZカメラのシーケンスを操作します（SEQUENCE）。

❺ MONITOR 2（モニター2）/ AFボタンとインジケーター

ボタンを押すとMON 2端子に接続したモニター2の設定モードになります。

再度押すとモニター2の設定モードが解除されます。

カメラコントロール時は

PTZカメラの1プッシュオートフォーカスを操作します（AF）。

❻ ALARM RESETボタン

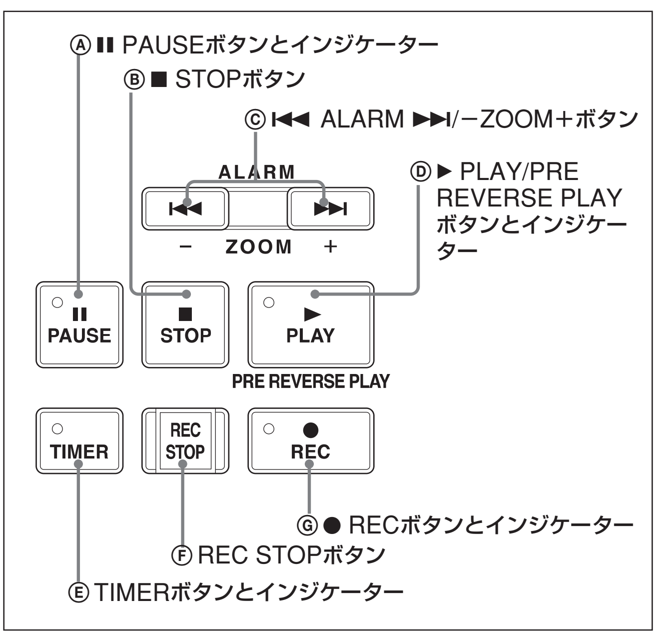
アラーム時にこのボタンを押すと、アラーム動作が解除されます。

❼ LOCK（ロック）インジケーター

セキュリティロックで操作にロックがかけられていると赤で点灯します。

◆セキュリティロックについては「セキュリティロックを設定する」（39ページ）をご覧ください。

❽ 記録・再生操作ボタン



Ⓐ ❚❚ PAUSE（一時停止）ボタンとインジケーター（橙）

再生中にボタンを押すと、静止画モードになり、インジケーターが点灯します。

もう一度押すと、通常の再生モードに戻ります。

Ⓑ ■ STOP（再生停止）ボタン

再生（静止画、変速再生を含む）を終了するとき押します。

Ⓒ ⏮ ALARM ⏭/−ZOOM＋（アラームスキップ/ズーム）ボタン

記録領域に記録された画像を再生中にボタンを押すと、ひとつ前または次のアラーム記録イベントの画像にスキップします。

アーカイブ領域に保存された画像を再生しているときにボタンを押すと、ひとつ前または次のイベントにスキップします。

カメラコントロール時は

PTZカメラのズームを操作します（ZOOM）。

Ⓓ ▶ PLAY/PRE REVERSE PLAY（再生/プリリバース再生）ボタンとインジケーター（緑）

停止状態でボタンを押すと、インジケーターが点灯し、再生が始まります。

◆詳しくは、「通常の再生」（77ページ）をご覧ください。

記録中にボタンを押すと、記録を継続したまま、メニューで指定したプリリバース時間（1〜99分）だけさかのぼった位置から再生することができます。

◆詳しくは、「プリリバース再生－記録中に再生する」（78ページ）をご覧ください。

Ⓔ TIMER（タイマー）ボタンとインジケーター（赤）

ボタンを押すとタイマー記録の待機状態になりインジケーターが点灯します。メニューで設定した記録開始時刻になると記録が始まり、RECボタンのインジケーターが点灯します。

もう一度押すと、待機状態もしくは実行中のタイマー記録が解除されます。

◆詳しくは、「タイマー記録」（62ページ）をご覧ください。

Ⓕ REC STOP（記録停止）ボタン

記録を終了するとき押します。

Ⓖ ● REC（記録）ボタンとインジケーター（赤）

ボタンを押すとインジケーターが点灯し、記録が始まります。

❾ MENU/C−MENU（メニュー/カメラメニュー）ボタン

ボタンを押すとメニューモードに入ります。メニュー操作中は、表示されているサブメニューから別のサブメニュー、または設定画面から別の設定画面に切り換えることができます。

◆メニュー操作について詳しくは、「メニュー操作」（26ページ）をご覧ください。

カメラコントロール時は

接続したカメラの設定メニューを表示します（C-MENU）。

⑩ EXIT/OSD（終了/画面表示）ボタン

メニューモードを解除するとき押します。
また、録画・再生中および停止中にボタンを押すと、押すごとに操作表示の位置を上表示/下表示/非表示の順に切り換えます。情報の表示中はランプが点灯します。

⑪ SHUTTLE HOLD/－FOCUS＋（シャトルホールド/フォーカス）ボタンとインジケーター（緑）

このボタンを押してインジケーターを点灯させると、シャトルダイヤルによる変速再生の再生方向とスピードをロックすることができます。もう一度押すと、変速再生開始前のモードに戻ります。

◆詳しくは、「変速再生」（79ページ）をご覧ください。

ネットワーク接続されているときは、このボタンを押し続けることによって、接続を切ることができます。
また、設定メニューでセキュリティロックを設定している場合に3秒以上押すと、セキュリティロックモードに入ります（設定メニュー表示中、再生、静止画モード中を除く）。

カメラコントロール時は

PTZカメラのフォーカスを調整します（FOCUS）。

⑫ シャトルダイヤル（外側）

再生モード（▶PLAYボタンのインジケーターが点灯）または静止画モード（❚❚ PAUSEボタンのインジケーターが点灯）のときにシャトルダイヤルを回すと、ダイヤルの回転に応じた方向とスピードで再生されます。

◆詳しくは、「変速再生」（79ページ）をご覧ください。

モニター画面に表示されるメニュー画面では、このダイヤルを右に回すことによって選択・設定を確定させます。

⑬ ジョグダイヤル（内側）

再生モード（▶PLAYボタンのインジケーターが点灯）でジョグダイヤルを回すと、再生スピードを段階的に変更することができます。右回しで速くなり、左回しで遅くなります。
静止画モード（❚❚ PAUSEボタンのインジケーターが点灯）でジョグダイヤルを回すと、コマ送り再生されます。右に回すと順方向、左に回すと逆方向にコマ送りされます。

◆詳しくは、「変速再生」（79ページ）をご覧ください。

モニター画面に表示されるメニュー画面では、このダイヤルでカーソルの移動や値の設定を行います。

⑭ OUTPUT端子

AUDIO（音声）：モニターなどのAUDIO IN端子に接続します。
VIDEO（映像）：モニターなどのVIDEO IN端子に接続します。

⑮ コンパクトフラッシュスロット

コンパクトフラッシュにデータをコピーして保存することができます。
また、市販のCFカードアダプター（コンパクトフラッシュType II）を装着することによって、“メモリースティック”などにデータをコピーして保存することができるようになります。

⑯ ALARM（アラーム）インジケーター

アラーム記録実行中は赤で点滅し、プリアラーム記録実行中は赤で点灯します。記録が終わると消灯します。

◆アラーム記録、プリアラーム記録については「アラーム記録」（58ページ）をご覧ください。

⑰ FULL（記録領域フル）インジケーター

内蔵HDDの記録領域の残量が設定値（デフォルトは1%）以下になると赤で点滅し、残量が0になると赤で点灯します。

⑱ INPUT SELECTORボタンとインジケーター

ボタンを押すと、ボタンのインジケーターが点灯し、対応するカメラ入力端子1～16に接続されたカメラからの映像をモニターに表示します。
アラームが作動した場合やVIDEO LOSSのときに、インジケーターが点滅します。

⑲ AUDIO SWボタン

再生/LIVE時に、出力される音声チャンネルを切り換えます。
ボタンを押すごとにチャンネル1+2/切/1/2の順に切り換えます。

⑳ CAM CONT/ SHIFTボタン

ボタンを押すとインジケーターが点灯し、カメラコントロールモードになります。

◆詳しくは、「カメラをコントロールする」（87ページ）をご覧ください。

また、メニュー画面の拡張機能としても使用します。

㉑ COPY（コピー）ボタンとインジケーター（緑）

記録した映像を、内蔵HDDのアーカイブ領域や外部の記録媒体（コンパクトフラッシュ、CD-R/RW、DVD+R/+RW）にコピーするとき押します。インジケーターが点灯し、コピー操作画面に切り換わります。

◆詳しくは、「データの保存」（65ページ）をご覧ください。

㉒ D-ZOOM（ズーム）ボタンとインジケーター（緑）

モニター画面に表示されているカメラ画像や再生画像の一部を拡大して表示することができます。

拡大する範囲はジョグダイヤル／シャトルダイヤルで指定します。ズーム表示されている間は、D-ZOOMボタンのインジケーターが点灯します。もう一度押すと通常の画像サイズに戻ります。

◆詳しくは「画像の一部を拡大するには（ズーム）」（44ページ）をご覧ください。

㉓ SEQ（カメラ自動切り換え）ボタンとインジケーター

ボタンを押すとインジケーターが点滅し、自動切り換えモードになります。

フル画面表示のときは、1～16の各カメラの映像が順番に表示されます。4分割画面表示のときは、同様に4分割画面が順番に表示されます。（マルチ画面表示のときは、操作できません。）

切り換えの間隔は、メニューで設定することができます。

㉔ SEARCH/－IRIS＋（サーチ/アイリス）ボタン

記録モードまたは停止状態でこのボタンを押すと、再生する映像を検索（サーチ）するための画面に切り換わります。

サーチモードを解除するときは、もう1度SEARCHボタンを押します。

カメラコントロール時は

PTZカメラのアイリス（絞り）を調整します（IRIS）。

㉕ メニューリセットボタン

このボタンを押すと、現在表示されているメニューの全項目の設定が、工場出荷時のデフォルト状態に戻ります。

㉖ ENTERボタン

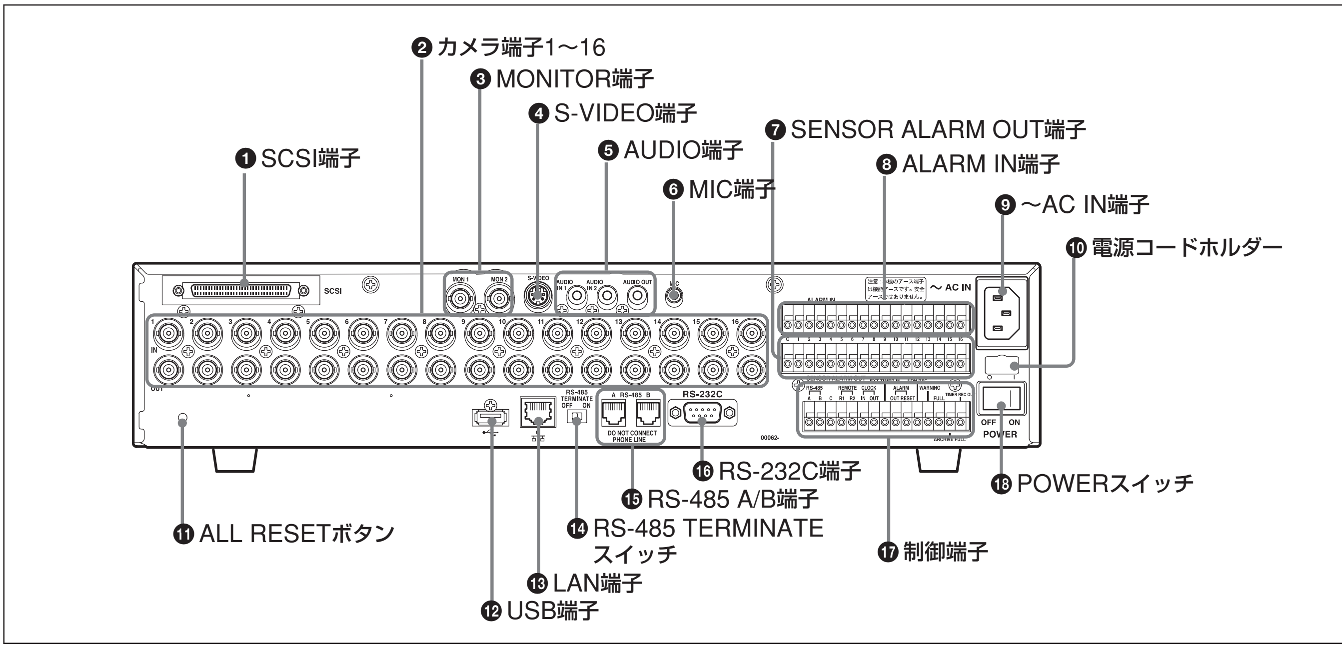
カメラコントロール時に、カメラの設定メニューの項目を設定します。

㉗ USB端子

CD-R/RW、DVD+R/+RWドライブを接続します。

前面のUSB端子と同時接続した場合は、前面のUSB端子が優先されます。

後面パネル



❶ SCSI端子

RAIDユニットをSCSI接続で増設するときに使用します。

❷ カメラ端子1～16（BNC型）（HSR-J2009は1～9）

IN（入力）：カメラを接続します。

OUT（出力）：対応するIN端子に接続されたカメラからの信号をそのまま出力します。

❸ MONITOR（モニター出力）端子（BNC型）

MON1（メインモニター用出力）：メインモニターにビデオ信号を出力します。モニターのビデオ入力に接続します。

MON2（モニター2用出力）：モニター2にビデオ信号を出力します。モニターのビデオ入力に接続します。ライブ画像のみ出力できます。再生画像は出力されません。

❹ S-VIDEO端子

メインモニター（MON1）と同じ映像を出力します。

❺ AUDIO（音声）端子（ピンジャック）

IN1、IN2（入力）：音声信号を入力します。MIC端子にマイクが接続されている場合には、マイク入力とAUDIO端子IN2入力の組み合わせとなります。

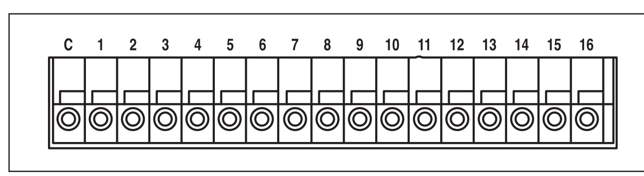
OUT（出力）：モニターなどのAUDIO IN端子に接続します。

❻ MIC（マイク）端子（モノラルミニジャック）

マイクを接続します。

❼ SENSOR ALARM OUT（センサーアラーム出力）端子

C端子はそれぞれのGND用です。



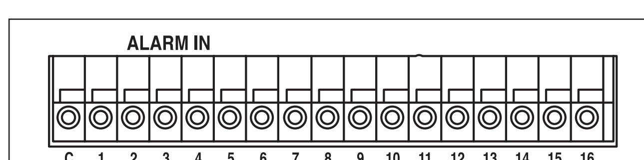
1～16端子（HSR-J2009は1～9）

各チャンネルのセンサーアラームが感応した場合に、各チャンネルにアラームを出力します。

◆詳しくは「アラーム信号を出力する」（22ページ）をご覧ください。

❽ ALARM IN（アラーム入力）端子

C端子はそれぞれのGND用です。



1～16端子（HSR-J2009は1～9）

アラームセンサーを接続し、外部アラーム信号を受信します。

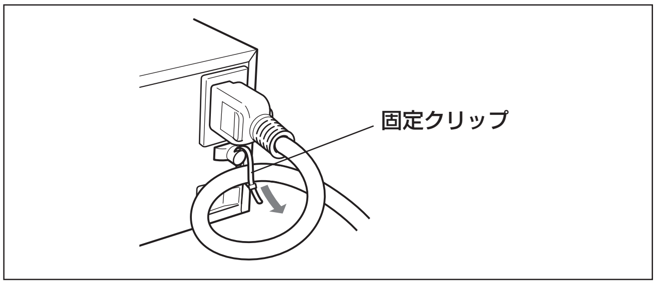
◆詳しくは「外部アラームセンサーを接続する」（22ページ）をご覧ください。

❾ ~AC IN（AC電源入力）端子

付属の電源コードでAC電源に接続します。

❿ 電源コードホルダー

付属の固定クリップを使って、図のように電源コードを固定します。



⓫ ALL RESET（オールリセット）ボタン

本機をリセット（リブート）します。リセットすると時刻が初期設定値に戻ります。

⓬ USB端子

CD-R/RW、DVD+R/+RWドライブを接続します。

前面のUSB端子と同時接続した場合は、前面のUSB端子が優先されます。

⓭ LAN端子（10Base-T/100Base-TX）

ネットワークを介して本機をコントロールするとき使用します。

⓮ RS-485 TERMINATEスイッチ

複数台の機器をRS-485コントロール端子から接続したときに使用します。

⓯ RS-485 A/B端子

リモートコントローラーを接続します。

ストレートケーブルを使用する場合はA端子に、クロスケーブルを使用する場合はB端子に接続します。

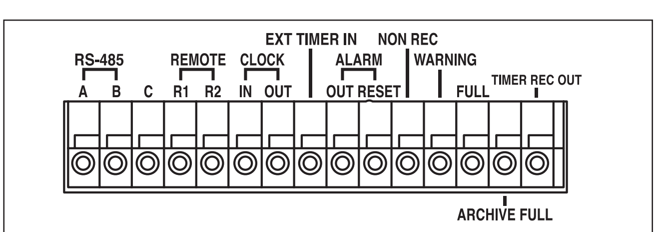
⓰ RS-232C端子

モデムを接続します。

⓱ 制御端子

各種制御信号の入出力用です。

C端子はそれぞれのGND用です。



RS485 A、RS485 B端子

PTZカメラを接続します。使用可能なPTZカメラについては、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

REMOTE R1、REMOTE R2端子

リモートコントロール用です。

CLOCK端子

外部スイッチなどを使って本機の時計を合わせたり、本機に接続した機器の時計を本機の時計に合わせて設定することができます。

IN：時計合わせ入力（無電圧メイク接点）。外部スイッチなどを接続します。

OUT：時計合わせ出力（オープンコレクタ/1kΩ）。メニューで設定した時刻になると、出力レベルが0Vになります。

◆接続については「時計を設定する」（31ページ）をご覧ください。

EXT TIMER IN端子

外部タイマー動作に設定されているとき、信号を受信すると録画を開始します。（無電圧メイク接点）

ALARM端子

OUT：アラーム信号を出力します。

RESET：アラームリセット信号を入力します。

NON REC端子

録画が中断すると、出力レベルが0Vになります。

WARNING端子

HDDやファンに異常があると、出力レベルが0Vになります。

FULL端子

内蔵HDDの記録領域の残量がメニューで設定した値より少なくなると、出力レベルが0Vになります。

ARCHIVE FULL端子

内蔵HDDのアーカイブ領域の残量がメニューで設定した値より少なくなると、出力レベルが0Vになります。

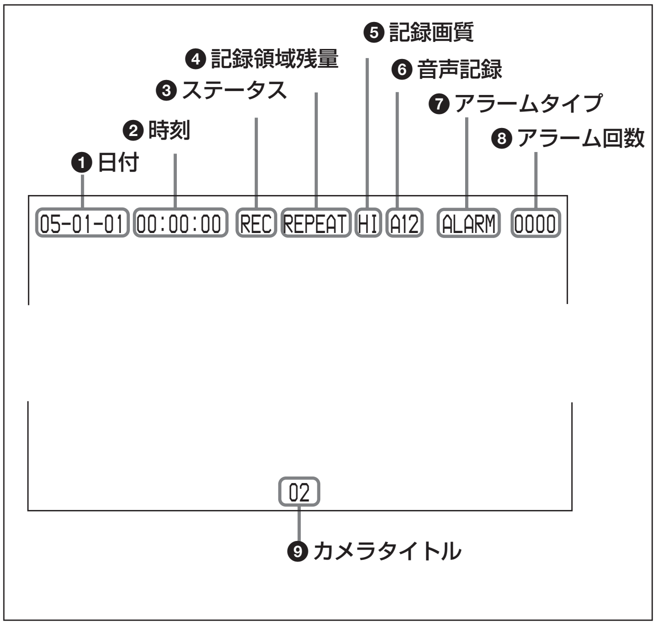
TIMER REC OUT端子

タイマー録画中、出力レベルが0Vになります。

⓲ POWER（電源）スイッチ

本機の電源を入/切します。

画面表示データ



前面パネルのEXIT/OSDボタンを押して、表示位置を切り換えたり、非表示にすることも可能です。

ステータス表示以外の表示は、メニュー操作で個別に入/切することもできます。

❶ 日付／❷ 時刻

記録および停止状態（カメラ入力画像モニター）時は、現在の日付および時刻を表示します。

再生中は、記録時の日付および時刻を表示します。

❸ ステータス

現在の動作モードを表示します。

REC：記録

EXT：外部タイマー記録

▶：順方向再生

◀：逆方向再生

❚❚：静止画

▶▶：順方向高速再生

◀◀：逆方向高速再生

❚❚▶：順方向スロー再生

◀❚❚：逆方向スロー再生

ご注意

記録と再生を同時に実行している場合は、▶ のみ表示されます。

❹ 記録領域残量

「記録設定」メニューで記録領域の上書き記録が「切」に設定されているときは、記録領域の残量（%）を表示します。

上書き記録実行中はREPEATが表示されます。

❺ 記録画質

記録モードおよび停止状態では、通常記録に設定されている記録画質を表示します。再生中は、記録時の記録画質を表示します。

❻ 音声記録

音声の記録/再生時に、“A”が表示されます。

さらに、AUDIO SWボタンで選択された出力音声が表示されます。

- “12”チャンネル1+2
- “1”チャンネル1
- “2”チャンネル2

❼ アラームタイプ

設定されているアラーム記録のタイプを表示します。

ALARM：通常のアラーム記録

PRE：プリアラーム記録

それぞれ対応するアラーム記録実行中は点滅します。

❽ アラーム回数

アラーム記録が行われると、その件数を表示します。9,999,999件を超えると0,000,000に戻ります。

❾ カメラタイトル

現在選択されているカメラの番号（タイトルが設定されている場合はタイトル）を表示します。

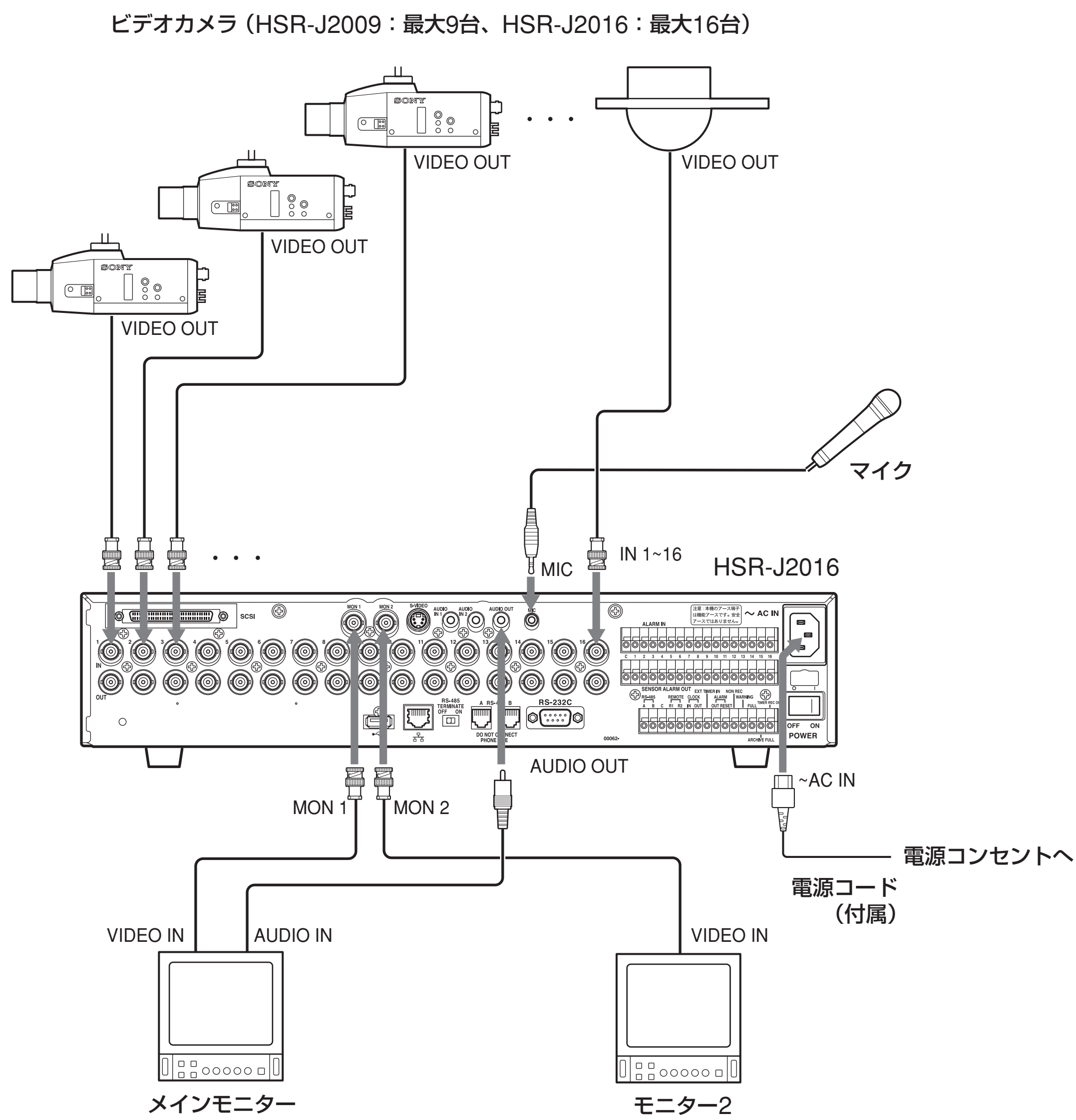
アラームが発生した場合は、左側でEA（外部アラーム受信時）またはSA（センサーアラーム受信時）が点滅します。

ディスクエラー表示

起動時または稼動中にHDDエラーを検出した場合は、“DISK ERROR”のエラーメッセージがモニターに表示され、前面パネルのPOWERインジケーターが点滅します。

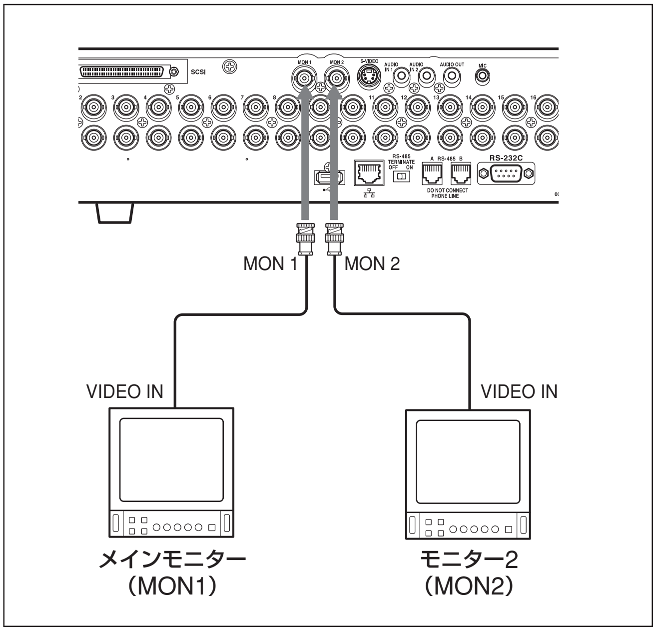
HDDエラーの場合には、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

基本接続例

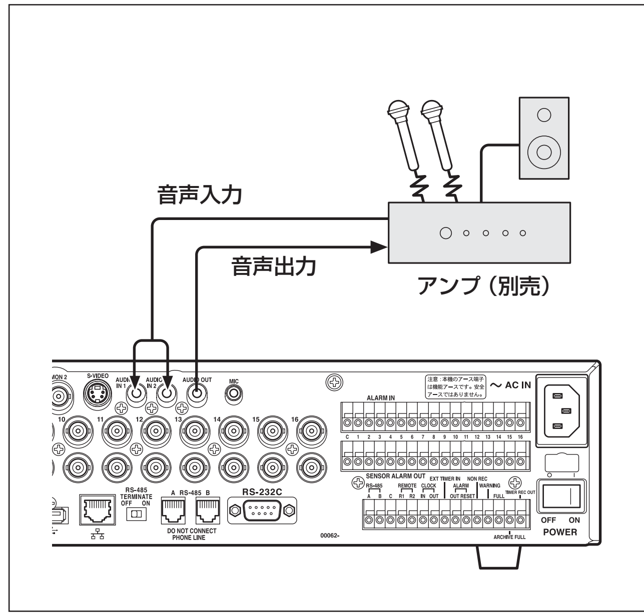


イラストはHSR-J2016のものです。
HSR-J2009の場合は、IN/OUT、ALARM IN、SENSOR ALARM OUT端子がそれぞれ9つになります。

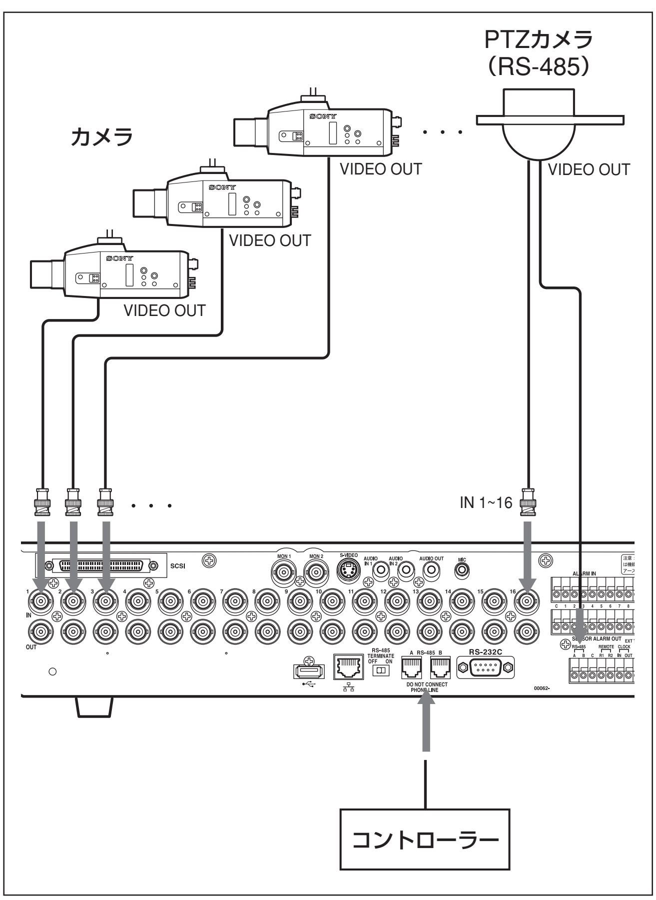
モニターの接続（メインモニター、モニター2）



Audio/マイクの接続



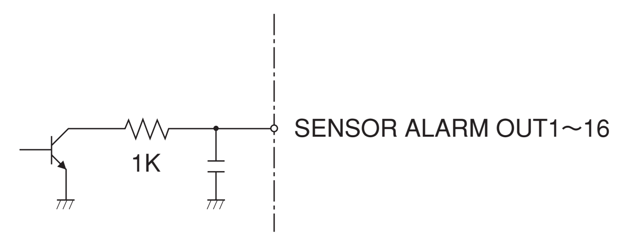
カメラの接続（カメラ、PTZカメラ）



アラーム信号の接続

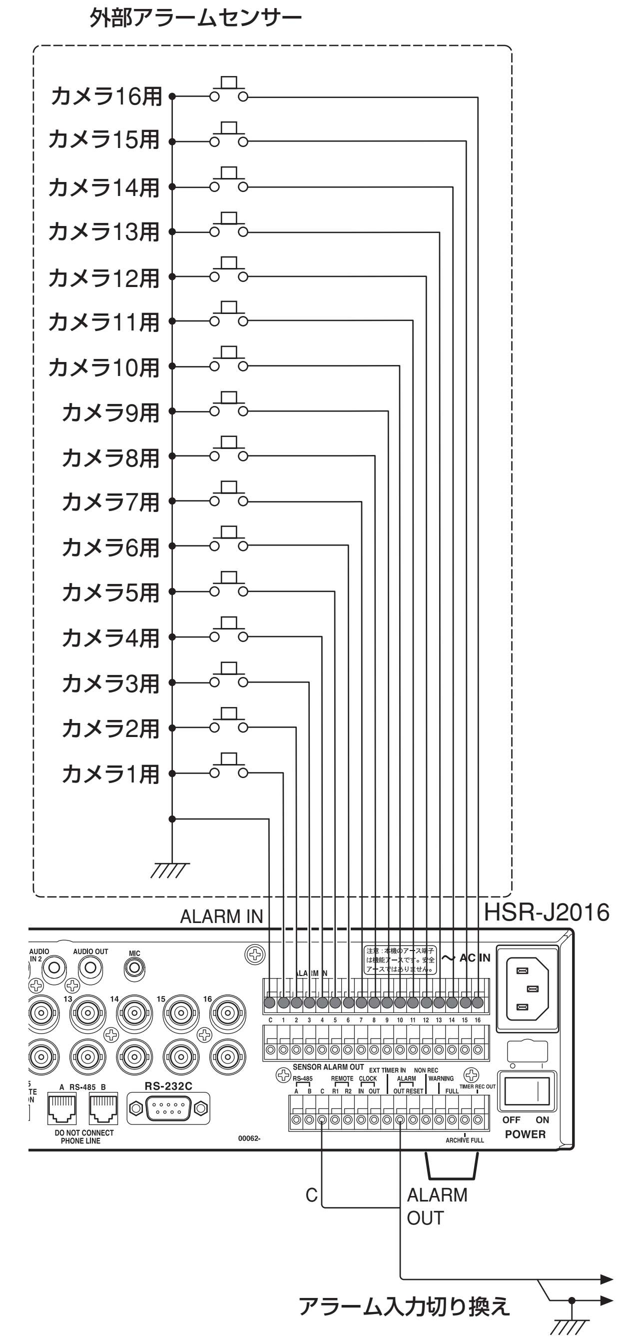
アラーム信号を出力する

インジケーターランプなどのスイッチ回路をSENSOR ALARM OUT端子に接続しておくと、本機内部のアラームセンサーがトリガーを送ったときに、ランプを点灯させるなどの表示を行うことができます。

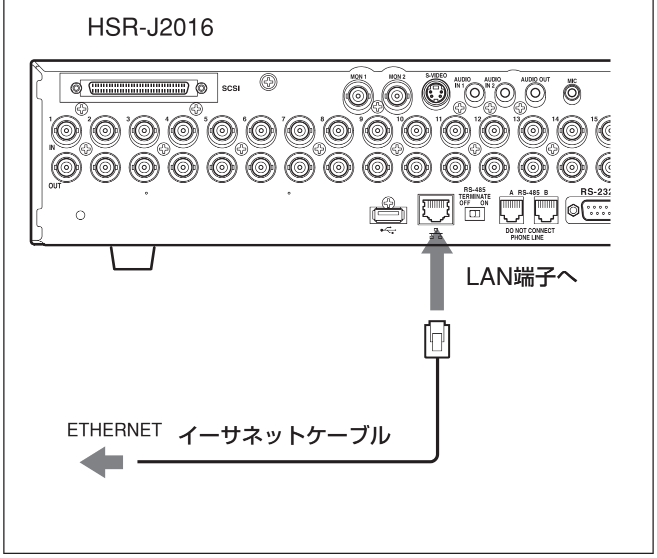


外部アラームセンサーを接続する

外部アラーム入力をアラーム記録のトリガーとして使用するときは、ドアベルやインターホンなどの外部アラームセンサーを接続します。



ネットワークへの接続


HSR-J2016
SCSI
MON 1
MON 2
S-VIDEO
AUDIO IN 1
AUDIO IN 2
AUDIO OUT
MIC
IN
OUT
RS-485 TERMINATE OFF ON
A RS-485 B
RS-232
DO NOT CONNECT PHONE LINE
LAN端子へ
ETHERNET
イーサネットケーブル

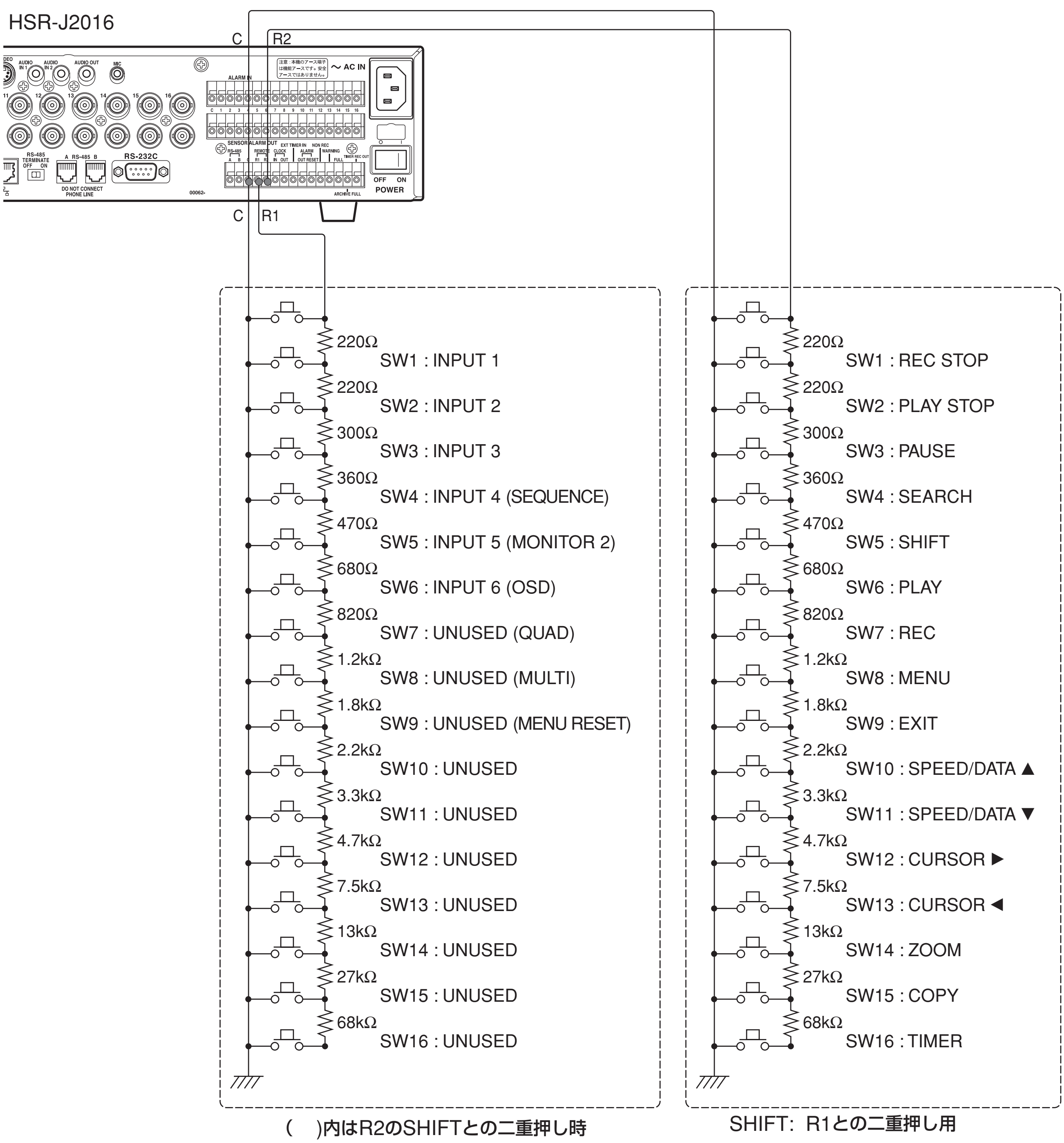
制御端子（R1、R2）の接続

制御端子（R1/R2）に接続した外部回路を介して本機をリモートコントロールすることができます。

接続例

リモートコントローラーを設置するときは、下記のような配線をしてください。入力はLOWに設定してください。

R1/R2端子への接続には、ツイストペアケーブルを使用します。



外部接続機器との接続

拡張RAIDユニットを接続する

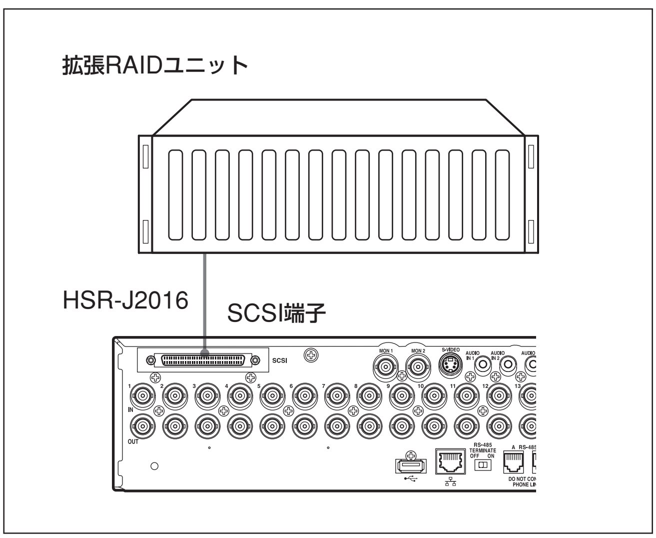
SCSI接続したRAIDユニットのハードディスクに画像を記録できます。

※接続可能なRAIDユニットについては、お買い上げ店にお問い合わせください。

ご注意

RAIDユニットの接続は、本機とRAIDユニットの電源を切った状態で行ってください。

1 後面パネルのSCSI端子にRAIDユニットを接続する。



2 RAIDユニットの電源を入れる。

3 本機の電源を入れる。

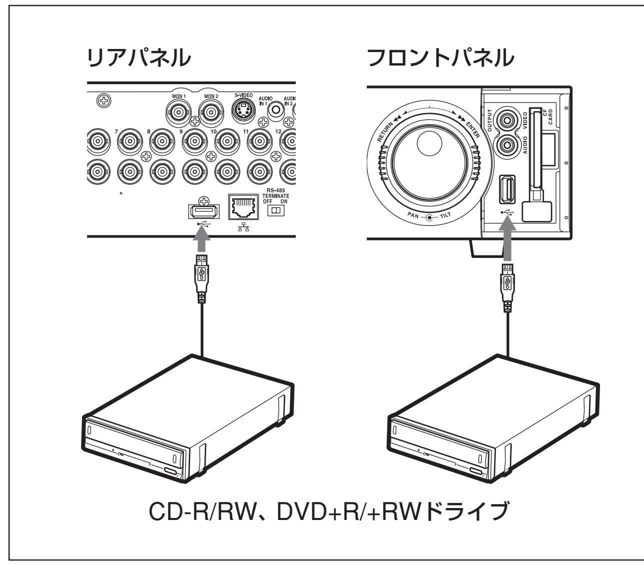
ご注意

- 本機に接続できるRAIDユニットは1台です。
- RAIDユニットを接続しているときは、本機のHDDに画像を記録できません。
- 本機の電源を先に入れた場合、RAIDユニットを認識できないことがあります。

CD-R/RW、DVD+R/+RWドライブを接続する

CD-R/RW、DVD+R/+RWドライブを接続して、本機の内蔵HDDに保存されているデータをメディアにコピーできます。

後面もしくは前面のUSB端子にCD-R/RW、DVD+R/+RWドライブを接続します。



◆データのコピーの方法については、「データをアーカイブ領域、コンパクトフラッシュ、CD-R/RW、DVD+R/+RWにコピーする」（65ページ）をご覧ください。

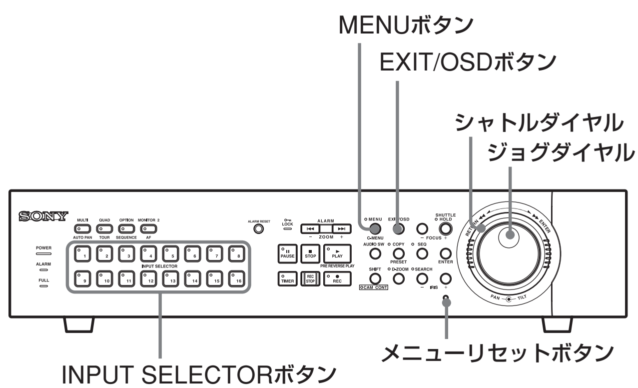
OSD基本操作

本機では、モニター画面に表示されるメニューを使用して、各種の設定を行います。

メニュー操作

ここではOSD（On-Screen Display）基本操作を、メニュー項目の設定を例にして説明します。

メニュー操作に使用するボタン/ダイヤル



SEARCHボタン、COPYボタンで表示されるメニューもあります。

◆これらのメニューについては、80ページおよび65ページをご覧ください。

メニュー操作を開始する

MENUボタンを押します。
モニター画面にメインメニューが表示されます。
一番上の行が反転表示されます。

＜メインメニュー＞
1. 初期設定 →
2. 記録設定 →
3. 一般設定 →
4. 画面設定 →
5. 停電情報/使用時間 →
6. 初期化履歴 →
7. ﾒﾆｭｰ設定ｺﾋﾟｰ →
8. 管理者用設定 →

ｼﾞｮｸﾞで移動、ｼｬﾄﾙで選択

カーソル（反転表示）を移動するには

ジョグダイヤルを回します。
右に回すと下へ、左に回すと上に移動します。

左回し ↑ ↓ 右回し

＜メインメニュー＞
1. 初期設定 →
2. 記録設定 →
3. 一般設定 →
4. 画面設定 →
5. 停電情報/使用時間 →
6. 初期化履歴 →
7. ﾒﾆｭｰ設定ｺﾋﾟｰ →
8. 管理者用設定 →

ｼﾞｮｸﾞで移動、ｼｬﾄﾙで選択

メニュー項目を選択するには

ジョグダイヤルでカーソルを合わせ、シャトルダイヤルを右に回します。
「1.初期設定」、「2.記録設定」、「3.一般設定」、「4.画面設定」、「8.管理者用設定」を選択したときは、それぞれのサブメニュー画面に切り換わります。
「5.停電情報/使用時間」、「6.初期化履歴」、「7.メニュー設定コピー」を選択したときは、それぞれの表示/設定画面に切り換わります。

サブメニューまたは設定画面からメインメニューに戻るには

シャトルダイヤルを左に回します。

別のメニュー項目のサブメニューまたは設定画面に移動するには

サブメニューまたは設定画面でMENUボタンを押します。
次のメニュー項目のサブメニューまたは設定画面に切り換わります。
例えば、「1.初期設定」のサブメニュー画面でMENUボタンを押すと、「2.記録設定」のサブメニュー画面に切り換わります。

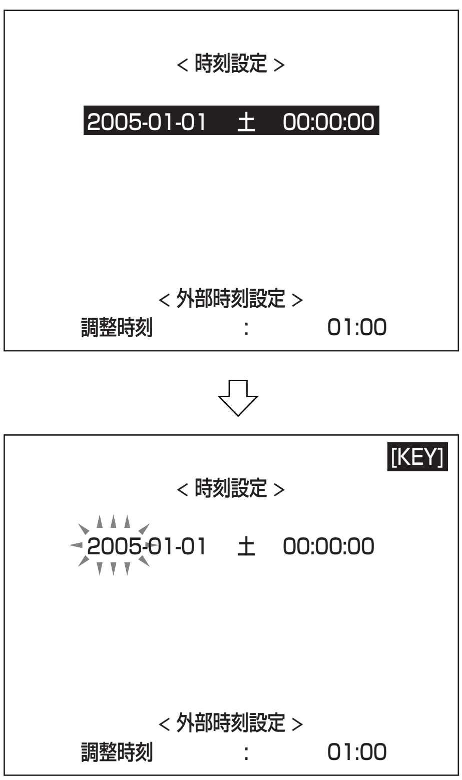
ご注意

- 再生中はMENUボタンを押してもメニュー画面は表示されません。
  メニューを設定するときは、再生を停止してください。
- 記録中にMENUボタンを押すとメニュー画面が表示され、設定されている内容を確認することができます。ただしメニュー画面の左上に●（記録マーク）が表示され、設定を変更することはできません。メニューを設定するときは、記録を停止してください。

メニューを設定する

1 反転表示されている項目を設定するときは、そのままシャトルダイヤルを右に回す。
または、ジョグダイヤルを回して設定したい項目を反転表示させてから、シャトルダイヤルを右に回す。

現在の設定が点滅します。(設定できる欄が1行に複数ある場合は、最初の欄が点滅します。)



2 ジョグダイヤルを回して、点滅している行または欄の設定を変更する。

ジョグダイヤルを回すと、点滅している行または欄に設定できる値が順番に表示されます。

設定画面右上に［KEY］が表示されているときは

数値を直接入力できる項目を選択すると、画面右上に［KEY］が表示されます。
1～9のINPUT SELECTORボタンが、1～9の数値入力ボタンとして機能します。また、MULTI、QUAD、OPTION、MONITOR2ボタンが、いずれも0（ゼロ）入力ボタンとして機能します。さらに、HSR-J2016では、10のINPUT SELECTORボタンも0（ゼロ）入力ボタンとして機能します。
ジョグダイヤルを回す代わりに、これらのボタンを押して数値を設定することができます。

3 希望の値が表示されたら、シャトルダイヤルを右に回す。

設定できる欄が1行に複数ある場合は、次の欄が点滅します。それぞれ順番に同じ方法で設定します(シャトルダイヤルを左に回すと左または上に戻ります)。

1行の設定が終わると次の行にカーソルが移動します。

メニューの設定をすべてデフォルトに戻すには

穴にピンなどを差し込み、メニューリセットボタンを押します。モニターに表示されているメニュー項目の設定がすべて工場出荷時の状態に戻ります。

MENUモードから抜けるには

EXIT/OSDボタンを押します。

メニュー設定の保存

メニューモードで設定した値は、データとしてコンパクトフラッシュに保存し、必要に応じて復元することができます。

◆操作については、「メニュー設定の保存/復元をする場合」(41ページ)をご覧ください。

メニュー構成

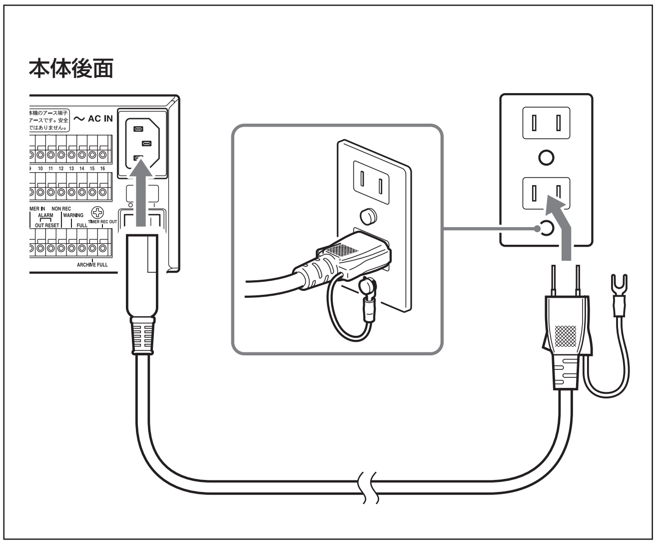
メインメニュー	サブメニュー		設定項目		設定値
1. 初期設定	1. 時刻設定		時刻設定		yyyy-mm-dd/hh:mm:ss
			外部時刻設定		hh:mm
	2. カメラ検出		―		→カメラ検出を実行
	3. タイトル設定		カメラ1〜16		10桁のカメラタイトル
	4. 休日設定		1〜20		mm-dd
	5. 時刻周期設定		時刻周期	時刻周期A	T-1/T-2/T-3/T-4の時刻設定 hh:mm
				時刻周期B	T-1/T-2/T-3/T-4の時刻設定 hh:mm
			時刻周期の選択		自動切換A/B、マスクA/B、アクティビティ/ROIセンサーA/B
	6. プリリバース		プリリバース再生時間		n 分（n = 1〜99）
2. 記録設定	1. 簡易記録設定	1	記録日数、タイマー記録、記録画質、音声記録、記録カメラ台数、記録レート		
		2	記録レート、タイマー記録、記録画質、音声記録、記録カメラ台数、記録日数		
	2. 記録領域設定		記録領域		n %、記録再開許可
			アーカイブ領域		n %、記録再開許可
	3. 記録条件設定		通常記録領域/上書き記録		入/切
			アーカイブ領域/記録モード		手動保存/自動アラーム保存
			ディスク残量警告		n %（n = 1〜10）
			記録保存制限		n 日/切（n = 1〜99）
	4. 通常記録設定		記録画質		HYPER/SUPER/HIGH/MID/LOW/INDIV.
			記録画質設定		→＜記録画質設定＞画面を表示
			音声記録		入/切
			記録レート		n FPS
			プログラム記録		切/P-1/P-2/P-3/P-4
	5. プログラム記録設定		P-1/P-2/P-3/P-4		n FPS
	6. タイマー設定		曜日/外部アラーム		日/月/火/水/木/金/土/毎日/外部アラーム
			開始		hh:mm
			終了		hh:mm
			プログラム		切/P-1/P-2/P-3/P-4
			FPS		n FPS
	7. アラーム記録設定		アラーム記録		入/タイマー中アラーム/タイマー外アラーム/ タイマー中アラームのみ/切
			記録画質		HYPER/SUPER/HIGH/MID/LOW/INDIV.
			記録画質設定		→＜記録画質設定＞画面を表示
			音声記録		入/切
			記録パターン		ONLY/SW
			記録レート		n FPS
			持続時間		5秒/10秒/20秒/40秒/1分/2分/3分/4分/5分/10分/ 15分/CC/INDIV.
			プリアラーム記録		入/切
			記録レート		n FPS
			持続時間		5秒/10秒/20秒/40秒/1分/2分/3分/4分/5分/10分/15分
			アラームトリガー		アラーム/センサー/アラームANDセンサー/ アラームORセンサー
			アクティビティセンサー		→アクティビティセンサー設定画面を表示

メインメニュー	サブメニュー	設定項目	設定値
2. 記録設定	8. アラーム動作/表示設定	アラームリトリガー	入/切
		メインモニター表示	1画面/9画面/16画面/NC
		複数アラーム時表示	ラスト/トップ/切換
		モニター2表示	1画面/9画面/16画面/NC
3. 一般設定	1. データ表示/VIDEO LOSS設定	日付	入/切
		時刻	入/切
		記録画質	入/切
		音声	入/切
		アラーム回数	入/切
		アラームタイプ	入/切
		タイトル	入/切
		VIDEO LOSS	入/切
		出力選択	録画停止/VIDEO LOSS
	2. ブザー設定	アラーム入力	入/切
		ディスク残量警告	入/切
		ディスクエラー	入/切
		ロック警告	入/切
		キーイン	入/切
		録画停止(またはVIDEO LOSS)	入/切
	3.セキュリティーロック設定	ロックモード	キー/パスワード/ネットワーク
		ロック対象外レベル	レベル1/レベル1、2/レベル1、2、3/切
		操作権限	ノーマル/変更
		コピー操作権限	レベル2.3.4/レベル3.4/レベル4
		カメラコントロール権限	レベル2.3.4/レベル3.4/レベル4
		ユーザID設定	→ ＜ユーザID設定＞画面を表示
	4. RS-232C/RS-485設定	コントロール	RS-232C/RS-485
		データスピード	2400/4800/9600/19200
		ステータス	入/切
		アラーム	入/切
		アドレス	000～127
	5. ハードディスク設定	初期化	→ 初期化を実行
		ミラーリング	入/切
		再生用ディスク	マスター/スレーブ
	6. ネットワーク設定	DHCP	入/切
		IPアドレス	システムに合わせて設定
		サブネットマスク	
		ゲートウェイ	
		ポート	1～65535
		ネットワークスピード	制限なし/1024Kbps/512Kbps/256Kbps/128Kbps/64Kbps
		DNS設定	→＜DNS設定＞画面を表示
		MACアドレス	
	7. ネットワーク操作設定	ネットワーク操作	入/切
		接続表示	入/切
		操作権限	ノーマル/変更
		コピー/ダウンロード操作権限	レベル3.4/レベル4
		カメラコントロール権限	レベル2.3.4/レベル3.4/レベル4
		ユーザID設定	→ ＜ユーザID設定＞画面を表示

メインメニュー	サブメニュー	設定項目	設定値
4. 画面設定		1. 分割画面表示ポジション	ノーマル/変更
		4画面表示ポジション設定	→ <4画面表示ポジション設定>画面を表示
		9画面表示ポジション設定	→ <9画面表示ポジション設定>画面を表示
		16画面表示ポジション設定	→ <16画面表示ポジション設定>画面を表示
		2. 画面自動切換周期	n 秒/カメラ毎（n = 1〜30）
		メインモニター/ モニター2 モニター設定	→ <メインモニター/ モニター2 設定>画面を表示
		3. マスク	入/切
		マスク設定	→ <マスク設定>画面を表示
		4. カラーレベル設定	→ <カラーレベル設定>画面を表示
5. 停電情報/使用時間		停電情報	表示のみ
		使用時間	→ <使用時間>画面を表示
6. 初期化履歴		日時、領域、操作、ユーザ	表示のみ
7. メニュー設定コピー		メニューをコンパクトフラッシュにセーブ	→ セーブを実行
		メニューをコンパクトフラッシュからロード	→ ロードを実行
		ユーザID設定のコピー	はい/いいえ
		記録領域設定のコピー	はい/いいえ
8. 管理者用設定	ROI設定	固定領域1〜3	入/切
		アクティブROI	入/切
		対応記録モード	通常記録/アラーム記録/通常/アラーム
		領域/感度設定	→ <領域/感度設定>画面を表示
	アラーム通知設定	アラーム通知	入/切
		SMTPサーバアドレス	
		ユーザメールアドレス	
		送信先メールアドレス	→ <送信先メールアドレス>画面を表示
		コメント	
		認証設定	
		POP3サーバアドレス	
		ユーザID	
		パスワード	
	カメラコントロール設定	プロトコル	切/RS485/422
		アドレス	000〜127
		RS-485/422プロコトル	切/MIKAMI/ELMO
	PPP設定	ダイヤルアップ	入/切
		ダイヤルアップ設定	→ <ダイヤルアップ設定>画面を表示
		ダイヤルイン	入/切
		ダイヤルイン設定	→ <ダイヤルイン設定>画面を表示
		電話回線タイプ	
		モデム：初期化コマンド	
		通信速度	
		データサイズ	
		パリティ	
		ストップビット	
	NTP設定	NTPサーバ同期	入/切
		NTPサーバアドレス	
		同期時刻	hh:mm

電源を入れる

付属の電源コードを接続し、本機後面の電源スイッチをONにする。



本機前面のPOWER LEDが緑色になります。

時計を設定する

内蔵の時計を設定します。
設定は、メインメニュー「1.初期設定」のサブメニュー「1. 時刻設定」で行います。

内蔵の時計を設定するには

1 メインメニューから「1.初期設定」を選択する。

2 サブメニュー「1. 時刻設定」を選択する。

3 ジョグダイヤルを回して「時刻設定」にカーソルを合わせ、シャトルダイヤルを右に回す。

左端の年設定欄が点滅します。



4 ジョグダイヤルを回して、年を選択し、シャトルダイヤルを右に回す。

右の月設定欄が点滅します。

5 同様に月、日、時、分の順番で設定する。

曜日は自動的に設定されます。
秒は、分を設定した時点で0リセットされます。

設定が終わったら

EXIT/OSDボタンを押してメニューモードを解除します。

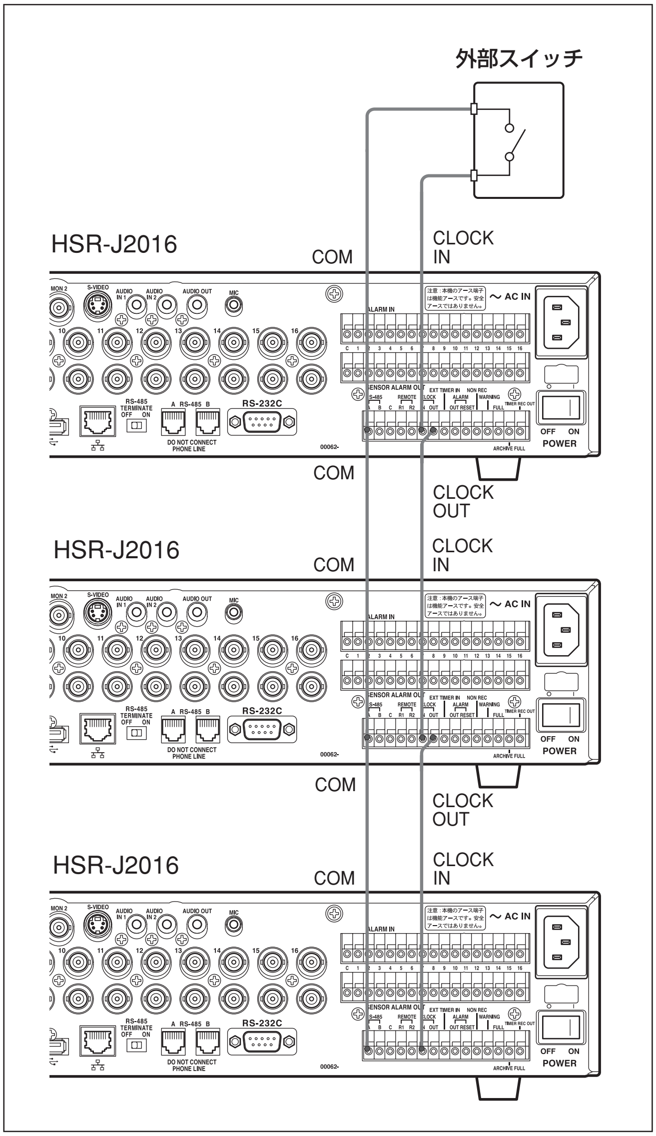
CLOCK OUT/CLOCK IN端子を使用して時刻を合わせるには

後面パネルのCLOCK OUT/CLOCK IN端子を使用して時刻合わせを行いたいときは、「外部時刻設定」の「調整時刻」を設定します。
ここで設定した時刻になると、CLOCK OUT端子の出力が0Vになります。
また、CLOCK IN端子がGNDに落ちる（C端子とショートする）と、内蔵時計がここで設定された時刻に設定され、同時にCLOCK OUT端子の出力が0Vになります。

設定が終わったら

EXIT/OSDボタンを押してメニューモードを解除します。

接続例: 外部スイッチを使用する場合



時間帯（時刻周期）を設定する

1日をT1～T4の4つの時間帯（例: 朝、昼、夜、真夜中）に分割して、画像の自動切り換え、マスク、アクティビティーディテクションセンサーを動作させる時間帯を設定することができます。
時間帯は、A、Bの2種類の設定が可能です。
設定は、メインメニュー「1.初期設定」のサブメニュー「5.時刻周期設定」で行います。

1 メインメニューから「1.初期設定」を選択する。

2 サブメニュー「5.時刻周期設定」を選択する。

<時刻周期設定>画面になります。

< 時刻周期設定 >

時刻周期	T-1	T-2	T-3	T-4
時刻周期 A	00:00	00:00	00:00	00:00
時刻周期 B	00:00	00:00	00:00	00:00

時刻周期を選択

自動切換	時刻周期 A
ﾏｽｸ	時刻周期 A
ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨｰ/ROI ｾﾝｻｰ	時刻周期 A

3 時間帯を設定する

1) 時刻周期Aを選択し、シャトルダイヤルを回す。

T1の左2桁が点滅します。

2) ジョグダイヤルを回して、時間帯T1の開始時刻の時の値（24時間表示）を設定し、シャトルダイヤルを回す。

T1の分の桁が点滅します。

3) ジョグダイヤルを回して、時間帯T1の開始時刻の分の値を設定し、シャトルダイヤルを回す。

T2の左2桁が点滅します。

4) 同様にT2、T3、T4の開始時刻を順番に設定する。

時刻周期BのT1～T4を同様に設定します。

4 自動切換（47ページ）、マスク（47ページ）、アクティビティーディテクションセンサー（59ページ）に適応する時刻周期（AかB）をそれぞれ指定する。

ご注意

- T1＜T2＜T3＜T4となるように設定してください。
- T2を「00:00」に設定した場合は、T3、T4も「00:00」にしか設定できません。
  同様にT3を「00:00」を設定した場合は、T4も「00:00」にしか設定できません。
- 初期設定のように、すべてが「00:00」に設定されている場合は、T2～T4は未設定とみなされ、T1のみが「00:00～00:00」(全日)されていることになります。

例：

< 時刻周期設定 >

時刻周期	T-1	T-2	T-3	T-4
時刻周期 A	06:00	12:00	18:00	22:00
時刻周期 B	08:00	20:00	00:00	00:00

時刻周期を選択

自動切換	時刻周期 A
ﾏｽｸ	時刻周期 A
ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨｰ/ROI ｾﾝｻｰ	時刻周期 B

上記の設定では、各時間帯は以下のようになり、「自動切換」と「マスク」については時刻周期Aが適用され、「アクティビティ/ROIセンサー」については時刻周期Bが適用されます。

時刻周期A	T1	06:00～12:00
	T2	12:00～18:00
	T3	18:00～22:00
	T4	22:00～06:00
時刻周期B	T1	08:00～20:00
	T2	20:00～08:00
	T3	未設定
	T4	未設定

設定が終わったら

EXIT/OSDボタンを押してメニューモードを解除します。

ハードディスクの初期化とミラーリングの設定

ハードディスクの初期化

ハードディスクの初期化は、必要に応じてメインメニュー「3. 一般設定」のサブメニュー「5. ハードディスク設定」で行います。

◆メニュー操作について詳しくは、「メニュー操作」（26ページ）をご覧ください。

< ﾊｰﾄﾞﾃﾞｨｽｸ設定 >

ﾃﾞｨｽｸ1　：250GB NEW　ﾃﾞｨｽｸ2　：250GB NEW

初期化　➔

警告：記録済み情報は全て消去されます

ﾐﾗｰﾘﾝｸﾞ　：　切

再生用ﾃﾞｨｽｸ　：　＊＊＊

注意：ﾐﾗｰﾘﾝｸﾞを入にすると
記録可能速度が制限されます。

「初期化」にカーソルを合わせ、シャトルダイヤルを右に回します。確認メッセージが表示されます。

初期化が始まります。

初期化が終わると、ディスクの容量が表示されます。

ミラーリングの設定

HDDが2台搭載されている場合、両方のハードディスクに同じデータを記録する「ミラーリング」を設定することも可能です。

ミラーリング： ミラーリング記録するときは「入」に設定します。

再生用ディスク： ミラーリング記録されたデータを再生するとき、どちらのHDDから読み出すかを指定します。

ご注意

- ミラーリング記録では、「ミラーリング」欄を「入」に設定すると、最高記録レートが60FPSに制限されます。また、それに伴い記録可能時間が変更される場合がありますので、メニューの「通常記録設定」と「アラーム記録設定」で記録可能な時間とアラーム回数を確認してください。
- RAIDユニット接続時は、「ミラーリング」欄を「切」に設定してください。

記録領域を設定する

記録領域、アーカイブ領域には、デフォルトでそれぞれ80%、20%の領域が割り当てられています。
割り当てを変更したり、領域全体をリセットすることができます。また、記録領域では、ハードディスクがいっぱいになったときに記録を中止するか、上書きするかを選択することもできます。

記録領域を変更するには

それぞれの領域をメインメニュー「2. 記録設定」のサブメニュー「2. 記録領域設定」で変更することができます。

ご注意

領域を変更すると、それ以前の記録は失われます。

1 メインメニューから「2. 記録設定」を選択する。

2 サブメニュー「2. 記録領域設定」を選択する。

＜記録領域設定＞画面になり、現在の設定が表示されます。

```
< 記録領域設定 >
全容量              :  250GB
    内部ﾊｰﾄﾞﾃﾞｨｽｸ    :  250GB

記録領域            :  97%
    記録再開許可    ➔
ｱｰｶｲﾌﾞ領域          :  3%
    記録再開許可    ➔

警告：設定を変更するとすべての内容が
      初期化されます。
```

3 ジョグダイヤルを回して変更したい領域にカーソルを合わせ、シャトルダイヤルを右に回して選択を確定する。

現在の値が点滅します。

4 ジョグダイヤルを回して希望の値に設定し、シャトルダイヤルを右に回して設定を確定する。

記録領域には99%までの値を設定できます。
アーカイブ領域の容量は、記録領域の設定に応じて自動的に算出されます（1～99%）。

確認メッセージが表示されます。

5 領域変更を実行するときは「はい」を選択して、シャトルダイヤルを右に回す。

取り消すときは「いいえ」を選択します。

記録領域をリセット（記録再開許可）するには

それぞれの領域をリセットすることができます。

ご注意

記録領域は、上書き記録が「切」になっている場合にのみリセットできます（上書き記録については次項参照）。
特定のデータのみを削除することはできません。

1 記録領域設定画面でリセットしたい領域の「記録再開許可」にカーソルを合わせ、シャトルダイヤルを回す。

確認メッセージが表示されます。

2 リセットを実行するときは「はい」を選択して、シャトルダイヤルを右に回す。

取り消すときは「いいえ」を選択します。

記録領域に上書きするには

記録領域では、ハードディスクがいっぱいになったときに記録を中止するか、上書きするかを選択できます。
設定は、メインメニュー「2. 記録設定」のサブメニュー「3. 記録条件設定」で行います。
この画面では、記録領域の残量が少なくなったときのアラームの設定も行います。

1 メインメニューから「2. 記録設定」を選択する。

2 サブメニュー「3. 記録条件設定」を選択する。

＜記録条件設定＞画面になり、現在の設定が表示されます。

```
< 記録条件設定 >
通常記録領域
    上書き記録      :  入
ｱｰｶｲﾌﾞ領域
    記録モード      :  手動保存

ﾃﾞｨｽｸ残量警告       :  1%

記録保存制限        :  切
```

3 ジョグダイヤルを回して「上書き記録」の行にカーソルを合わせ、シャトルダイヤルを右に回す。

現在の設定（デフォルト：切）が点滅します。

4 上書きするときは「上書き記録」を「入」に設定して、シャトルダイヤルを右に回す。

残量警告の容量を変更するには

「上書き記録」が「切」のときは、記録領域の残量が設定した値以下になると、前面のFULLまたはALARMインジケーターが点滅し、後面のFULLまたはARCHIVE FULL端子からアラーム信号が出力されします。
設定は、記録設定画面で行います。

1 ジョグダイヤルを回して「ディスク残量警告」の行にカーソルを合わせ、シャトルダイヤルを右に回す。

現在の設定（デフォルト：1）が点滅します。

2 ジョグダイヤルを回して希望の値に設定し、シャトルダイヤルを右に回す。

デフォルトの1%から最大10%までの範囲で変更することができます。

アーカイブ領域に自動保存するには

「アーカイブ領域」の「記録モード」で「自動アラーム保存」を選択すると、通常記録領域とアーカイブ記録領域に同時にアラーム記録を行います。

1 ジョグダイヤルを回して「記録モード」の行にカーソルを合わせ、シャトルダイヤルを右に回す。
現在の設定（手動保存）が点滅します。

2 ジョグダイヤルを回して「自動アラーム保存」を設定し、シャトルダイヤルを右に回す。

ご注意

- 「自動アラーム保存」設定を行うと、最大記録レートが半分になります。
- 「手動保存」から「自動アラーム保存」に設定変更すると、HDDの初期化を行います。

設定が終わったら

EXIT/OSDボタンを押してメニューモードを解除します。

記録保存制限機能

記録した画像の再生可能日数を制限することができます。
例えば、記録保存制限の日数を90日に設定した場合、90日より前に記録した画像は再生できなくなります。
記録保存制限は、1日から99日の範囲で設定できます。
設定は、「記録条件設定」画面で行います。

記録保存日数を制限するには

1 MENUボタンを押して、メインメニュー画面を表示させる。

2 ジョグダイヤルで「2. 記録設定」を選択し、シャトルダイヤルを右に回し、「記録設定」メニューを表示させる。

< 記録設定 >
1. 簡易記録設定 →
2. 記録領域設定 →
3. 記録条件設定 →
4. 通常記録設定 →
5. ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ記録設定 →
6. ﾀｲﾏｰ設定 →
7. ｱﾗｰﾑ記録設定 →
8. ｱﾗｰﾑ動作/表示設定 →

ｼﾞｮｸﾞで移動、ｼｬﾄﾙで選択

3 ジョグダイヤルで「3. 記録条件設定」を選択し、シャトルダイヤルを右に回す。
「記録条件設定」画面が表示されます。

< 記録条件設定 >
通常記録領域
　上書き記録 ： 入
ｱｰｶｲﾌﾞ領域
　記録モード ： 手動保存

ﾃﾞｨｽｸ残量警告 ： 1%

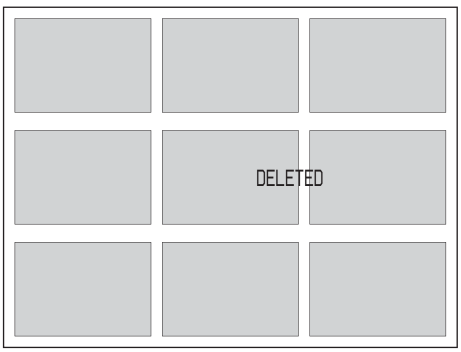
記録保存制限 ： 切

4 ジョグダイヤルで記録保存制限を1日から99日の範囲で設定し、シャトルダイヤルを右に回す。

記録保存日数が経過すると

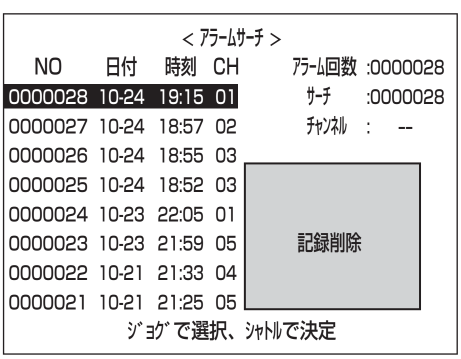
再生モードでは

設定した日数より前に記録された画像は、見ることができなくなり、音声もミュートされます。ただし、上書きされない限り時間情報は残っていますので、再生ボタンを押すと再生モードに移行します。この場合、下記のように画面中央付近に「DELETED」と表示され、画像は再生されません。



サーチモードでは（アーカイブ領域サーチを除く）

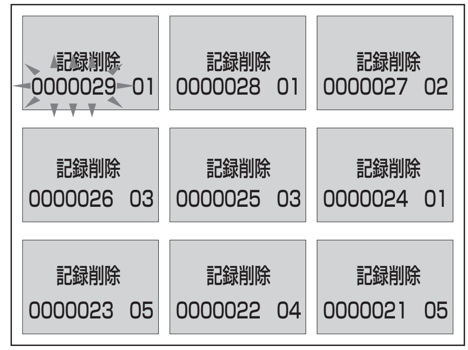
アラームサーチの場合も、上書きされない限りはアラームリスト情報が残っているため、下記のようにリストが表示されますが、プレビュー画像は表示されず、中央付近に「記録削除」が表示されます。



シャトルを右に回すと選択されたイベントが再生モードに移行しますが、再生ボタンを押したときと同様に、画像は再生されず、音声はミュートされます。

アラームサムネイルサーチ、日時サーチ、アクティビティーディテクションサーチにおいても同様です。

例：アラームサムネイルサーチ



ただし、アーカイブ領域サーチにおいては、記録保存制限が適用されませんので、設定した日数より以前に記録された画像も再生されます。

ご注意

ネットワーク接続

ネットワーク接続においても、本体の動作と同様になります。

一旦マスキングされると

一旦マスキングされた画像や音声は、記録保存制限の設定を変更しても再生することはできません。また、メモリースティックなどへのコピーもできません。

電源が切られた場合の影響

電源を切にしたり、停電になるなど、無通電の状態が発生すると、保存される画像や音声が記録保存制限の日数より、短くなる可能性があります。1回につき、最大10分短くなる可能性があります。

カメラの設定

カメラを検出する

メインメニュー「1. 初期設定」のサブメニュー「2. カメラ検出」で、カメラ検出機能を実行することによって、接続されていないカメラ入力に対する設定を自動的に「切」にすることができます。

1 メインメニューから「1. 初期設定」を選択する。

2 サブメニュー「2. カメラ検出」を選択し、シャトルダイヤルを回す。

確認メッセージが表示されます。

3 「はい」を選択し、シャトルダイヤルを右に回す。

カメラの検出が実行されます。

終了すると、設定で接続されていないカメラに対する自動切換時の表示（47ページ）などの初期設定が「切」になります。

タイトルを設定する

カメラごとに設置場所（例：ROOM1、ROOM2）などを表示するためのタイトル（最大10文字）を設定できます。

タイトルに使用できる文字

アルファベット：A～Z
数字：　0～9
記号：　-（ハイフン）、：（コロン）、.（ピリオド）、/（スラッシュ）、*（アステリスク）、スペース

ご注意

モニター2の9画面表示では8文字、16画面表示では6文字しか表示されません。

1 メインメニューから「1. 初期設定」を選択する。

2 サブメニュー「3.タイトル設定」を選択し、シャトルダイヤルを回す。

カメラ画像のフル画面表示に切り換わり、タイトル設定のための文字列がスーパーインポーズされます。
（表示されているカメラのタイトルを設定するときは、手順**4**に進む。）

3 INPUT SELECTORボタンを押して、設定するカメラの画像に切り換える。

4 シャトルダイヤルを右に回す。
カーソルが点滅して、文字が入力できる状態になります。

5 ジョグダイヤルでカーソル位置の文字を選択し、シャトルダイヤルを右に回す。

カーソルが次の位置に移動します。

6 同様に順次文字列を設定する。

7 カメラごとに手順**3**～**6**を繰り返す。

設定が終わったら

EXIT/OSDボタンを押してメニューモードを解除します。

ネットワークの設定

後面パネルのLAN端子を使ってネットワークに接続します。

設定

設定は、メインメニュー「3.一般設定」のサブメニュー「6.ネットワーク設定」と「7.ネットワーク操作設定」で行います。

◆メニュー操作について詳しくは、「メニュー操作」（26ページ）をご覧ください。

```
< ﾈｯﾄﾜｰｸ設定 >
DHCP          :  入
IP ｱﾄﾞﾚｽ       :    0.  0.  0.  0
ｻﾌﾞﾈｯﾄﾏｽｸ      :    0.  0.  0.  0
ｹﾞｰﾄｳｴｲ        :    0.  0.  0.  0
ﾎﾟｰﾄ           :  00080
ﾈｯﾄﾜｰｸｽﾋﾟｰﾄﾞ    :  制限なし
DNS設定           ➔

MAC ｱﾄﾞﾚｽ      :
```

DHCP： 本機のIPアドレスをDHCPサーバから自動取得するか固定にするかを設定します。インターネット接続業者またはLAN内のDHCPサーバからIPアドレスを自動取得する場合は“入”、本機に固定IPアドレスを設定する場合は“切”に設定します。

IPアドレス： “DHCP”で“切”を選択した場合に設定できます。一般的に、LAN内で固定IPアドレスを設定する場合は、プライベートIPアドレスを設定します（例：192.168.0.0～192.168.255.255など）。
なお、IPアドレスは他の機器と重複しないようにご注意ください。

サブネットマスク： “DHCP”で“切”を選択した場合に設定できます。一つのLAN内では同じ値を設定します。

ゲートウェイ： “DHCP”で“切”を選択した場合に設定できます。LANからWANなど異なるネットワークを中継する場合、その機器のIPアドレス（LAN側）を指定します。

ポート： 公開するポートを設定します。初期設定値は“80”です。同じLAN内にHTTPサーバを立ち上げている場合などは、ポート番号が重複しないようにご注意ください。

ネットワークスピード：ネットワークの回線速度に合わせて、速度を選択します。LAN内のコンピューターからアクセスする場合やブロードバンド回線を通じてアクセスする場合など"1024kbps"を超える場合は、初期設定値の"制限なし"にしてください。

DNS設定：Domain Name Serverに関する設定を、別画面で行います。

DNSサーバ：DNSサーバのIPアドレスを自動取得するか固定にするかを設定します。一般的に、"DHCP"で"入"を選択した場合は、ここでの設定を"オート"にします。ネットワーク管理者やインターネット接続業者からDNSサーバアドレスを指定されている場合は"マニュアル"を選択し、下の項目"プライマリ"や"セカンダリ"を設定してください。

プライマリ、セカンダリ："DNS サーバ"で"マニュアル"を選択した場合に設定できます。ネットワーク管理者やインターネット接続業者から指定されているDNS サーバアドレスを設定してください。

ホスト名：ホスト名が表示されます。

ドメインサフィックス：ドメインサフィックスが表示されます。

MACアドレス：本機のMACアドレスを表示します。

```
< ネットワーク操作設定 >
ネットワーク操作            :  入
接続表示                    :  入

操作権限                    :  ノーマル
  コピー/ダウンロード権限   :  レベル2, 3, 4
  カメラコントロール権限    :  レベル2, 3, 4

ユーザ ID 設定      →

レベル1:ライブ, レベル2:再生, レベル3:記録, レベル4:メニュー設定
```

ネットワーク操作：ネットワーク経由で本機を操作する/しないを設定します。

接続表示：ネットワーク接続中に、メインモニターに常にメッセージ「ネットワーク接続中」を表示させるかどうかを設定します。

操作権限：ユーザーの権限を変更せず、初期設定値を使用する場合は"ノーマル"を、コピー/ダウンロードと、カメラコントロールの権限を変更する場合は"変更"を選択します。

コピー/ダウンロード権限：コピー/ダウンロード操作を許可するユーザーレベルを選択します。

カメラコントロール権限：カメラコントロール操作を許可するユーザーレベルを選択します。

ユーザID設定：ユーザーIDに関する設定を別画面で行います。

画面表示データを設定する

モニター画面にスーパーインポーズされるデータを個別に入/切したり、タイトルを設定することができます。
設定は、メインメニュー「3. 一般設定」のサブメニュー「1. データ表示/VIDEO LOSS設定」で行います。

```
< データ表示設定 >
日付          :  入
時刻          :  入
記録画質      :  入
音声          :  入
アラーム回数  :  入
アラームタイプ:  入
タイトル      :  入
  < VIDEO LOSS設定 >
VIDEO LOSS    :  入
出力選択      :  VIDEO LOSS
```

日付、時刻、記録画質、音声、アラーム回数、アラームタイプ、タイトル

モニター画面にスーパーインポーズされる項目を個別に入/切できます。

◆それぞれの項目については、「画面表示データ」(19ページ)をご覧ください。

VIDEO LOSS（無信号検出）

ライブ画像監視中にカメラからの信号が途切れた場合に、メインモニターにメッセージを表示するかどうかを設定します。

出力選択

後面パネルの制御端子NON RECの出力信号を選択します。

録画停止：録画が中断されたとき信号(0 V)を出力する。

VIDEO LOSS：カメラからの信号が途切れたとき信号(0 V)を出力する。

設定を変更するには

1 メインメニューから「3. 一般設定」を選択する。

2 サブメニュー「1. データ表示/VIDEO LOSS設定」を選択する。

＜データ表示設定＞画面になります。

3 ジョグダイヤルを回して設定したい項目にカーソルを合わせ、シャトルダイヤルを右に回す。

現在の設定が点滅します。

4 ジョグダイヤルを回して設定を切り換え、シャトルダイヤルを右に回す。

設定が終わったら

EXIT/OSDボタンを押してメニューモードを解除します。

ブザーを設定する

動作確認や警告のためのブザー音を、条件ごとに入/切することができます。

入/切は、メインメニュー「3. 一般設定」のサブメニュー「2. ブザー設定」で行います。

1 メインメニューから「3. 一般設定」を選択する。

2 サブメニュー「2. ブザー設定」を選択する。

＜ブザー設定＞画面になります。

```
        < ﾌﾞｻﾞｰ設定 >
ｱﾗｰﾑ入力          :  切
ﾃﾞｨｽｸ残量警告     :  入
ﾃﾞｨｽｸｴﾗｰ          :  入
ﾛｯｸ警告           :  入
ｷｰｲﾝ              :  切
VIDEO LOSS        :  切
```

アラーム入力： アラームが発生したとき

ディスク残量警告： 記録領域の残量が設定値以下になったとき

ディスクエラー： ハードディスクのエラーが発生したとき

ロック警告： セキュリティロックされているときに操作ボタンが押されたとき

キーイン： 操作ボタンが押されたとき

録画停止（またはVIDEO LOSS）[1]**：** 記録が中断されたとき（ライブ画像監視中にカメラからの信号が途切れたとき）

1) ＜データ表示設定＞画面の「出力選択」で選択した項目が表示されます。

3 ジョグダイヤルを回して設定したい項目にカーソルを合わせ、シャトルダイヤルを右に回す。

現在の設定が点滅します。

4 ジョグダイヤルを回して入/切を切り換え、シャトルダイヤルを右に回す。

手順**3**、**4**を繰り返す。

設定が終わったら

EXIT/OSDボタンを押してメニューモードを解除します。

セキュリティロックを設定する

本機では、本体操作における誤動作/誤設定を避けるため、3種類のセキュリティロックを設定できます。

キー：キーロック動作を行います。

パスワード：ロック対象操作を行う場合、パスワード確認を行います。

ネットワーク：ネットワーク操作時、本体操作をロックします。

設定はメインメニュー「3. 一般設定」のサブメニュー「3. セキュリティーロック設定」で行います。

1 メインメニューから「3. 一般設定」を選択する。

2 サブメニュー「3. セキュリティーロック設定」を選択する。

＜セキュリティーロック設定＞画面になります。

```
            < ｾｷｭﾘﾃｨｰﾛｯｸ設定 >
ﾛｯｸﾓｰﾄﾞ                   :  ｷｰ
    ﾛｯｸ対象外ﾚﾍﾞﾙ          :  切

操作権限                  :  ﾉｰﾏﾙ
    ｺﾋﾟｰ操作権限           :  ﾚﾍﾞﾙ2, 3, 4
    ｶﾒﾗｺﾝﾄﾛｰﾙ権限          :  ﾚﾍﾞﾙ2, 3, 4

ﾕｰｻﾞ ID設定       →

ﾚﾍﾞﾙ1:ﾗｲﾌﾞ, ﾚﾍﾞﾙ2:再生, ﾚﾍﾞﾙ3:記録 ﾚﾍﾞﾙ4:ﾒﾆｭｰ設定
```

3 「ロックモード」を設定する。

"キー"または"ネットワーク"を選択した場合は、手順5に進んでください。

キー： すべてのキー操作をロックする。ロック中にキーを押したときは、ブザーを鳴らします。

パスワード： キーを押すと、ユーザーIDとパスワードを入力する画面が表示され、入力したIDのレベルに応じて操作に制限をかけます。

ネットワーク： ネットワーク上のコンピューターから本機を操作する間、本機でのボタン操作をロックします。

4 「ロック対象外レベル」を設定する。

切：すべての操作をロックします。

L1～L3：設定したユーザーレベルの持つ権限を、パスワードロック対象外にします。

5 「操作権限」を設定する。

ノーマル： ユーザーの権限を変更せず、初期設定値を使用します。

変更： 外部メディアへのコピーと、カメラコントロールの権限を変更します。

6 「コピー操作権限」を設定する。

LV2、3、4：レベル2以上のユーザーに外部メディアへの画像のコピーを許可します。

LV3、4：レベル3以上のユーザーに外部メディアへの画像のコピーを許可します。

LV4：レベル4のユーザーに外部メディアへの画像のコピーを許可します。

7 「カメラコントロール権限」を設定する。

設定が終わったら

EXIT/OSDボタンを押してメニューモードを解除します。

ユーザーIDを設定する

本機を直接操作したりネットワーク経由で操作する際、ユーザーIDとパスワードの入力を求めることにより、操作できる人を限定することができます。

ユーザーレベルと権限

ユーザーレベルは以下の4段階に設定できます。

<table>
<tr><th>レベル
操作権限</th><th>LV1</th><th>LV2</th><th>LV3</th><th>LV4</th></tr>
<tr><td>監視</td><td>○ *1</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>再生・検索</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>録画</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>メニュー操作</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td></tr>
<tr><td rowspan="3">同時接続制限 *2</td><td rowspan="2">16ユーザー（本体は1ユーザー）</td><td>4ユーザー</td><td colspan="2">LV3、LV4どちらか1ユーザー</td></tr>
<tr><td colspan="3">LV2～LV4あわせて4ユーザー</td></tr>
<tr><td colspan="4">あわせて16ユーザー</td></tr>
</table>

*1 マスクされている映像を見ることはできません。

*2 同時接続数は、本体とネットワーク経由で接続するユーザー数の合計です。

ユーザー登録をする

1 メインメニューから「3.一般設定」を選択する。

2 サブメニュー「3.セキュリティロック設定」を選択する。

3 「ユーザーID設定」を選択する。

<ユーザーID設定>画面になります。

```
            < ﾕｰｻﾞ ID設定 >
ﾕｰｻﾞ  ID  ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ  ﾚﾍﾞﾙ ﾕｰｻﾞ  ID  ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ  ﾚﾍﾞﾙ
ID04---- 4444----  4  -------- --------  -
ID03---- 3333----  3  -------- --------  -
ID02---- 2222----  2  -------- --------  -
ID01---- 1111----  1  -------- --------  -
-------- --------  -  -------- --------  -
-------- --------  -  -------- --------  -
-------- --------  -  -------- --------  -
-------- --------  -  -------- --------  -
 LV1:ライブ, LV2:再生, LV3:記録 LV4:メニュー設定
```

4 シャトルダイヤルを右に回し、ユーザーIDを入力する。

ジョグダイヤル、シャトルダイヤル、INPUT SELECTORボタンを使って、1～8桁の英数字を入力します。

5 シャトルダイヤルを右に回し、パスワードを入力する。

ジョグダイヤル、シャトルダイヤル、INPUT SELECTORボタンを使って、4～8桁の英数字を入力します。

6 シャトルダイヤルを右に回し、ユーザーレベルを設定する。

設定が終わったら

EXIT/OSDボタンを押してメニューモードを解除します。

ご注意

- 1行目に登録されている“LV”の“4”は変更できません（ユーザーIDとパスワードは変更できます）。レベルを変更する場合は、2行目以降に別のユーザーとして登録してください。
- 同じユーザーID名は登録できません。

セキュリティロックを有効にするには

メニューモードを解除してからSHUTTLE HOLDボタンを3秒以上押します。

メニューでの設定に従ってセキュリティロックがかけられ、LOCKインジケーターが点灯します。

ご注意

再生モードからセキュリティロックをかけることはできません。

セキュリティロックがかけられると

パスワードの入力が必要な場合、ブザーが鳴り、モニター画面がパスワード入力画面になります。

RS-232CとRS-485の設定

後面パネルのRS-232C端子にコンピューターを接続している場合、またはRS-485端子（A、B）にシステムコントローラーなどを接続している場合に設定します。

設定は、メインメニュー「3.一般設定」のサブメニュー「4. RS-232C/RS-485設定」で行います。

<RS-232C/RS-485 設定>画面

```
< RS232C/RS-485 設定 >
ｺﾝﾄﾛｰﾙ        :  RS232C
ﾃﾞｰﾀｽﾋﾟｰﾄﾞ    :  19200
ｽﾃｰﾀｽ        :  ***
ｱﾗｰﾑ         :  ***
ｱﾄﾞﾚｽ        :  ***
```

（RS-232C、RS-485共通）

コントロール：RS-232CかRS-485を選択します。

データスピード：通信速度を選択します。

（RS-485のみ）

ステータス：ステータス情報を送信する/送信しないを選択します。

アラーム：アラーム情報を送信する/送信しないを選択します。

アドレス：アドレスを入力します（000～127）。

メニュー設定の保存/復元をする場合

メニューで設定した内容を、コンパクトフラッシュへコピーして保存したり、コンパクトフラッシュに保存された設定内容を本体に読み込んで復元することができます。

メニュー設定内容を保存するには

1 本機にコンパクトフラッシュを差し込む。

2 MENUボタンを押して、メインメニューを表示させ、「7. メニュー設定コピー」を選択する。

<メニュー設定コピー>画面が表示されます。

```
< ﾒﾆｭｰ設定ｺﾋﾟｰ >

HDR TYPE  VER. SY99-99

ﾒﾆｭｰをｺﾝﾊﾟｸﾄﾌﾗｯｼｭにｾｰﾌﾞ           →

ﾒﾆｭｰをｺﾝﾊﾟｸﾄﾌﾗｯｼｭからﾛｰﾄﾞ          →
  ﾕｰｻﾞ ID 設定のｺﾋﾟｰ          :  いいえ
  記録領域設定のｺﾋﾟｰ          :  いいえ
  * 記録領域設定のｺﾋﾟｰを[はい]にすると
    ﾊｰﾄﾞﾃﾞｨｽｸを初期化します！
```

3 ジョグダイヤルを回して「メニューをコンパクトフラッシュにセーブ」にカーソルを合わせ、シャトルダイヤルを右に回す。

確認メッセージが表示されます。

4 ジョグダイヤルを回して「はい」を選択し、シャトルダイヤルを右に回す。

セーブが始まります。

セーブ中は、画面にセーブの進捗状況が表示されます。

セーブが終了すると、終了メッセージが表示されます。

開始前にセーブをキャンセルするには

シャトルダイヤルを左に回します。

開始後は中止できません。

メニュー設定内容をロードするには

コンパクトフラッシュに保存されたメニュー設定をロードすることによって、以前の設定状態を復元することができます。
ただし、「記録領域設定」(34ページ)の内容をコピーすると、ハードディスクが初期化されるため、この項目のみ独立してロードするかどうかを指定します。

1 設定が保存されたコンパクトフラッシュを本機に差し込む。

2 MENUボタンを押して、メインメニューを表示させ、「7. メニュー設定コピー」を選択する。

3 「記録領域設定」の内容も併せてロードする場合は：

(1) ジョグダイヤルを回してカーソルを「記録領域設定のコピー」に合わせ、シャトルダイヤルを右に回す。

(2) ジョグダイヤルを回して「はい」を選択し、シャトルダイヤルを右に回す。

ご注意

「記録領域設定のコピー」を行うと、画像データはすべて失われます。

4 ジョグダイヤルを回してカーソルを「メニューをコンパクトフラッシュからロード」に合わせ、シャトルダイヤルを右に回す。

確認メッセージが表示されます。
手順**3**で「記録領域設定のコピー」を「はい」に設定した場合は、警告メッセージが表示されます。

5 ジョグダイヤルを回して「はい」を選択し、シャトルダイヤルを右に回す。

ロードが始まります。
ロード中は、画面にロードの進捗状況が表示されます。
ロードが終了すると、終了メッセージが表示されます。

開始前にロードをキャンセルするには

シャトルダイヤルを左に回します。
開始後は中止できません。

JPEG2000用プラグインをインストールする

ネットワークを経由してコンピューターでライブ画像を見たり、本機に保存されている画像を再生するには、JPEG2000用プラグインソフトをインストールする必要があります。

1 インストーラーの起動

1. CD-ROMをCD-ROMドライブに入れる。
   表紙ページが自動的にブラウザーで表示されます。
   ブラウザーで自動的に表示されないときは、CD-ROMに入っているindex.htmファイルをダブルクリックしてください。
2. 「J2KPlng (JPEG2000 Plug in)」を選択し、クリックする。
   インストーラーが起動します。

ご注意

すでに旧バージョンのJ2KPlngがインストールされている場合は、「J2KPlngの修復/削除」画面が表示されるので、「J2KPlngの削除」を選択して[完了]をクリックしてください。

旧バージョンの削除が完了したら[閉じる]をクリックして、手順1からインストールをやり直してください。

2 インストールの開始

「J2KPlngセットアップウィザードへようこそ」画面で[次へ]をクリックすると、インストール作業が始まります。



3 インストールの確認

［次へ］をクリックするとインストールを開始します。



4 インストールの終了

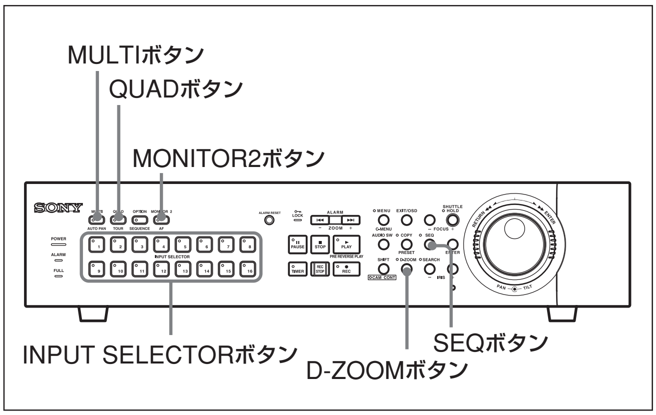
インストールが終了すると以下の画面が表示されるので［閉じる］をクリックします。



ライブ画像の監視

カメラからの映像をメインモニター（MONITOR 1）およびモニター2（MONITOR 2）に表示させて監視することができます。
メインモニターとモニター2はそれぞれ個別に設定が可能なため、メインモニターが再生モードのときでも、モニター2でライブ画像の監視が可能です。

ライブ画像の監視に使用するボタン



特定のカメラの映像を監視する（フル画面表示）

見たいカメラのINPUT SELECTORボタンを押します。
ボタンのインジケーターが点灯し、指定したカメラの映像がフル画面で表示されます。
もう1度同じボタンを押すと、前の状態に戻ります。

モニター2（MONITOR 2）の画像を切り換えるときは

MONITOR2ボタンを押して点灯させてから、見たいカメラに対応するINPUT SELECTORボタンを押します。メインモニターと別のカメラの画像を監視することができます。
メインモニターの画像を切り換えるときは、もう1度MONITOR 2ボタンを押して消灯させてください。

画像を自動的に切り換えるには

SEQボタンを押して点灯させます。
表示が一定の周期（1～30秒）で自動的に切り換わります。
自動切り換えを解除するときは、もう1度SEQボタンを押すか、INPUT SELECTORボタンのいずれかを押して、SEQボタンを消灯させます。
切り換えの周期は、メニュー操作で変更することもできます。

◆変更方法については、「自動切り換えの周期を設定するには」（47ページ）をご覧ください。

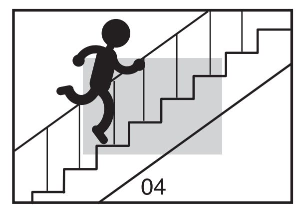
画像の一部を拡大するには（ズーム）

フル画面表示のときは、D-ZOOMボタンを使用して、画像の一部を拡大表示することができます。

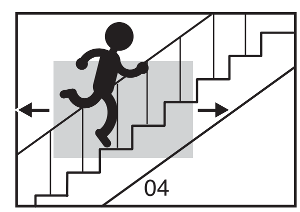
1 モニターするカメラに対応するINPUT SELECTORボタンを押して、画像をフル画面で表示させる。

2 D-ZOOMボタンを押す。

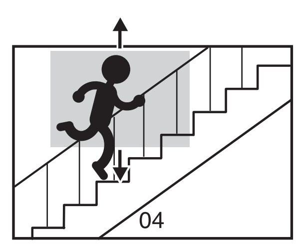
画面中央に拡大位置を指定するためのズーム枠が表示されます。



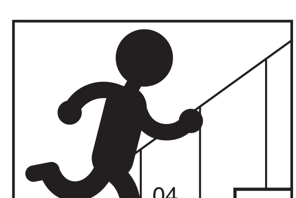
3 ジョグダイヤルでズーム枠を動かして水平位置を指定し、シャトルダイヤルを右に回して確定する。



4 ジョグダイヤルでズーム枠を動かして垂直位置を指定し、シャトルダイヤルを右に回して確定する。



指定したゾーン内の画像が拡大され、フル画面表示されます。



ズームモードを解除するには

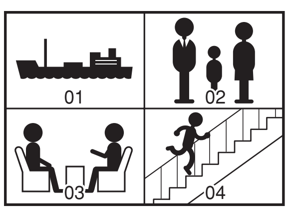
D-ZOOMボタンをもう一度押します。
他のINPUT SELECTORボタンを押した場合は、押したボタンに対応するカメラ画像（通常サイズ）に切り換わります。
QUADやMULTIなど、他のモードボタンを押した場合は、対応するモードに切り換わります。

複数のカメラを同時に監視する（分割画面表示）

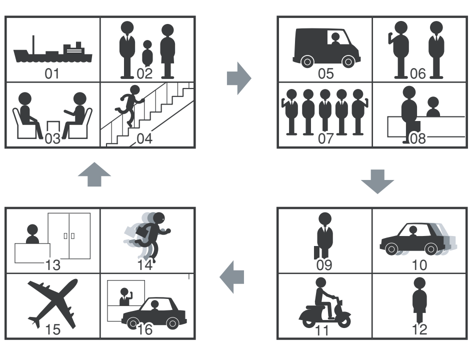
メインモニターでは、分割画面を表示して複数のカメラの映像を同時に監視することができます。

4分割画面にするには

QUADボタンを押します。
4台のカメラからの映像が同時に表示されます。



QUADボタンを押すごとに、分割表示が切り換わります。



表示されているカメラに対応するINPUT SELECTORボタンが点灯します。
同時に表示するカメラ画像の配置および組み合わせは、メニュー操作で変更することもできます。

◆変更方法については、「分割画面表示の配置を変更するには」（46ページ）をご覧ください。

画像を自動的に切り換えるには

SEQボタンを押して点灯させます。
表示されている4つの画像が、一定の周期（1～30秒）で自動的に切り換わります。
自動切り換えを解除するときは、もう1度SEQボタンを押して消灯させます。
切り換えの周期は、メニュー操作で変更することもできます。

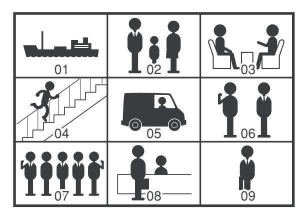
◆変更方法については、「自動切り換えの周期を設定するには」（47ページ）をご覧ください。

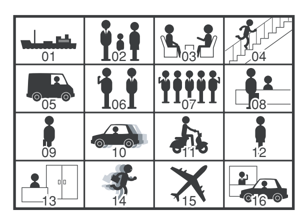
ご注意

再生時の自動切り換えはできません。

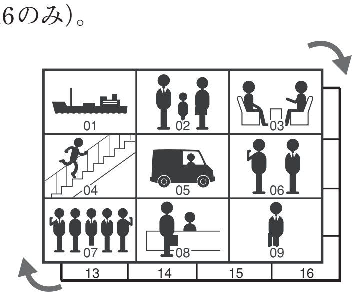
9分割/16分割画面にするには

MULTIボタンを押します。
最大16台のカメラからの映像が同時に表示されます。





MULTIボタンを押すごとに、9分割と16分割表示が切り換わります（HSR-J2016のみ）。



カメラ画像の配置は、メニュー操作で変更することもできます。

◆変更方法については、「分割画面表示の配置を変更するには」（46ページ）をご覧ください。

オプション画面表示にするには

9分割/16分割表示中にOPTIONボタンを押します。

表示の条件を設定する

メインメニューから「4.画面設定」を選択すると、モニター画面表示の各種条件を設定することができます。

＜画面設定＞画面

```
< 画面設定 >
1. 分割画面　表示ﾎﾟｼﾞｼｮﾝ　　:　ﾉｰﾏﾙ
    4画面表示ﾎﾟｼﾞｼｮﾝ設定　　　　→
    9画面表示ﾎﾟｼﾞｼｮﾝ設定　　　　→
    16画面表示ﾎﾟｼﾞｼｮﾝ設定　　　 →
2. 画面自動切換周期
    1画面：　1秒　　4画面：　1秒
    ﾒｲﾝ ﾓﾆﾀｰ/ﾓﾆﾀｰ2　ﾓﾆﾀｰ設定　 →
3. ﾏｽｸ　　　　　　　　　:　切
    ﾏｽｸ 設定　　　　　　　　　　→
4. ｶﾗｰﾚﾍﾞﾙ設定　　　　　　　　→
```

分割画面表示の配置を変更するには

「1.分割画面表示ポジション」で、4分割表示で同時に表示するカメラ画像の配置と組み合わせ、および9分割表示、16分割表示時のカメラ画像の配置と組み合わせを決定します。

ノーマル：カメラ番号順に左上から右下に向かう順番で分割表示します。接続されていないカメラの位置はグレー表示になります。

変更：任意の順番に設定することができます。

変更手順：

1 「1.分割画面表示ポジション」を「変更」に設定してシャトルダイヤルを右に回す。

2 **4画面表示を設定するときは、**ジョグダイヤルを回してカーソルを「4画面表示ポジション設定」の行に移動させ、シャトルダイヤルを右に回す。

＜4画面表示ポジション設定＞画面が表示されます。

ﾒｲﾝﾓﾆﾀｰ

4画面 1		4画面 2		4画面 3		4画面 4	
01	02	05	06	09	10	13	14
03	04	07	08	11	12	15	16

ﾓﾆﾀｰ2

4画面 1		4画面 2		4画面 3		4画面 4	
01	02	05	06	09	10	13	14
03	04	07	08	11	12	15	16

ﾒｲﾝﾓﾆﾀｰ画面ﾁｪｯｸ　→
ﾓﾆﾀｰ2 画面ﾁｪｯｸ　→

9画面表示を設定するときは、ジョグダイヤルを回してカーソルを「9画面表示ポジション設定」の行に移動させ、シャトルダイヤルを右に回す。

＜9画面表示ポジション設定＞画面が表示されます。

ﾒｲﾝﾓﾆﾀｰ

01	02	03
04	05	06
07	08	09

ﾓﾆﾀｰ2

01	02	03
04	05	06
07	08	09

ﾒｲﾝﾓﾆﾀｰ画面ﾁｪｯｸ　→
ﾓﾆﾀｰ2 画面ﾁｪｯｸ　→

16画面表示を設定するときは、ジョグダイヤルを回してカーソルを「16画面表示ポジション設定」の行に移動させ、シャトルダイヤルを右に回す。

＜16画面表示ポジション設定＞画面が表示されます。

ﾒｲﾝﾓﾆﾀｰ

01	02	03	04
05	06	07	08
09	10	11	12
13	14	15	16

ﾓﾆﾀｰ2

01	02	03	04
05	06	07	08
09	10	11	12
13	14	15	16

ﾒｲﾝﾓﾆﾀｰ画面ﾁｪｯｸ　→
ﾓﾆﾀｰ2 画面ﾁｪｯｸ　→

3 **4画面表示を設定するときは、**QUADボタンで切り換える4とおりの組み合わせ（それぞれ4つの分割画面に表示させるカメラの番号）を設定する。
9.16画面表示を設定するときは、それぞれの分割画面で表示させるカメラ番号を設定する。

1) ジョグダイヤルで設定する画面位置にカーソルを合わせ、シャトルダイヤルを右に回し、現在設定されているカメラ番号を点滅させる。

2) INPUT SELECTORボタンまたはジョグダイヤルで設定を変更し、シャトルダイヤルで確定する。

分割画面ごとに**1)**、**2)**を繰り返します。

設定を確認するには

「メインモニター画面チェック」または、「モニター2画面チェック」にカーソルを移動してシャトルダイヤルを右に回すと、設定した画面表示を確認することができます。
確認画面から設定画面に戻るには、シャトルダイヤルを左に回します。

設定が終わったら

EXIT/OSDボタンを押してメニューモードを解除します。

自動切り換えの周期を設定するには

＜画面設定＞画面の「2.画面自動切換周期」で、画像の自動切り換え（SEQボタン点灯時）の周期を設定することができます。

1 「1画面: 1秒　4画面: 1秒」の行にカーソルを移動してシャトルダイヤルを右に回す。

1画面の設定値が点滅します。

2 ジョグダイヤルを右に回して希望の値（1～30秒）を表示させ、シャトルダイヤルを右に回す。

4画面の設定値が点滅します。

3 ジョグダイヤルを右に回して希望の値（1～30秒）を表示させ、シャトルダイヤルを右に回す。

自動切り換えの周期をカメラ毎に設定するには

「2.画面自動切換周期」の「1画面」で"カメラ毎"を選択すると、「メインモニター/モニター2設定」の項目が選択できるようになり、画像の自動切り換え（SEQボタン点灯時）の周期をカメラ毎に設定することができます。

1 「メインモニター/モニター2設定」の行にカーソルを移動してシャトルダイヤルを右に回す。

＜メインモニター/モニター2設定＞画面が表示されます。

< メイン モニター/モニター 2 設定 >
時刻周期： T-1 (09: 00 - 12: 00)

CH	01	02	03	04	05	06	07	08
メイン	1秒	1秒	1秒	1秒	1秒	1秒	1秒	1秒
モニター2	1秒	1秒	1秒	1秒	1秒	1秒	1秒	1秒
CH	09	10	11	12	13	14	15	16
メイン	1秒	1秒	1秒	1秒	1秒	1秒	1秒	1秒
モニター2	1秒	1秒	1秒	1秒	1秒	1秒	1秒	1秒

2 シャトルダイヤルを右に回す。

3 ジョグダイヤルを回して時間周期を選択し、シャトルダイヤルを右に回す。

4 ジョグダイヤルで設定するカメラを選択し、シャトルダイヤルを右に回す。

5 ジョグダイヤルで希望の値（1～30）を選択し、シャトルダイヤルを右に回す。

"切"に設定したカメラは、自動切り換え時に表示されません。

6 他のカメラも設定する場合は、手順4、5を繰り返す。

7 複数の時間帯（時刻周期）が設定されている場合は、他の時間帯も同様に設定する。

T1が(00:00 － 00:00)、T2～T4が(--:-- － --:--)になっている場合は、24時間通してT1の設定で動作します。T2～T4は設定がされていないため、「入」/「切」を設定する必要はありません。

設定が終わったら

EXIT/OSDボタンを押してメニューモードを解除します。

画像にマスクをかけるには

カメラごとにマスク機能を入/切することができます。
マスク機能を「入」にしたカメラの映像は、モニターでグレー表示になります。
マスクの設定は時間帯で自動的に切り換えることもできます。

◆時間帯ごとにマスクするカメラを指定したい場合は、あらかじめ時間帯（時刻周期）を設定してください。設定方法については「時間帯（時刻周期）を設定する」（32ページ）をご覧ください。

1 ＜画面設定＞画面（46ページ）で「3. マスク」を「入」に設定してシャトルダイヤルを右に回す。

カーソルが「マスク設定」の行に移動します。

2 シャトルダイヤルを右に回す。

＜マスク設定＞画面が表示されます。

< ﾏｽｸ設定 >

時刻周期： T-1 (09: 00 - 12: 00)

CH	01	02	03	04	05	06	07	08
ﾒｲﾝ	切	切	切	切	切	切	切	切
ﾓﾆﾀｰ2	切	切	切	切	切	切	切	切
ﾈｯﾄﾜｰｸ	切	切	切	切	切	切	切	切
CH	09	10	11	12	13	14	15	16
ﾒｲﾝ	切	切	切	切	切	切	切	切
ﾓﾆﾀｰ2	切	切	切	切	切	切	切	切
ﾈｯﾄﾜｰｸ	切	切	切	切	切	切	切	切

3 シャトルダイヤルを右に回す。

4 ジョグダイヤルで設定する時間帯（T-1、T-2、T-3、T-4）を選択し、シャトルダイヤルを右に回す。

5 ジョグダイヤルで設定するカメラ（入力）を選択し、シャトルダイヤルを右に回す。

6 ジョグダイヤルで「入」/「切」を切り換え、シャトルダイヤルを右に回す。

次のカメラ（入力）にカーソルが移動します。

7 カメラ（入力）毎、モニター毎に手順**5**、**6**を繰り返す。

ネットワーク経由でモニターするライブ画像にマスクをかける場合は、ネットワークの行の設定を「入」にします（LV1ユーザーのみ）。

ご注意

- メイン（メインモニター）とモニター2（サブモニター）では、「入」に設定すると再生画像もマスクされます（再生画像を見ることができなくなります）。再生画像を見たい場合は、マスク設定を「切」に設定しなおしてください。
- ネットワークのマスク設定は、LV1でネットワーク接続したユーザーに対してのみ有効です。LV2、LV3でネットワーク接続したユーザーは、すべてのチャンネルでライブ画像/再生画像をモニターできます。

8 複数の時間帯（時刻周期）が設定されている場合は、他の時間帯も同様に設定する。

T1が(00:00 – 00:00)、T2〜T4が(--:-- – --:--)になっている場合は、24時間通してT1の設定で動作します。T2〜T4は設定がされていないため、「入」/「切」を設定する必要はありません。

設定が終わったら

EXIT/OSDボタンを押してメニューモードを解除します。

カラーレベルを設定するには

カメラ毎に入力のカラーレベル（1〜10）を選択できます。

1 ＜画面設定＞画面（46ページ）で、「4. カラーレベル設定」にカーソルを合わせてシャトルダイヤルを右に回す。

現在選択されているカメラ画像の＜カラーレベル設定＞画面になります。

2 INPUT SELECTORボタンを押して、カラーレベルを設定したいカメラの画像に切り換える。

3 シャトルダイヤルを右に回す。

4 ジョグダイヤルでカラーレベル（1〜10）を切り換え、シャトルダイヤルを右に回す。

5 カメラ毎に手順**2**〜**4**を繰り返す。

設定が終わったら

EXIT/OSDボタンを押してメニューモードを解除します。

アラーム表示

ライブ画像を監視しているときや記録した画像を再生しているときに、アラームが発生すると、本機はブザーやメッセージ、インジケーターの点滅などでアラームの発生を表示します。

◆ブザーは、メニュー操作により鳴らないように設定することもできます。「ブザーを設定する」（39ページ）をご覧ください。

外部アラームを受信した場合

ALARM IN端子に接続した外部アラームセンサーから信号を受信したときは、ブザーが鳴り、対応するカメラのINPUT SELECTORボタンが点滅します。
モニター画面にカメラからの映像とカメラタイトルがフル画面表示され、カメラタイトルの左に「EA」（External Alarm）が点滅します。
アラームが解除されると、表示はアラーム発生前の状態に戻ります。

ご注意

信号を受信したALARM IN端子に対応する番号のカメラが接続されていなかった場合は、グレースクリーン上に番号と「EA」が表示されます。

◆外部アラームセンサーの接続については、「アラーム信号の接続」（22ページ）を参照してください。

入力信号が遮断された場合（無信号検出アラーム）

ケーブルが抜けるなどしてカメラからの信号が遮断されたときは、対応するカメラのINPUT SELECTORボタンが点滅します。
モニター画面は、グレースクリーンになり、画面上で「VIDEO LOSS」が点滅します。
信号が復帰すると、表示はアラーム発生前の状態に戻ります。

信号が遮断されたときに信号を出力するには

後面パネルの制御端子から信号を出力（Low Active: 0 V）することもできます。
メインメニュー「3.一般設定」から「1. データ表示/VIDEO LOSS設定」を選択し、「出力選択」を「VIDEO LOSS」に設定します。
信号が遮断されたときにNON REC端子の出力レベルが0 Vになります。

◆「1. データ表示/VIDEO LOSS設定」については、「画面表示データを設定する」（38ページ）をご覧ください。

信号が遮断されたときにブザーを鳴らすには

「1. データ表示/VIDEO LOSS設定」で「出力選択」を「VIDEO LOSS」に設定すると、「2. ブザー設定」の「録画停止」が「VIDEO LOSS」に変わります。この設定を「入」にすると、信号が遮断されたときにブザーが鳴ります。

ご注意

「出力選択」を「VIDEO LOSS」に変更すると、録画が停止してもNON REC端子の出力レベルは0 Vになりません。

アクティビティーディテクションセンサーが働いた場合

内部アクティビティーディテクションセンサーをアラームトリガーに使用しているときは、センサーが感応するとブザーが鳴り、対応するカメラのINPUT SELECTORボタンが点滅します。

◆アクティビティーディテクションセンサーについては、「アクティビティーディテクションセンサーを設定するには」（59ページ）をご覧ください。

モニター画面にカメラからの映像とカメラ番号がフル画面表示され、カメラタイトルの左に「SA」（Sensor Alarm）が点滅します。
アラームが解除されると、表示はアラーム発生前の状態に戻ります。

強制的にアラーム表示をリセットするには

ALARM RESETボタンを押します。

記録の概要

記録の種類

記録には、通常記録、タイマー記録、アラーム記録、プリアラーム記録の4つがあります。

通常記録

接続されている全てのカメラの映像を記録します。記録の開始/終了は、RECボタン/REC STOPボタンで行います。

タイマー記録

あらかじめ設定しておいた時間になると、通常記録を開始/終了します。

アラーム記録

アラーム信号を検知すると自動的に記録を開始します。アラーム信号には次の2つがあり、カメラ毎に設定が可能です。

(1) 外部アラーム入力
(2) 内部アクティビティーディテクションセンサー（設定した画像ポイントにおける輝度変化の検出）

プリアラーム記録

アラーム記録設定時にプリアラーム記録を「入」に設定しておくことで、アラーム発生前の画像を記録します。

通常記録、アラーム記録、タイマー記録で記録された画像は、記録領域とは独立して割り当てられたアーカイブ領域にコピーして保存しておくことができます。

◆詳しくは「データの保存」（65ページ）をご覧ください。

ご注意

本機の性能上、ごく希に画像の欠落が発生する場合があります。

記録の領域

内蔵HDDは、記録領域、アーカイブ領域に分割されています。
記録領域には、デフォルトで80%の領域が割り当てられています。
アーカイブ領域には、デフォルトで20%の領域が割り当てられています。
それぞれの領域の割り当ては、メインメニュー「2. 記録設定」のサブメニュー「2. 記録領域設定」で変更することができます。記録領域では、HDDの残量がなくなったときに記録を中止するか上書きするかを、メインメニュー「2. 記録設定」のサブメニュー「3. 記録条件設定」で選択することもできます。必要な場合リセットして領域内を空にすることも可能です。

◆詳しくは「記録領域を設定する」（34ページ）をご覧ください。

必ずお読みください。

- 大切な記録の場合は、必ず事前にためし録りをし、正常に記録されていることを確認してください。
- レコーダーを使用中、万一その不具合により記録されなかった場合の記録内容の補償についてはご容赦ください。

通常記録

通常記録の条件を設定する

通常記録には、記録画質、音声記録の入/切、記録レートを設定できます。
設定はメインメニュー「2. 記録設定」のサブメニュー「4. 通常記録設定」で行います。

< 通常記録設定 >		
記録画質	:	HIGH
記録画質設定	➔	
音声記録	:	切
記録ﾚｰﾄ	:	30 FPS (18H)
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ記録	:	切

記録画質

6段階の記録画質から選択します。デフォルトはHIGHです。

HYPER：42 KB/フィールドで記録します(2 KBのヘッダー部を含む)。

SUPER：34 KB/フィールドで記録します(2 KBのヘッダー部を含む)。

HIGH：26 KB/フィールドで記録します(2 KBのヘッダー部を含む)。

MID：18 KB/フィールドで記録します(2 KBのヘッダー部を含む)。

LOW：10 KB/フィールドで記録します(2 KBのヘッダー部を含む)。

INDIV.：カメラ毎に記録画質を設定できます。

画質を落とすことによって、記録できる時間が長くなります。

カメラ毎に画質を設定するときは

「INDIV.」を選択してシャトルダイヤルを右に回します。カーソルが「記録画質設定」に移動します。シャトルダイヤルを右に回して<記録画質設定>画面を表示させます。ジョグダイヤルでカメラ番号を選択し、シャトルダイヤルで画質を選択します。

音声記録

映像と同時に音声を記録するとき「入」にします。

ご注意

記録レートを1 FPS以上の値に設定した場合のみ、音声記録が可能です。

記録レート

毎秒に何フレーム記録するか(FPS)を設定します。

◆記録レートと記録時間の関係については、56ページの表をご覧ください。

プログラム記録

記録に使用するカメラを限定するときは、P-1〜P-4のいずれかを選択します。限定しないときは、「切」を選択します。

◆P-1〜P-4の設定については次項をご覧ください。

設定手順

1 メインメニューから「2. 記録設定」を選択する。

2 サブメニュー「4. 通常記録設定」を選択する。

<通常記録設定>画面が表示されます。

3 ジョグダイヤルを回してカーソルを設定する項目に合わせ、シャトルダイヤルを右に回して選択を確定する。

選択した項目の現在の設定が点滅します。

4 ジョグダイヤルを回して希望の設定に変更し、シャトルダイヤルを右に回して設定を確定する。

選択した記録画質と記録レートによって、記録可能な時間が算出され、記録レートの右の括弧内に表示されます。
音声記録が可能な条件に設定されたときは、記録レートの値の前に「A」が表示されます。

設定が終わったら

EXIT/OSDボタンを押してメニューモードを解除します。

プログラム記録を設定する

プログラム記録を設定することによって、接続されているカメラの中から特定のカメラのみを指定して、記録を実行することができます。4種類のパターン(P-1〜P-4)を設定できます。

カメラ毎に記録レートを設定する

記録レートもカメラ毎に設定することができます。
設定は、メインメニュー「2. 記録設定」のサブメニュー「5. プログラム記録設定」で行います。

設定手順

1 メインメニューから「2. 記録設定」を選ぶ。

2 記録設定メニューから「5. プログラム記録設定」を選ぶ。

<プログラム記録設定>画面が表示されます。

```
      < ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ記録設定 >

        ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ  :  P-1
   ｶﾒﾗ毎の記録ﾚｰﾄ選択 (FPS)
 01:1    02:1    03:1    04:1
 05:1    06:1    07:1    08:1
 09:1    10:1    11:1    12:1
 13:1    14:1    15:1    16:1

   通常記録            :   57H
```

3 シャトルダイヤルを右に回す。

4 ジョグダイヤルで設定するプログラム番号(P-1〜P-4)を選択し、シャトルダイヤルを右に回す。

「カメラ毎の記録レート選択(FPS)」エリアにカーソルが移動します。

5 記録に使用する入力(カメラ)に対しては、ジョグダイヤルで記録レートを設定し、シャトルダイヤルを右に回す。
記録に使用しない入力(カメラ)に対しては、ジョグダイヤルで「切」に設定し、シャトルダイヤルを右に回す。

次の入力(カメラ)にカーソルが移動します。

6 入力(カメラ)毎に手順**5**を繰り返す。

設定したカメラの台数と記録レートに応じて、通常記録可能なトータル時間が、画面下に表示されます。

同様に手順**4**〜**6**で他のプログラムも設定できます。

設定が終わったら

EXIT/OSDボタンを押してメニューモードを解除します。

タイマー記録でもプログラム記録の指定が可能です。

プログラム記録時に設定可能な記録レート

30、15、7.5、3.75、1.875、1、0.5、0.33、0.25、0.2、0.1、0.05、0.03

ご注意

1ch当たりの最高記録レートは30FPSですが、すべてのカメラで同時に30FPSに設定できる訳ではありません。トータルの記録レートは最高120FPSとなり、ON設定されているカメラでシェアされます。設定できるトータルの記録レートは、ON設定されているカメラの台数によって異なります。

全チャンネルともONの場合のみ120FPSに設定できます。それ以外の場合は制限されます。

例：HSR-J2016のプログラム記録レート

16台の場合(最高120FPS)

01: 7.5	02: 7.5	03: 7.5	04: 7.5
05: 7.5	06: 7.5	07: 7.5	08: 7.5
09: 7.5	10: 7.5	11: 7.5	12: 7.5
13: 7.5	14: 7.5	15: 7.5	16: 7.5

4台の場合(最高90FPS)

01: 30	02: 30	03: 15	04: 15
05: 切	06: 切	07: 切	08: 切
09: 切	10: 切	11: 切	12: 切
13: 切	14: 切	15: 切	16: 切

(どのカメラをONにしてもかまいません。)

プログラム記録時の音声記録

最も早い記録レートに設定されたカメラの記録レートが1 FPS以上の場合は音声記録が可能です。

簡易記録設定

記録設定メニューの「1. 簡易記録設定」を使用すると、通常記録の設定を略式で行うことができます。

設定画面1か2を選択する

1 メインメニューから「2. 記録設定」を選択する。

2 サブメニュー「1. 簡易記録設定」を選択する。

＜簡易記録設定＞画面が表示されます。

```
< 簡易記録設定 >

簡易記録設定1                          ➔
（記録したい日数を元に設定する）
簡易記録設定2                          ➔
（カメラの記録レートを元に設定する）

              注意！
  設定のまえに、使用するカメラを接続し
  時刻設定をおこなってください
```

3 **記録したい日数を元に設定するときは**「簡易記録設定1」を、**カメラの記録レートを元に設定するときは**「簡易記録設定2」を選ぶ。

選択した設定画面が表示されます。

＜簡易記録設定1＞画面

```
< 簡易記録設定1 >
記録日数                  :  --  日
タイマー記録（毎日）      :  切
   開始時刻 --:--  終了時刻 --:--
記録画質                  :  HIGH
音声記録                  :  切

記録カメラ台数            :  6  台

記録レート                :  ------ FPS/台
```

＜簡易記録設定1＞画面では、記録日数、タイマー記録、記録画質、音声記録の情報を入力して実行すると、接続されているカメラが検出され、記録レートが自動的に計算されます。
記録日数は、1日から99日の範囲で設定できます。

＜簡易記録設定2＞画面

```
< 簡易記録設定2 >
記録レート                :  -----  FPS/台
タイマー記録（毎日）      :  切
   開始時刻 --:--  終了時刻 --:--
記録画質                  :  HIGH
音声記録                  :  切

記録カメラ台数            :  6  台

記録日数                  :  ----  日
```

＜簡易記録設定2＞画面では、記録レート、タイマー記録、記録画質、音声記録の情報を入力して実行すると、接続されているカメラが検出され、記録日数が自動的に計算されます。

以下に、＜簡易記録設定1＞による設定例を紹介します。

設定：タイマー記録を行わず、常時通常記録を行う場合

記録期間と記録画質のみを設定してください。
カメラ1台あたりの記録レートが表示されます。

```
< 簡易記録設定1 >
記録日数                  :  45  日
タイマー記録（毎日）      :  切
   開始時刻 --:--  終了時刻 --:--
記録画質                  :  HIGH
音声記録                  :  切

記録カメラ台数            :  6  台

記録レート                :  0.185 FPS/台
```

音声を記録したい場合は、音声記録を「入」に設定してください。
この場合、記録レートの値の前に「A」が表示されます。

```
< 簡易記録設定1 >
記録日数                  :  45  日
タイマー記録（毎日）      :  切
   開始時刻 --:--  終了時刻 --:--
記録画質                  :  HIGH
音声記録                  :  入

記録カメラ台数            :  6  台

記録レート                :  A0.185 FPS/台
```

設定が終了したら

1 シャトルダイヤルを左に回すと、警告画面が表示されます。

```
< 警告 >

メニュー内の各速度設定は、
自動的に修正されます。
ハードディスクを初期化します！

設定変更しますか？
いいえ


ジョグで移動、シャトルで設定
```

2 ジョグダイヤルを右に回して「いいえ」を「はい」へ変更し、シャトルダイヤルを右に回して設定を確定する。

「いいえ」で確定した場合や設定中にアラーム記録が始まった場合は、初期画面の状態に戻りますので、再度設定を行ってください。

設定値の確認

「メインメニュー」>「2. 記録設定」>「4. 通常記録設定」の順で選択し、設定値を確認してください。
下記のように自動的に設定されます。

```
< 通常記録設定 >
記録画質              ：  HIGH
  記録画質設定        ➔
音声記録              ：  切
記録ﾚｰﾄ    ：   30 FPS (    18H)
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ記録           ：  切
```

設定：指定した時間のみ記録（タイマー記録）を行う場合

記録期間を設定した後、タイマー設定を「切」から「入」へ変更し、開始時刻と終了時刻を設定してください。また、記録画質も設定してください。
音声を記録したい場合は、音声記録を「入」に設定してください。この場合、記録レートの値の前に「A」が表示されます。

```
< 簡易記録設定1 >
記録日数              ：  30  日
ﾀｲﾏｰ記録（毎日）      ：  入
  開始時刻  09:00  終了時刻  17:00
記録画質              ：  HIGH
音声記録              ：  入

記録ｶﾒﾗ台数           ：  6  台

記録ﾚｰﾄ               ：  A15.000 FPS/台
```

設定が終了したら

シャトルダイヤルを左に回してください。
警告画面が表示されますので、ジョグダイヤルを右に回して「いいえ」を「はい」へ変更し、シャトルダイヤルを右に回して設定を確定してください。

設定値の確認

「メインメニュー」>「2. 記録設定」>「6. タイマー設定」の順で選択し、設定値を確認してください。
1行目が自動的に下記のように設定されます。
2行目以降は、入/切の設定がすべて「切」になります。簡易記録設定を行う前にタイマー設定されている場合も、すべて「切」に変更されます。

< ﾀｲﾏｰ設定 >

曜日	開始	終了	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	FPS	入/切
[日]	--:--	--:--	切	15	切
[月]	--:--	--:--	切	15	切
[火]	--:--	--:--	切	15	切
[水]	--:--	--:--	切	15	切
[木]	--:--	--:--	切	15	切
[金]	--:--	--:--	切	15	切
[土]	--:--	--:--	切	15	切
毎日	--:--	--:--	切	15	切
外部	*****	*****	切	15	切

ご注意

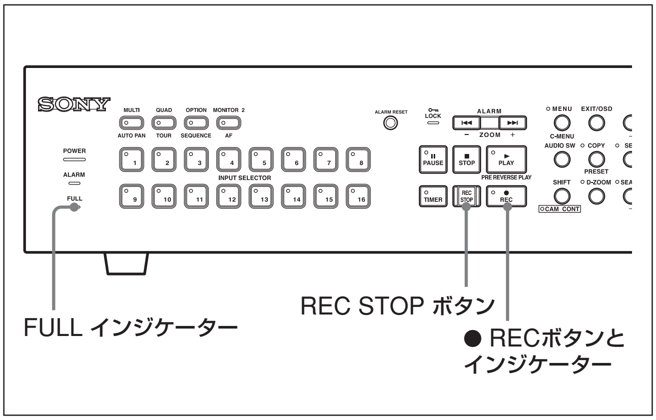
- ミラーリングまたはプリアラーム記録を「入」に設定する場合は、簡易記録設定を行う前に作業してください。
- ミラーリングを「入」に設定した場合、またはプリアラーム記録を「入」に設定した場合は、記録レートが最大30FPSに制限されます。また両方とも「入」に設定した場合は、記録レートが15FPSに制限されます。簡易記録設定を行った後にミラーリングまたはプリアラームを「入」に設定すると、通常記録設定およびタイマー設定の値が変更される場合があります。
- ミラーリングまたはプリアラームを「入」に設定した後に簡易記録設定を行う場合は、記録レートが制限されていますので、条件を満たさない場合が発生します。この場合、「エラー！」が表示されますので、記録期間やタイマー設定を変更してください。
  通常記録領域が「0%」に設定されている場合は、常に「エラー！」が表示されます。「エラー！」が表示されている場合は、設定を確定することができません。

```
< 簡易記録設定1 >
記録日数              ：  90  日
ﾀｲﾏｰ記録（毎日）      ：  切
  開始時刻  --:--  終了時刻  --:--
記録画質              ：  HIGH
音声記録              ：  切

記録ｶﾒﾗ台数           ：  6  台

記録ﾚｰﾄ               ：  エラー！
```

通常記録を実行する



記録を開始するには

● REC ボタンを押します。

ボタンのインジケーターが点灯し、記録が始まります。

指定した記録画質 / 記録レートで、記録領域に記録されます。

「音声記録」が「入」で音声記録が可能な記録レートに設定されているときは、音声も同時に記録されます。

ご注意

タイマー記録が設定されているとき（TIMERボタンのインジケーター点灯時）は、● RECボタンを押して記録を開始することはできません。TIMERボタンを押してタイマー記録を解除してください。

記録領域の上書きがOFFになっている場合は、残量が設定値（デフォルトは1%）以下になると、モニター画面に警告メッセージが表示され、FULLインジケーターが点滅し、後面パネルのFULL端子から警告信号が出力されます。

上書き記録の入/切および警告を出す残量の値は、メインメニュー「2. 記録設定」のサブメニュー「3. 記録条件設定」で変更できます。

◆詳しくは、34 ページをご覧ください。

記録を止めるには

REC STOP ボタンを押します。

記録時間

記録時間（単位：時間）

記録レート			記録画質				
1入力	16入力	TLV換算					
fps　（秒）	fps　（秒）	モード (H)	LOW	MID	HIGH	SUPER	HYPER
120.00 (0.01)	7.500 (0.13)		86 (86)	45 (45)	31 (31)	23 (23)	19 (18)
60.00 (0.02)	3.750 (0.27)	2	173 (171)	91 (91)	62 (62)	47 (47)	38 (37)
30.00 (0.03)	1.875 (0.53)	4	346 (338)	183 (181)	124 (123)	94 (93)	76 (75)
20.00 (0.05)	1.250 (0.80)	6	519 (502)	275 (270)	187 (184)	141 (140)	114 (113)
15.00 (0.07)	0.938 (1.07)	8	692 (663)	366 (358)	249 (245)	188 (186)	152 (150)
10.00 (0.10)	0.625 (1.60)	12	1,039 (974)	550 (531)	374 (365)	283 (278)	228 (224)
7.500 (0.13)	0.469 (2.13)	16	1,385 (1,272)	733 (700)	498 (483)	377 (368)	304 (298)
6.000 (0.17)	0.375 (2.67)	20	1,731 (1,558)	916 (865)	623 (599)	472 (458)	380 (371)
5.000 (0.20)	0.313 (3.20)	24	2,078 (1,833)	1,100 (1,027)	748 (713)	566 (546)	456 (443)
4.286 (0.23)	0.268 (3.73)	28	2,424 (2,098)	1,283 (1,185)	872 (826)	661 (634)	532 (514)
3.750 (0.27)	0.234 (4.27)	32	2,771 (2,352)	1,467 (1,340)	997 (937)	755 (720)	608 (585)
3.333 (0.30)	0.208 (4.80)	36	3,117 (2,597)	1,650 (1,492)	1,122 (1,046)	850 (806)	684 (655)
3.000 (0.33)	0.188 (5.33)	40	3,463 (2,834)	1,833 (1,640)	1,246 (1,154)	944 (890)	760 (724)
2.727 (0.37)	0.170 (5.87)	44	3,810 (3,061)	2,017 (1,786)	1,371 (1,260)	1,039 (974)	836 (793)
2.308 (0.43)	0.144 (6.93)	52	4,503 (3,493)	2,383 (2,067)	1,621 (1,468)	1,228 (1,138)	988 (929)
2.000 (0.50)	0.125 (8.00)	60	5,195 (3,896)	2,750 (2,338)	1,870 (1,670)	1,417 (1,298)	1,140 (1,062)
1.667 (0.60)	0.104 (9.60)	72	6,234 (4,453)	3,300 (2,724)	2,244 (1,962)	1,700 (1,533)	1,368 (1,258)
1.429 (0.70)	0.089 (11.20)	84	7,274 (4,959)	3,851 (3,088)	2,618 (2,242)	1,983 (1,759)	1,596 (1,448)
1.250 (0.80)	0.078 (12.80)	96	8,313 (5,421)	4,401 (3,432)	2,992 (2,510)	2,267 (1,979)	1,824 (1,633)
1.111 (0.90)	0.069 (14.40)	108	9,352 (5,845)	4,951 (3,757)	3,366 (2,768)	2,550 (2,191)	2,052 (1,814)
1.000 (1)	0.063 (16)	120	10,391 (6,234)	5,501 (4,066)	3,740 (3,016)	2,834 (2,398)	2,281 (1,989)
0.500 (2)	0.031 (32)	240	20,783	11,002	7,481	5,668	4,562
0.333 (3)	0.021 (48)	360	31,174	16,504	11,222	8,502	6,843
0.250 (4)	0.016 (64)	480	41,566	22,005	14,963	11,336	9,124
0.200 (5)	0.013 (80)	600	51,958	27,507	18,704	14,170	11,405
0.100 (10)	0.006 (160)	1200	103,916	55,014	37,409	28,340	22,810
0.050 (20)	0.003 (320)	2400	207,832	110,028	74,819	56,681	45,621
0.033 (30)	0.002 (480)	3600	311,748	165,043	112,229	85,022	68,432

（　）：音声記録あり

表に示された記録時間は、下記の条件での値を表しています。

- 本機のハードディスクドライブの容量は500GBです。
  ハードディスクドライブの容量が2倍になれば記録時間も2倍、4倍になれば記録時間も4倍になります。
- ドライブ容量の20%をアーカイブ領域、残りの80%を記録領域に設定
- カメラが複数台になった場合は、記録領域をシェアして使用します。例えば、記録レートを1 FPS（1秒周期）に設定した場合、カメラが6台のときはそれぞれのカメラは0.167FPS（6秒周期）で記録されることになります。

ご注意

JPEG2000で圧縮して画像を記録しているため、画像によってファイルサイズが若干異なります。そのため記録時間が表の値と必ずしも一致しない場合があります。

記録レート

表示順	記録レート(注1) (fps)	ノーマルRECレート		プログラムRECレート		"アラームRECレート"	プリアラームRECレート	
		ミラーリング無	ミラーリング有	ミラーリング無	ミラーリング有		ミラーリング無	ミラーリング有
1	120	○(注2)					○(注2)	
2	60	○(注3)	○(注3)			○(注3)	○(注3)	○(注3)
3	30	○	○	○	○	○	○	○
4	20	○	○			○	○	○
5	15	○	○	○	○	○	○	○
6	10	○	○			○	○	○
7	7.5	○	○	○	○	○	○	○
8	6	○	○			○	○	○
9	5	○	○			○	○	○
10	4.29	○	○			○	○	○
11	3.75	○	○	○	○	○	○	○
12	3.33	○	○			○	○	○
13	3	○	○			○	○	○
14	2.73	○	○			○	○	○
15	2.31	○	○			○	○	○
16	2	○	○			○	○	○
	1.875			○	○			
17	1.67	○	○			○	○	○
18	1.43	○	○			○	○	○
19	1.25	○	○			○	○	○
20	1.11	○	○			○	○	○
21	1	○	○	○	○	○	○	○
22	0.5	○	○	○	○	○		
23	0.33	○	○	○	○	○		
24	0.25	○	○	○	○	○		
25	0.2	○	○	○	○	○		
26	0.1	○	○	○	○	○		
27	0.05	○	○	○	○	○		
28	0.03	○	○	○	○	○		

（注1） 全CH合計での最高記録ﾚｰﾄであり、ON設定されているカメラでシェアされます。

（注2） カメラ1台のみ記録時は最高30FPS（0.033秒）、カメラ4台以上記録時は最高120FPS（0.008秒）

（注3） カメラ1台のみ記録時は最高30FPS（0.033秒）、カメラ2台以上記録時は最高60FPS（0.017秒）

アラーム記録

アラーム記録の条件を設定する

アラーム記録には、トリガーの種類を含め、次のような条件を設定できます。
設定は、メインメニュー「2. 記録設定」のサブメニュー「7. アラーム記録設定」で行います。

<アラーム記録設定>画面

```
< アラーム記録設定 >
アラーム記録              ：  切
記録画質                  ：  HIGH
  記録画質設定                ➔
音声記録                  ：  切
記録パターン              ：  ONLY
  記録レート：  15FPS，   持続時間：20秒
プリアラーム記録          ：  切
  記録レート：  *****FPS，持続時間：*****
アラームトリガー          ：  アラーム
  アクティビティーセンサー    ➔
```

アラーム記録

アラーム記録の実行モードを指定します。

入： タイマー記録の設定に関わらず、アラーム記録を受け付ける

タイマー中アラーム： タイマー記録が行われている間にのみ、アラーム記録を受け付ける

タイマー外アラーム： タイマー記録が行われていない間にのみ、アラーム記録を受け付ける

タイマー中アラームのみ： タイマー記録は行わず、タイマーが設定されている時間の間のみアラーム記録を受け付ける

切： アラーム記録を行わない。

記録画質、音声記録

それぞれ通常記録と同様に設定できます。

カメラ毎の記録画質設定

通常記録と同様に設定できます。

記録パターン

SW: アラームが入ったカメラの映像と、アラームの入っていないすべてのカメラ映像を交互に記録します。

例1：カメラ1にアラームが入った場合
1→2→1→3→1→4→1→5→1→6→1→7→1・・・

例2：カメラ1と2にアラームが入った場合
1→3→2→4→1→5→2→6→1→7→2→8→1・・・

ONLY: アラームが入ったカメラの映像のみを記録します。複数のアラームが入った場合は、アラーム映像を交互に録画します。

ALL: 接続されているすべてのカメラの映像を順次録画します。

記録レート

通常記録と同様に記録レートを設定します。

持続時間

5秒〜15分: すべてのカメラに共通のアラーム記録持続時間を設定します。

CC: アラームが「入」の間（最短5秒）記録します。

プリアラーム記録

プリアラーム記録を行うときは、「アラーム記録」を「入」にしてから「プリアラーム記録」を「入」にし、記録レートおよび記録（持続）時間を設定します。

ご注意

- 「アラーム記録」が「切」に設定されているときは、「プリアラーム記録」にカーソルを移動することはできません。
- プリアラーム記録を設定しても、通常記録およびタイマー記録が実行されている時は、プリアラーム記録を行いません。通常記録およびタイマー記録が終了した時点でプリアラーム記録が開始されます。

記録レート (FPS)	選択できる記録時間（s: 秒　m: 分）
120	5s/10s/20s/40s/1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
60	5s/10s/20s/40s/1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
30	5s/10s/20s/40s/1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
20	5s/10s/20s/40s/1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
15	5s/10s/20s/40s/1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
10	10s/20s/40s/1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
7.5	10s/20s/40s/1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
6	10s/20s/40s/1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
5	20s/40s/1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
4.286	20s/40s/1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
3.75	20s/40s/1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
3.333	20s/40s/1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
3	20s/40s/1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
2.727	20s/40s/1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
2.308	40s/1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
2	40s/1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
1.875	1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
1.667	1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
1.429	1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
1.25	1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
1.111	1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m
1	1m/2m/3m/4m/5m/10m/15m

アラームトリガー

アラームのトリガーを選択します。

アラーム： 外部アラーム入力

センサー： 内部アクティビティーディテクションセンサーによる輝度変化の検出

アラームANDセンサー： 外部アラームと内部アクティビティーディテクションセンサーのアラームの両方が同時にONになったとき

アラームORセンサー： 外部アラームと内部アクティビティーディテクションセンサーのアラームのどちらかがONになったとき

アクティビティーセンサー

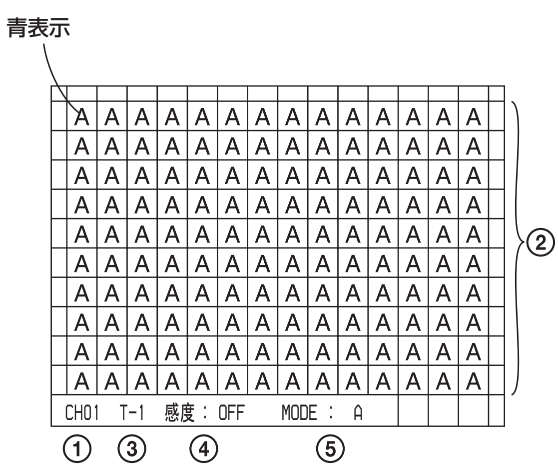
アラームトリガーにセンサーを選択したとき、設定を行います。

アクティビティーディテクションセンサーを設定するには

内部アクティビティーディテクションセンサーを使用するときは、カメラごとにセンサーを働かせるポイント、動作させる時間帯、感度、および動作モードの設定が必要です。

<アラーム記録設定>画面の「アクティビティーセンサー」にカーソルを合わせ、シャトルダイヤルを右に回してセンサー設定画面に切り換えます。

10×14のセンサーポイントが表示され、左上のポイントが青で表示されます。青表示はカーソル位置を示します。



1 **カメラを選択する。（設定項目①）**

センサーを設定するカメラに対応するINPUT SELECTORボタンを押します。

設定画面の左下に選択したカメラの番号が表示されます。

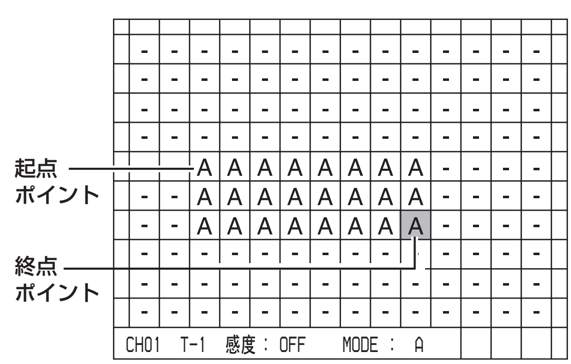
2 **センサーを設定する。（設定項目②）**

センサーの動作モードは初期値「A」に設定されています。
変更したい場合は、ジョグダイヤルを回して、変更したいポイントを青色表示させ、シャトルダイヤルを右に回して「B」または「ー」を選択します（手順**5**の「動作モードを設定する」の項を参照）。
メニューリセットボタンで、全エリアを一括変更することができます。ボタンを押すたびに“A”と“ー”が交互に切り換わります。
SHIFTキーを押してからジョグダイヤルを回すと、カーソルが縦に移動します。

範囲内のセンサーを一括で指定するときは

起点ポイントと終点ポイントを指定して、その範囲内のセンサーを一括で指定できます。

1) メニューリセットボタンを押して、全エリアを“ー”に設定する。
2) ジョグダイヤルを回して起点にするポイントにカーソルを移動させ、シャトルダイヤルを右に回す。
3)「A」または「B」を選択し、シャトルダイヤルを右に回す。「A」または「B」の表示が黄色に変わります。
4) ジョグダイヤルを回して終点にするポイントにカーソルを移動させ、シャトルダイヤルを右に回す。
選択した範囲内のセンサーが一括で指定されます。



3 **センサーを働かせたい時間帯を選択する。（設定項目③）**

時間帯によって、④感度と⑤動作モードを異なる設定にすることができます。
動作させる時間帯を設定していない場合は、T-1が選択されるので、手順4に進んでください。

右下のセンサーポイントでジョグダイヤルを右に回すと、画面最下行の時間帯設定コラム（T-1、T-2、T-3、T-4のいずれかを選択可）が点滅します。

1）シャトルダイヤルを右に回す。
　現在の設定が点滅します。
2）ジョグダイヤルで時間帯を選択し、シャトルダイヤルを右に回して確定する。

次のコラムに点滅が移動します。

4 **センサーの感度を設定する。（設定項目④）**

センサー感度（LEVEL）設定コラムを点滅させます。
センサーの感度を1～10の間で選択できます。数字が小さいほど感度が高くなります。1が最高感度です。「切」にするとセンサーは働きません。
時間帯設定コラムと同様に設定します。

5 **センサーの動作モードを設定する。（設定項目⑤）**

動作モード（MODE）設定コラムを点滅させます。

A: Aのポイントで動きのある被写体を検知するとアラームになります。
B: Bのポイントで動きのある被写体を検知するとアラームになります。
A AND B: AとBの両方のポイントにかかる被写体を検知するとアラームになります。
A AND NB: 重要なポイントをAに設定し、動きや変化のないポイントをBに設定することによって、画面全体の明るさの変化には反応せず、Aポイントでの変化を検知するとアラームになります。
A TO B: AポイントからBポイントを通過する被写体を検知するとアラームになります。
B TO A: BポイントからAポイントを通過する被写体を検知するとアラームになります。
C: 画面全体が均一な状態に変化した場合（カメラのレンズにスプレーがかけられた場合など）アラームになります。

手順**3**、**4**、**5**を繰り返し行うことにより、時間帯によってセンサー感度（設定項目④）と動作モード（設定項目⑤）を異なる設定にすることができます。

例

T1：感度1、MODE A
T2：感度5、MODE B TO A
T3：感度 切
T4：感度3、MODE B

ポイントの色表示

感度と動作モードが設定されたポイントは、緑表示になります。
動きを検出すると赤色表示に変わります。

感度設定中に動きを検出したときは

ブザーが鳴り、検知したポイントが赤色表示になります。
これにより、設定画面での動き検出チェックが可能です。

センサー設定画面を抜けるには

センサーの設定が終ったらシャトルダイヤルを左に回します。＜アラーム記録設定＞画面に戻ります。

設定が終わったら

EXIT/OSDボタンを押してメニューモードを解除します。

アラーム時の動作や表示を設定する

アラームが重複した場合の動作や、アラーム時のモニターの表示モードを設定することができます。
設定は、メインメニュー「2. 記録設定」のサブメニュー「8. アラーム動作/表示設定」で行います。

＜アラーム動作設定＞画面

< ｱﾗｰﾑ動作設定 >
ｱﾗｰﾑﾘﾄﾘｶﾞｰ　：　入

ﾒｲﾝﾓﾆﾀｰ表示　：　1画面
複数ｱﾗｰﾑ時表示　：　ﾗｽﾄ
ﾓﾆﾀｰ2表示　：　NC

アラームリトリガー

アラーム持続時間中に、同じカメラに再度アラームが入ったときの処理モードを設定します。

入：持続時間を延長する。

切：持続時間を延長しない。

メインモニター表示

アラーム記録中のメインモニターの表示モードを設定します。

1画面：アラームが入ったカメラの映像をフル画面で表示する。

9画面：カメラ画像を9分割画面で表示する。

16画面：カメラ画像を16分割画面で表示する。

NC：アラームを検出しても、その時点までの表示を継続する。

複数アラーム時表示

複数のアラームが重なったときのモニターの表示モードを設定します。

ラスト：最後に入ったアラームの画像を表示する。

トップ：最初に入ったアラームの画像を表示する。

切換：それぞれのアラームの画像を1秒ごとに切り換えて表示する。

モニター2表示

MON 2端子に接続したモニター2の アラーム時の表示を設定します。

1画面：アラームが入ったカメラの映像をフル画面で表示する。

9画面：カメラ画像を9分割画面で表示する。

16画面：カメラ画像を16分割画面で表示する。

NC：アラームを検出しても、その時点までの表示を継続する。

アラーム記録/プリアラーム記録を実行する

アラーム記録を「入」に設定してメニューを抜けた後、指定したトリガーが検出されると、<アラーム記録設定>画面で設定した条件でアラーム記録が開始されます。

アラーム記録が行われると、モニター画面にカウント表示されます。カウント値は9999999を超えると0000000に戻ります。

プリアラーム記録を「入」に設定したときは、メニューを抜けると、本機は直ちにカメラ入力画像のプリアラーム記録を開始します。プリアラーム記録では、指定した時間の記録領域への上書き記録を繰り返します。トリガーが検出されるとアラーム記録に切り換わります。

プリアラーム記録を設定しても、通常記録およびタイマー記録が実行されている時は、プリアラーム記録を行いません。通常記録およびタイマー記録が終了した時点でプリアラーム記録が開始されます。

ALARMボタンのインジケーターが、プリアラーム記録中は点灯、アラーム記録中は点滅します。

ご注意

- 通常記録実行中にトリガーが検出されたときは、アラーム記録を実行し、アラーム終了後、通常記録を継続します。
- アラーム記録件数の上限は、ミラーリングOFF時2,000,000件で、それ以上になると、アラーム記録が上書きされます。（ミラーリングON時1,000,000件）

タイマー記録

毎週指定した曜日の指定した時間帯に録画したり、毎日指定した時間帯に記録を実行することができます。
最大8件のタイマー記録と、外部タイマー（制御端子EXT TIMER入力）による記録を設定できます。
「休日設定」を行うと、指定した日の曜日に関わらず、日曜日と同じ条件でタイマー記録を実行できます。

タイマー記録では、通常記録に選択されたのと同じ記録画質で記録領域に記録されます。

タイマー記録を実行する前に
内蔵の時計が正しく設定されていることを確認してください。設定はメインメニュー「1.初期設定」のサブメニュー「1. 時刻設定」（31ページ）で行います。

タイマー記録の条件を設定する

録画を行う曜日、開始時刻・終了時刻を設定します。
設定は、メインメニュー「2.記録設定」のサブメニュー「6. タイマー設定」で行います。

＜タイマー設定＞

曜日	開始	終了	プログラム	FPS	入/切
[日]	--:--	--:--	切	15	切
[月]	--:--	--:--	切	15	切
[火]	--:--	--:--	切	15	切
[水]	--:--	--:--	切	15	切
[木]	--:--	--:--	切	15	切
[金]	--:--	--:--	切	15	切
[土]	--:--	--:--	切	15	切
毎日	--:--	--:--	切	15	切
外部	*****	*****	切	15	切

開始： 記録開始時刻を、時、分の順番で設定します。
終了： 記録終了時刻を、時、分の順番で設定します。
プログラム： プログラム記録機能を使用するときは、P-1～P-4のいずれかを選択します。使用しないときは、「切」を選択します。
◆プログラム記録機能については、「プログラム記録を設定する」（51ページ）をご覧ください。
記録レート： 記録レートを設定します。プログラム記録を設定している場合はここで設定する必要はありません。
入/切： 設定した条件でタイマー記録を実行させるときは「入」にします。

記録画質は通常記録に選択されたものが適用されます。
音声記録が可能な場合は、FPS値の前に「A」が表示されます。

設定手順

1 メインメニューから「2. 記録設定」を選択する。

2 記録設定メニューから「6. タイマー設定」を選択する。

＜タイマー設定＞画面が表示されます。

3 ジョグダイヤルを回して設定する行を選び、シャトルダイヤルを右に回して確定する。

選択した行の「曜日」欄が点滅します。

4 ジョグダイヤルを回して曜日を選択し、シャトルダイヤルを右に回して確定する。

毎日同じ条件で記録するときは、「毎日」（月曜日～日曜日までのすべての曜日を含む）に設定します。
「開始」の左側の欄が点滅します。

5 ジョグダイヤルとシャトルダイヤルで、同じ行の各項目を設定する。

2日にまたがる録画を実行するには
開始時刻より、終了時刻が早い場合は、終了時刻の前に「T」（Tomorrowの頭文字）が表示され、2日にまたがって録画が実行されます。

例： 日曜の20時から月曜の6時まで録画する

```
[日] 20：00 T06：00 切 10 入
```

24時間を超える録画を実行するには
下から2行目と3行目を使用します。
上の行で開始日時を、下の行で終了日時を設定します。

例： 土曜の19時から月曜の6時まで録画する

```
[土] 19：00 **：** *** **** ***
[月] **：** T06：00 切 A15 入
```

上の行の終了時刻で「**」を選択すると、下の行の開始時刻までが「**」に設定されます。
シャトルダイヤルを右に回すと下の行の曜日が点滅します。
曜日を設定してシャトルダイヤルを右に回すと下の行の終了時刻が点滅しますので、終了時刻以降の項目を設定します。

設定が終わったら

EXIT/OSDボタンを押してメニューモードを解除します。

タイマー設定の優先順位

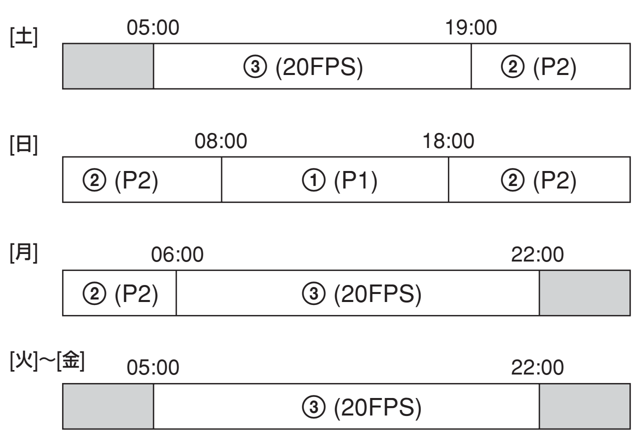
複数の設定行で時間の重なりが生じた場合は、重なった部分の時間のみ下記の順番で設定が優先されます。

① 単独曜日の設定（2日にまたがる設定も含む）
② 24時間を超える設定
③「毎日」の設定
④ 外部タイマー設定

例：

曜日	開始	終了	プログラム	FPS	入/切	優先順位
毎日	05：00	22：00	切	20	入	←③（毎日）
[日]	08：00	18：00	P1	****	入	←①（単独曜日）
[土]	19：00	**：**	***	****	***	←②（24H超）
[月]	**：**	06：00	P2	****	入	
外部	*****	*****	切	10	入	←④（外部タイマー）

上記の設定では、それぞれの記録レートまたはプログラム設定は、以下のようになります。
記録画質は〈通常記録設定〉画面で設定した記録画質になります。



▢ の時間帯で外部タイマー入力がある（EXT TIMER端子が0 Vになる）と、記録レート10FPSで記録が実行されます。

休日設定

休日に指定した日は、日曜日と同じ条件でタイマー記録が実行されます。
1年のうち任意の20日を休日指定することができます。

1 メインメニューから「1. 初期設定」を選択する。

2 サブメニュー「4. 休日設定」を選択する。

<休日設定>画面になります。

<休日設定>

1. 03-29	11. -----
2. 04-15	12. -----
3. -----	13. -----
4. -----	14. -----
5. -----	15. -----
6. -----	16. -----
7. -----	17. -----
8. -----	18. -----
9. -----	19. -----
10. -----	20. -----

3 設定したい行（1〜20）にカーソルを合わせ、シャトルダイヤルを右に回して確定する。

月の欄が点滅します。

4 ジョグダイヤルを回して、休日設定したい月を指定し、シャトルダイヤルを右に回して確定する。

日の欄が点滅します。

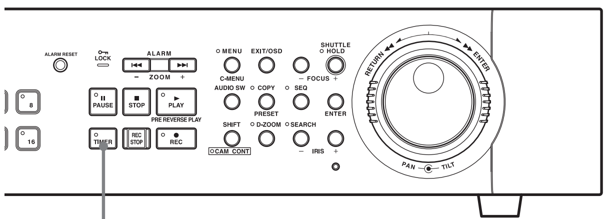
5 ジョグダイヤルを回して、休日に設定したい日を選択し、シャトルダイヤルを右に回して確定する。

同様に20日まで設定できます。

設定が終わったら

EXIT/OSDボタンを押してメニューモードを解除します。

タイマー記録を実行する



TIMERボタンとインジケーター

タイマー記録を有効にするには

TIMERボタンを押します。

ボタンのインジケーターが点灯し、タイマー記録待機状態になります。

「開始」に指定した曜日の指定した時刻になると自動的に記録が始まり、● RECボタンのインジケーターが点灯します。

タイマー記録では、通常記録に設定された記録画質で記録されます。

指定した「終了」時刻になると、記録が終了します。

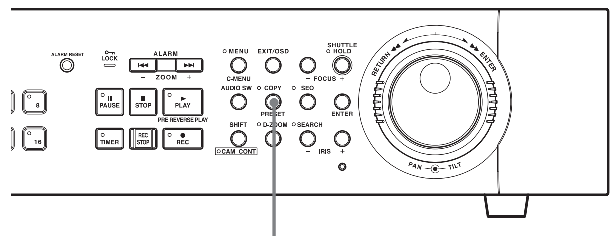
タイマー記録をキャンセルするには

TIMERボタンを押してインジケーターを消灯させ、タイマー記録待機状態を解除します。

タイマー記録実行中の場合も、TIMERボタンを押すと、その時点で記録が停止します。

データの保存

COPYボタンを使って、記録領域に記録されたデータ、独立したアーカイブ（記録保存）領域や、コンパクトフラッシュ、メモリースティック、CD-R/RW、DVD+R/+RWなどの外部メディアにコピーし、保存しておくことができます。



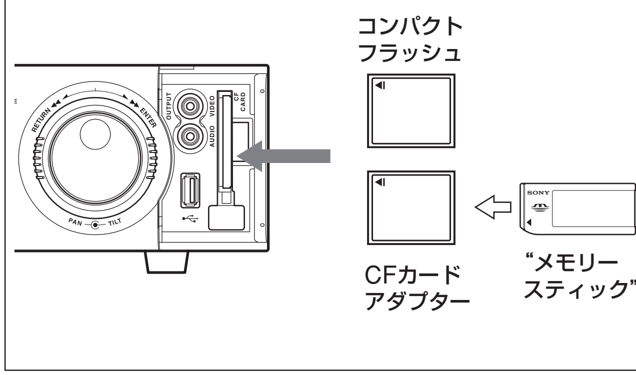
COPYボタンとインジケーター

ご注意

- コンパクトフラッシュ、メモリースティックへの1回のコピー動作におけるデータ数の上限は、40,000枚です。
- 分割画面表示のときは、コピーできません。フル画面表示に切り換えてください。
- アーカイブ（記録保存）領域へコピーするときは、音声はコピーされません。
- 音声記録されていないファイルが先頭にあるときは、音声はコピーされません。
- 先頭のファイルが音声記録されていても、コピーの途中で音声記録されていないファイルが含まれている場合は、それ以降音声はコピーされません。

外部メモリーを使うには

USB接続により、CD-R/RW、DVD+R/+RWにデータを保存できるほか、前面のCFカードスロットにより、コンパクトフラッシュにもデータを保存できます。
また、市販のCFカードアダプターを使用すれば、"メモリースティック" などへのデータコピーも可能です。



データをアーカイブ領域またはコンパクトフラッシュ、CD-R/RW、DVD+R/+RWにコピーする

記録領域内の画像データをコピーする場合は次のように操作します。

◆すでにアーカイブ領域にコピーされているデータをコンパクトフラッシュなどにコピーする場合は、次ページ「データをアーカイブ領域からコンパクトフラッシュにコピーする」に従って操作してください。

1 フル画面表示で再生モードにし、コピーを開始したい画像が表示されたら❚❚ PAUSEボタンを押して静止画モードにする。

2 COPYボタンを押す。

COPYボタンのインジケーターが点灯し、コピー設定画面が表示されます。

ｺﾋﾟｰ先	：	ｱｰｶｲﾌﾞ領域
単位	：	枚
AUDIO	：	切
保存枚数	：	1枚
ｺﾋﾟｰ開始		➔
ﾌｫｰﾏｯﾄ/ｲﾚｰｽ	：	ｺﾝﾊﾟｸﾄﾌﾗｯｼｭ
ﾌｫｰﾏｯﾄ開始		➔

ｼﾞｮｸﾞで移動、ｼｬﾄﾙで設定

3 「コピー先」で画像のコピー先を指定するときは、シャトルダイヤルを右に回す。

アーカイブ領域： アーカイブ領域にコピーするとき

コンパクトフラッシュ： コンパクトフラッシュなどにコピーするとき

ディスクライター： CD-R/RW、DVD+R/+RWにコピーするとき（USB端子にドライブが接続されているときのみ表示します）

ジョグダイヤルでコピー先を選び、シャトルダイヤルを右に回して確定します。

「単位」の行が反転します。

4 「単位」の行でコピーする画像の量を設定するときは、シャトルダイヤルを右に回す。

5 ジョグダイヤルで単位を選択して、シャトルダイヤルを右に回して確定する。

枚： 枚数で指定するとき

時間： 時間（時間：分：秒）で指定するとき

MAXIMUM： コピー先の容量がいっぱいになるか、コピー元の最後のデータまでコピーする。

「保存枚数」が反転します。

"MAXIMUM" を選択した場合は、手順7に進んでください。

6 シャトルダイヤルを右に回す。

枚数または時間を指定して、シャトルダイヤルを右に回します。

「コピー開始」が反転します。

7 シャトルダイヤルを右に回す。

コピーデータとコピー先の容量をチェックします。

チェックが終了すると、書き込み確認画面が表示されます。

```
コピー先      ： ディスクライター
メディアタイプ   ： DVD+R
空き容量      ： 5000MB
データサイズ    ： 3526MB

コピー枚数     ：    1
コピー開始            →
```

コピー枚数： コピーするメディアの枚数を設定する（コピー先に「ディスクライター」を選択した場合のみ表示します）。

8 シャトルダイヤルを右に回す。

コピーが始まります。

コピーが終了するとCOPYボタンのインジケーターが消灯します。

途中でコピーを中止するには

COPYボタンを押します。コピーがキャンセルされます。

アーカイブ領域がいっぱいになったときは

メインメニュー「2. 記録設定」のサブメニュー「2. 記録領域設定」で領域全体をリセットすることができます。

特定のイベントのみを削除することはできません。

ご注意

コンパクトフラッシュへコピーする場合、コピー枚数に制限があります。一度にコピーできる枚数は、最大40,000枚です。コピー開始後、40,000枚に達した時点でコピーは中断されます。40,001枚以上のコピーをする場合は、何回かに分けてコピー作業を行ってください。

コンパクトフラッシュ、CD-RW、DVD+RWをフォーマットするには

コンパクトフラッシュ、CD-RW、DVD+RWをフォーマットすることによって、以前に保存されたデータをすべて消去して使用することができます。

フォーマットはコピー設定画面で行います。

1 コンパクトフラッシュカードまたはCD-RW、DVD+RWをセットする。

2 本機を静止画モードにして、COPYボタンを押し、コピー設定画面を表示させる。

3 ジョグダイヤルを回してカーソルを「フォーマット/イレース」に合わせ、シャトルダイヤルを右に回す。

4 フォーマットするメディアを選択して、シャトルダイヤルを右に回す。

確認メッセージが表示されます。

5 ジョグダイヤルを回して「フォーマット開始」を選択し、シャトルダイヤルを右に回す。

フォーマットが始まります。
フォーマット中は、フォーマットの進捗状態が表示されます。

フォーマットが終了すると終了メッセージが表示され、COPYボタンのインジケーターが消灯します。

データをアーカイブ領域からコンパクトフラッシュ、CD-R/RW、DVD+R/+RWにコピーする

すでにアーカイブ領域にコピーされているデータをコンパクトフラッシュ、CD-R/RW、DVD+R/+RWにコピーする場合は次のように操作します。

1 SEARCHボタンを押してサーチメニュー（80ページ）を呼び出し、「アーカイブ領域サーチ」を選んで、シャトルダイヤルを右に回す。

2 コピーしたいイベントを選び、シャトルダイヤルを右に回す。

3 コピーを開始したい画像が表示されたら、❚❚ PAUSEボタンを押して静止画モードにする。

4 COPYボタンを押す。

COPYボタンのインジケーターが点灯し、コピー設定画面が表示されます。

5 シャトルダイヤルを右に回して、コピー先を選択する。
（CFカードアダプターを使用して“メモリースティック”などにコピーする場合も、「コピー先」は「コンパクトフラッシュ」になります。）

「単位」の行が反転します。

6 「単位」の行でコピーする画像の量を設定するときは、シャトルダイヤルを右に回す。

7 ジョグダイヤルで単位を選択して、シャトルダイヤルを右に回して確定する。

枚： 枚数で指定するとき
時間： 時間（時間：分：秒）で指定するとき
MAXIMUM： コピー先の容量がいっぱいになるか、コピー元の最後のデータまでコピーする。

「保存枚数」が反転します。
“MAXIMUM”を選択した場合は、手順9に進んでください。

8 シャトルダイヤルを右に回す。
枚数または時間を指定して、シャトルダイヤルを右に回します。
「コピー開始」が反転します。

9 シャトルダイヤルを右に回す。

コピーデータとコピー先の容量をチェックします。
チェックが終了すると、書き込み確認画面が表示されます。

ｺﾋﾟｰ先	：	ﾃﾞｨｽｸﾗｲﾀｰ
ﾒﾃﾞｨｱﾀｲﾌﾟ	：	DVD+R
空き容量	：	5000MB
ﾃﾞｰﾀｻｲｽﾞ	：	3526MB
ｺﾋﾟｰ枚数	：	1
ｺﾋﾟｰ開始		➔

コピー枚数：コピーするメディアの枚数を設定する（コピー先に「ディスクライター」を選択した場合のみ表示します）

10 シャトルダイヤルを右に回す。

コピーが始まります。
コピー中は、コピーの進捗状態が％で表示されます。

コピーが終了すると終了メッセージが表示され、COPYボタンのインジケーターが消灯します。

途中でコピーを中止するには

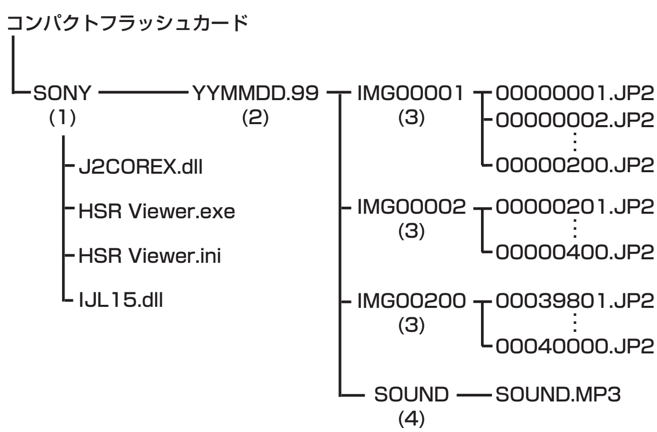
COPYボタンを押します。コピーがキャンセルされます。

コピーした映像をコンピューターで再生する

コンパクトフラッシュ、CD-R/RW、DVD+R/+RWにコピーした映像をコンピューターで見ることができます。

コンパクトフラッシュにコピーした映像をコンピューターで見る

コピーしたコンパクトフラッシュには、下記のフォルダが作成され、画像が保存されます。

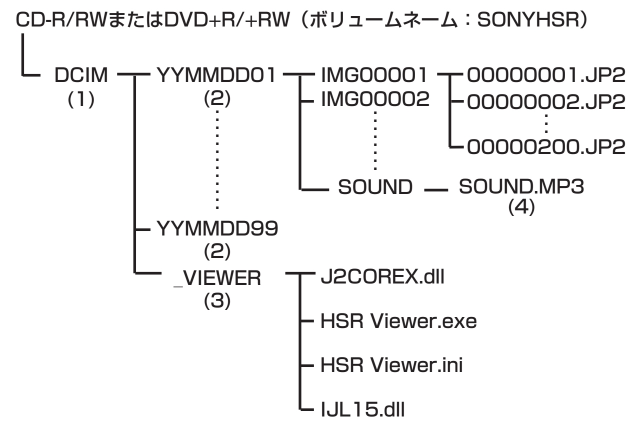


(1) ルートディレクトリの下に "SONY" が作成されます。
(2) "SONY"の下に、コピーする先頭画像が記録された年月日＋2桁連番のフォルダが作成されます。
(3) 日付フォルダの下に "IMG00001" から始まるサブディレクトリが作成されます。
各サブディレクトリには200枚ずつの画像が保存されます。
(4) 日付フォルダの下に "SOUND" サブディレクトリが作成されます（アーカイブ領域からコピーした場合は作成されません）。

コンピューターで映像を見るときは、"YYMMDD99"をブラウザで開きます。

CD-R/RW、DVD+R/+RWにコピーした映像をコンピューターで見る

コピーしたCD-R/RWやDVD+R/+RWには、下記のフォルダが作成され、画像が保存されます。



(1) ルートディレクトリの下に "DCIM" が作成されます。
(2) "DCIM"の下に、コピーする先頭画像が記録された年月日＋2桁連番のフォルダが作成されます。
各サブディレクトリには200枚ずつの画像が保存されます。
(3) "DCIM"の下に、"_VIEWER"フォルダが作成されます。
(4) 日付フォルダの下に "SOUND" サブディレクトリが作成されます（アーカイブ領域からコピーした場合は作成されません）。

コンピューターで映像を見るときは、"YYMMDD99"をブラウザで開きます。

HSR Viewerをインストールする

HSR Viewerは、HSR-J2000シリーズに対応した再生専用アプリケーションソフトです。
本機からコンピューターのハードディスクやコンパクトフラッシュなどの記録媒体に保存された画像や音声データを再生する際にご利用ください。

HSR Viewerをインストールする

HSR Viewerのご利用に際しては、まず以下の手順で、HSR Viewerをインストールしてください。

1 インストーラーの起動

1. CD-ROMをCD-ROMドライブに入れる。
   表紙ページが自動的にブラウザーで表示されます。
   ブラウザーで自動的に表示されないときは、CD-ROMに入っているindex.htmファイルをダブルクリックしてください。
2. 「HSR Viewer」を選択し、クリックする。
   インストーラーが起動します。

ご注意

すでに旧バージョンのHSR Viewerがインストールされている場合は、「HSR Viewerの修復/削除」画面が表示されるので、「HSR Viewerの削除」を選択して［完了］をクリックしてください。



旧バージョンの削除が完了したら［閉じる］をクリックして、手順1からインストールをやり直してください。

2 インストールの開始

「HSR Viewerセットアップウィザードへようこそ」画面で［次へ］をクリックすると、インストール作業が始まります。



3 インストールフォルダの指定

「インストールフォルダの選択」画面に表示されているインストール先のフォルダを確認し、［次へ］をクリックします。
インストール先を変更したい場合は、［参照］をクリックしてフォルダを指定してください。



4 インストールの確認

［次へ］をクリックするとインストールを開始します。



5 インストールの終了

インストールが終了すると以下の画面が表示されるので［閉じる］をクリックします。



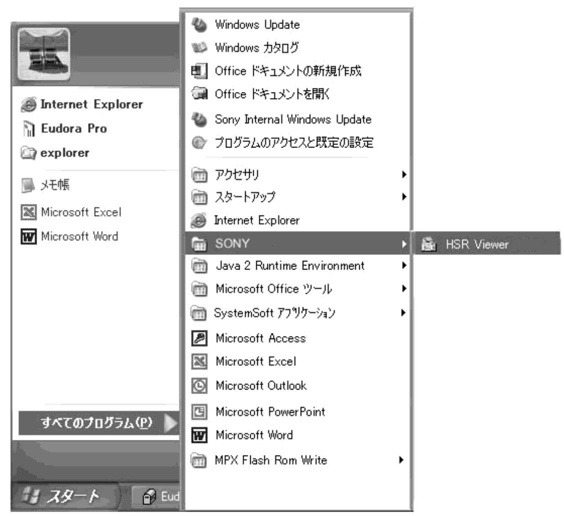
セットアップが完了し、デスクトップにHSR Viewerのショートカットアイコンが作成されます。



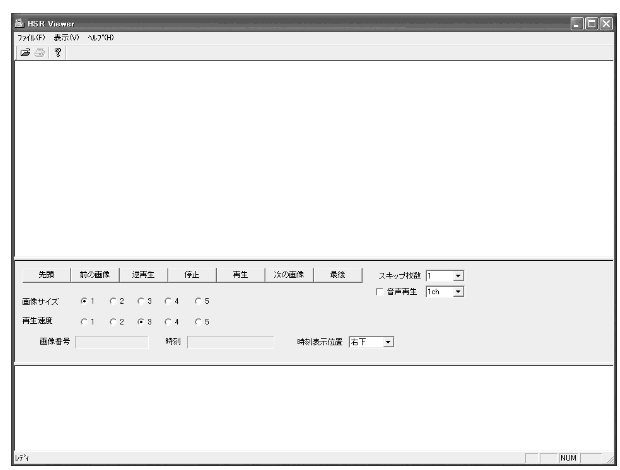
HSR Viewerを起動する

デスクトップにあるHSR Viewerのショートカットアイコンをダブルクリックする。

または、スタートメニューから［すべてのプログラム］→［SONY］→［HSR Viewer］を選択し左クリックするとHSR Viewerを起動することができます。

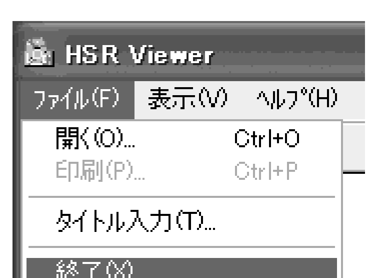


HSR Viewerが立ち上がると、次の初期画面が表示されます。



HSR Viewerの終了方法

画面右上の ボタンをクリックするか、あるいは［ファイル］メニューの［終了］をクリックするとHSR Viewerを終了することができます。

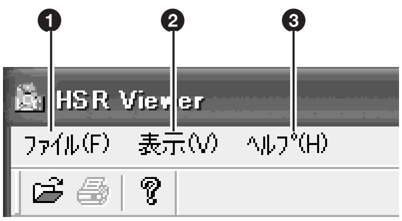


メニュー構成

HSR Viewerの基本メニューは、画面左上のメニューバーとツールバーに集約されています。
メニューを実行する場合は、それぞれのコマンドをクリックしてください。

1. メニューバー

HSR Viewerの基本メニューです。
クリックするとそれぞれのコマンドの詳細が一覧できます。



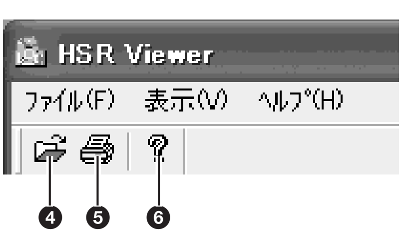
❶ ファイル（F）
開く（O）：ファイルを「開く」のダイアログボックスを表示します。
印刷（P）：指定した画像を印刷します。
タイトル入力（T）：印刷画像のタイトル入力用のダイアログボックスを表示します。
終了（X）：HSR Viewerを終了します。

❷ 表示（V）
ツールバー（T）：ツールバーの表示・非表示を切り換えます。
ステータスバー（S）：画面下のステータスバーの表示・非表示を切り換えます。
分割（P）：画面下の境界線を上下に移動させます。
日付表示形式（D）：日付の表示方式を設定します。

❸ ヘルプ（H）
現在作動中のHSR Viewerのバージョン情報を表示します。

2. ツールバー

使用頻度の高いコマンドボタンが配置されています。

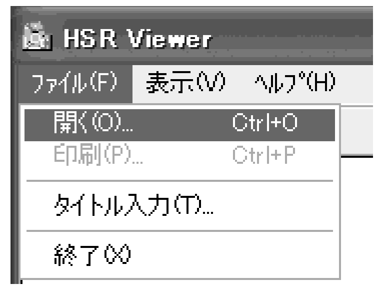


❹［ファイル（F）］メニューの［開く（O）］と同じコマンドです。
❺［ファイル（F）］メニューの［印刷（P）］と同じコマンドです。
❻［ヘルプ（H）］と同じコマンドです。

ファイルを開く

HSR Viewerが立ち上がったら、以下の手順で再生したい画像ファイルを開きます。

1 ［ファイル］メニューの［開く（O）］をクリックする。



あるいは、ツールバーの をクリックしてください。
「開く」のダイアログボックスが表示されます。

2 ドライブとフォルダを指定する。

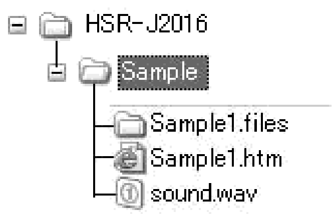


［参照...］をクリックするとフォルダツリーが一覧できますので、閲覧したいフォルダを指定して［OK］をクリックしてください。
サムネイル画像を表示させる場合は、「サムネイル表示」をオンにします。

ご注意

- 音声を再生する場合は、必ずsound.wavファイルを含むフォルダを指定してください。

下図の場合　D:¥HSR-J2016¥Sample

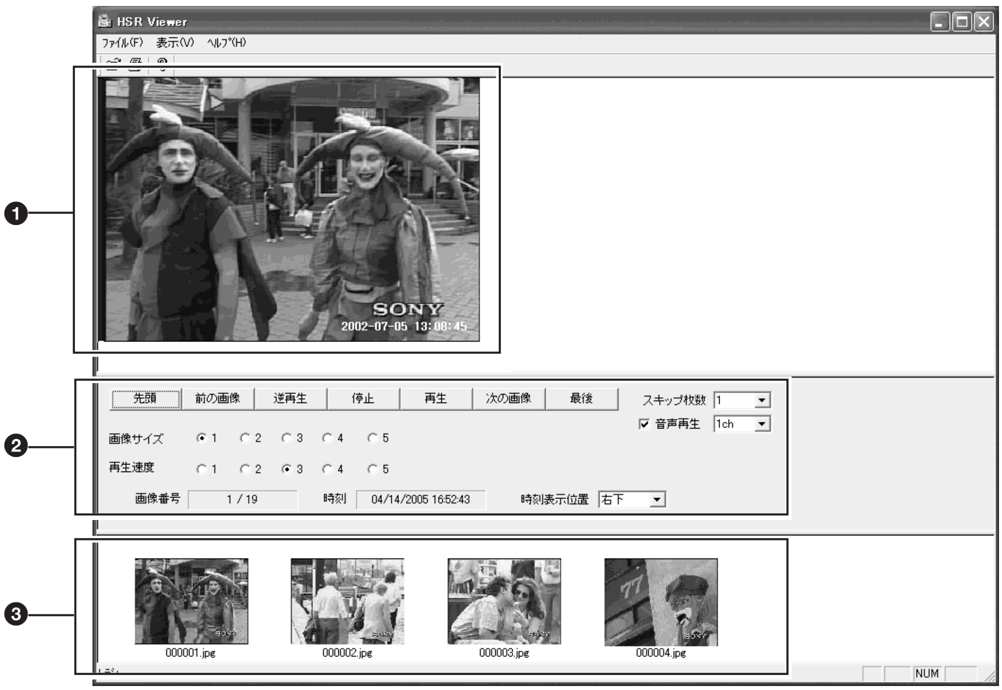


ご注意

- HSR-X200およびHSR-X209において、SCSI経由でCD-Rにコピーした画像は開くことができません。HSR-X200およびHSR-X209からCD-Rにコピーした画像を開く場合は、HSR-X200 Viewerをお使いください。
- アラーム通知で転送された画像ファイルやコピー/ダウンロードした画像ファイルの内1枚など、画像ファイルを単独で見る場合は、画像ファイルを選択し、Internet Explorerで開いてください。

画像を見る

画像ファイルを開くと読み込んだ画像が表示されます。表示画面はメイン画面とサムネイル画面により構成され、スライドショーによるさまざまな再生操作が可能です。



❶ メイン画面

サムネイル画像をダブルクリックするとメイン画面に拡大表示されます。

ファイルを開いた時点では次の画像が表示されます。

- CD-Rの画像データの場合：先頭画像
- JPEG画像データの場合：ファイル名の番号が最も小さい画像

❷ 操作パネル

メイン画面の再生操作や画像調整を行います。

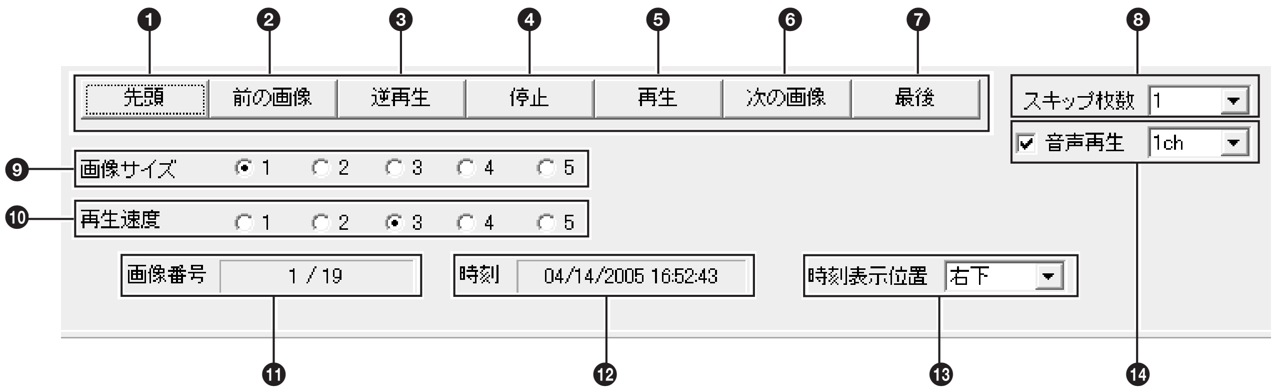
◆詳しくは次ページをご覧ください。

❸ サムネイル画面

フォルダに保存されている全画像がサムネイル（縮小画像）でファイル名の番号の昇順に一覧表示されます。

ウィンドウに収まらない画像はスクロールバーの操作で閲覧できます。

操作パネル



❶［先頭］ボタン
スライドショーの先頭に移動します。

❷［前の画像］ボタン
「スキップ枚数」❽の設定に関係なく、スライドショーの1つ前の画像に移動します。

❸［逆再生］ボタン
「スキップ枚数」❽で指定された画像枚数をコマ飛ばししながら、スライドショーを逆再生します。

❹［停止］ボタン
スライドショーを停止します。

❺［再生］ボタン
「スキップ枚数」❽で指定された画像枚数をコマ飛ばししながら、スライドショーで連続再生します。

❻［次の画像］ボタン
「スキップ枚数」❽の設定に関係なく、スライドショーの1つ後の画像に移動します。

❼［最後］ボタン
スライドショーの最後に移動します。

❽ スキップ枚数（初期設定：1）
スライドショーの再生・逆再生でコマ飛ばしさせる画像枚数を指定します。
初期設定値（＝1）の状態では、すべての画像が1枚ずつ表示されます。

設定値：1、2、3、4、5、10、20、30、40、50、100、200

❾ 画像サイズ（初期設定：1）
メイン画像の表示サイズを5段階で切り換えます。

❿ 再生速度（初期設定：3）
スライドショーの再生速度を5段階で切り換えます。

再生速度	1	2	3	4	5
再生間隔	1秒	0.5秒	0.25秒	0.125秒	0.05秒

ご注意

実際の再生速度はコンピューターの性能によって変動します。保証値ではありません。

⓫ 画像番号
「現在の画像番号 / 全体の画像枚数」を表示します。

⓬ 時刻
表示画像のタイムスタンプを表示します。

ご注意

「年 / 月 / 日」の表示順はコンピューターの設定に準じます。

⓭ 時刻表示位置（初期設定：右下）
タイムスタンプの表示位置を指定します。

選択項目：右下、右上、左上、左下

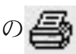
⓮ 音声再生
音声付き画像ファイルに対して、再生する音声チャンネルを指定します。

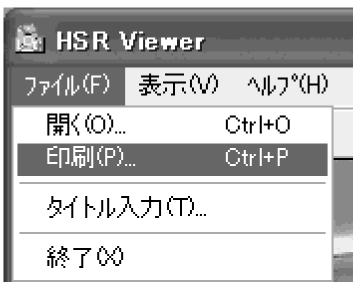
1ch	本体後面のAUDIO1 IN 端子に接続している機器で録音した音声を再生します。
2ch	本体後面のAUDIO2 IN 端子に接続している機器で録音した音声を再生します。
1+2ch	本体後面のAUDIO1 IN 端子とAUDIO2 IN 端子両方の音声を再生します。

画像を印刷する

指定した画像を日付情報と共にフル画像で印刷することができます。

1. メイン画像を印刷するには

［ファイル］メニューの［印刷］またはツールバーのをクリックします。



Windows の印刷用ダイアログボックスが表示されます。

プリンター名や印刷枚数などの必要事項を設定し、［OK］をクリックすると、メイン画像がタイムスタンプを埋め込んだ状態で印刷されます。

2. サムネイル画像を印刷するには

指定のサムネイル画像をクリックしてブルーの表示に変えてから、**1** の操作を行ってください。



3. 一度に複数の画像を印刷するには

キーボードの Ctrl キーを押しながらサムネイル画像をクリックすると、複数の画像を選択することができます。

指定画像が連続している場合は、Shift キーを押しながら選択します。

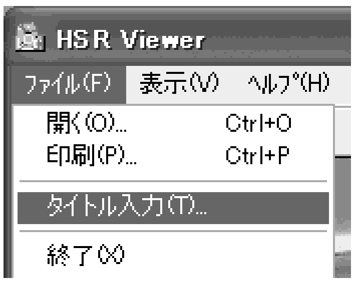
印刷画像を選択した後、**1** の操作を行うと、用紙1枚に1画像ずつ連続して印刷を行います。



4. タイトルを表示するには

印刷画像にタイトルを表示する場合は、[ファイル] メニューの [タイトル入力(T)]をクリックするとタイトル入力用のダイアログが表示されます。

入力されたタイトルは、印刷時に画像の下に表示されます。



タイトル入力用ダイアログ



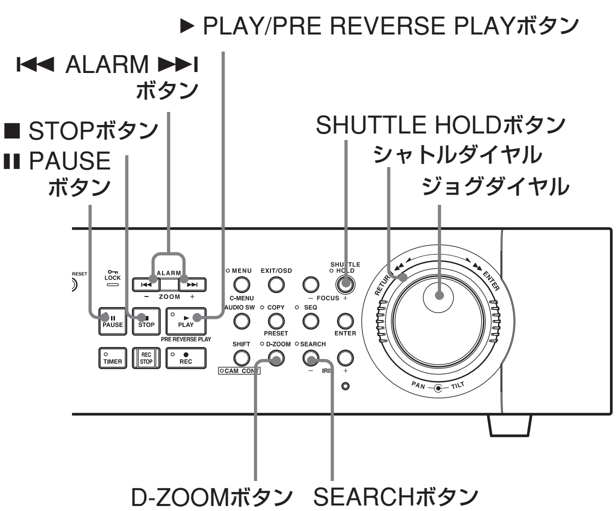
入力されたタイトルは10個まで保存され、一覧リストで選択することができます。

再生

▶ PLAYボタンまたは検索操作によって、記録されている画像を再生することができます。
再生開始後は、正逆方向の高速再生・スロー再生、静止画再生、正逆方向のコマ送り再生など特殊再生モードも選択できます。
プリリバース再生では、記録を継続したまま、直前に記録された画像をチェックすることができます。

◆検索の操作については、「画像の検索」（80ページ）をご覧ください。

再生に使用するボタン/ダイヤル



通常の再生

▶ PLAYボタンを押します。
ボタンのインジケーターが点灯し、記録領域に記録された画像データの先頭位置または前回再生を止めた位置から再生が始まります。
記録されたデータの最後まで再生されると、自動的に静止画モードになります。

◆アーカイブ領域の再生については「画像の検索」（80ページ）をご覧ください。

音声の再生

音声が記録されているときは、音声も再生されます。ただし、変速再生の場合は、音声は再生されません。

再生を止めるには

■ STOPボタンを押します。
ライブ画像に切り替わります。

再生画像を拡大するには

D-ZOOMボタンを押して、再生画像の一部を拡大表示することができます。
ライブ画像を拡大表示するときと同様に、拡大する範囲を設定します。

◆操作については、「画像の一部を拡大するには（ズーム）」（44ページ）をご覧ください。

多画面再生

複数のカメラ映像を録画している場合は、録画した映像を多画面で表示して再生できます。

4画面で再生する

1 再生中にQUADボタンを押す。
QUADランプが点灯し、4画面で表示されます。

2 別のカメラの映像を見るときは再度QUADボタンを押す。
ボタンを押すと別のカメラの映像に4画面単位（初期設定値ではカメラ番号の1～4、5～8、9～12、13～16）で切り換わります。

3 1画面に戻すときはINPUT SELECTORボタンを押す。

マルチ画面（9画面/16画面）で再生する

1 再生中にMULTIボタンを押す。
MULTIランプが点灯し、9画面で表示されます。再度MULTIボタンを押すと、16画面に切り換わります。

2 1画面に戻すときはINPUT SELECTORボタンを押す。

オプション画面で再生する

1 9画面/16画面再生中にOPTIONボタンを押す。

OPTIONランプが点灯し、1台のカメラの再生画像が拡大表示されます。

9画面再生中にOPTIONボタンを押した場合
6画面再生（拡大画面＋5画面）になります。
16画面再生中にOPTIONボタンを押した場合
13画面再生（拡大画面＋12画面）になります（HSR-J2016のみ）。

2 拡大表示したいカメラのINPUT SELECTORボタンを押す。

選択したカメラの再生画像が拡大表示されます。

その他の表示について

- オプション画面表示中にMULTIボタンを押すと、6画面（拡大画面＋5画面）と13画面（拡大画面＋12画面）を切り換えることができます（HSR-J2016のみ）。
- オプション画面表示中にOPTIONボタンを押すと、拡大表示しているカメラの再生画像はそのままで、ほかのカメラ番号の映像は監視映像（ライブ映像）になります。

9画面/16画面に戻すときは

OPTIONボタンを押します。

プリリバース再生—記録中に再生する

記録実行中に▶ PLAY/PRE REVERSE PLAYボタンを押します。
記録動作を継続したまま、現在の時刻から設定したプリリバース再生時間（1〜99分）だけ戻った位置から記録領域の再生を行います。
記録を開始した直後で、設定したプリリバース再生時間より記録した時間のほうが短い場合には、記録開始点から再生が始まります。
現在時刻まで再生されると、プリリバース再生は解除されます。

プリリバース時間を設定するには

プリリバース時間は、メインメニュー「1. 初期設定」のサブメニュー「6. プリリバース」で設定できます。

1 メインメニューから「1. 初期設定」を選択する。

2 「6. プリリバース」を選択する。

＜プリリバース再生設定＞画面が表示されます。

< ﾌﾟﾘﾘﾊﾞｰｽ再生設定 >
ﾌﾟﾘﾘﾊﾞｰｽ再生時間　　：10分

3 設定を変更するときは、シャトルダイヤルを右に回す。

現在の設定が点滅します。

4 ジョグダイヤルを回して希望の時間に設定し、シャトルダイヤルを右に回して確定する。

設定が終わったら

EXIT/OSDボタンを押してメニューモードを解除します。

静止画再生

再生中に❚❚ PAUSEボタンを押します。
ボタンのインジケーターが点灯し、再生画像が静止します。
もう一度❚❚ PAUSEボタンを押すと、通常の再生モードに戻ります。

コマ送り再生

ジョグダイヤルを使用して、正逆方向のコマ送り再生が可能です。
ジョグダイヤルを右クリックするごとに正方向に、左クリックするごとに逆方向に1フレームずつコマ送りされます。

変速再生

ジョグダイヤル、シャトルダイヤルで様々速度での再生が可能です。

ジョグダイヤルでの変速再生

ジョグダイヤルを使用して、再生スピード（フレーム/秒で定義される再生レート）を変化させることができます。
再生モードにして、ジョグダイヤルを回します。
右に回すと再生スピードが早くなり、左に回すと遅くなります。
標準の再生スピードに戻すときは、ジョグダイヤルを左右に回して画面のステータス表示を▶にします。

シャトルダイヤルでの変速再生

シャトルダイヤルを使用して、正逆方向の高速再生・スロー再生が可能です。
通常の再生モード（PLAYボタンのインジケーターが点灯）または静止画モード（PAUSEボタンのインジケーターが点灯）のときにシャトルダイヤルを回すと、回した方向と角度に応じたスピードで再生されます。
ダイヤルから手を離すと元のモードに戻ります。

シャトルダイヤルの回転方向と角度	再生モードで回したとき	静止画モードで回したとき
右70°～80°	正方向スキップ再生	正方向4倍速
右50°～70°	正方向8倍速	正方向2倍速
右30°～50°	正方向4倍速	正方向標準速
右10°～30°	正方向2倍速	正方向1/2倍速
左10°～右10°	正方向標準速	静止画
左10°～30°	逆方向標準速	逆方向1/2倍速
左30°～50°	逆方向2倍速	逆方向標準速
左50°～70°	逆方向4倍速	逆方向2倍速
左70°～80°	逆方向スキップ再生	逆方向4倍速

変速再生を持続させるには

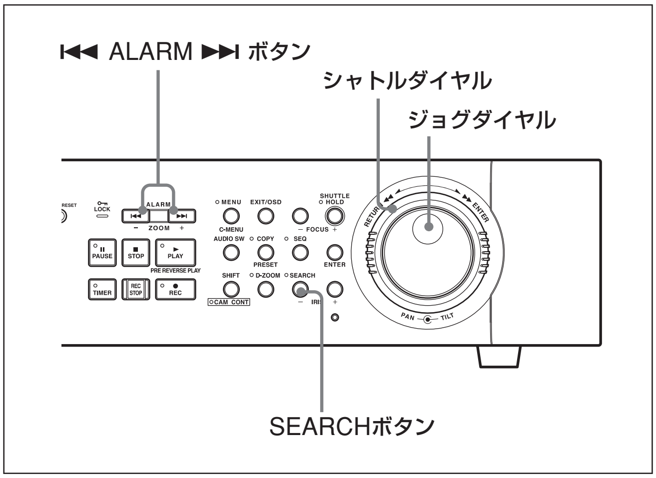
SHUTTLE HOLDボタンで、シャトルダイヤルによる変速再生を保持することができます。
希望の再生方向とスピードの位置までシャトルダイヤルを回し、SHUTTLE HOLDボタンを押してインジケーターを点灯させます。
設定した再生方向とスピードにロックされ、シャトルダイヤルを放しても維持されます。
元のモードに戻すときは、もう一度SHUTTLE HOLDボタンを押します。

画像の検索

HDDの各領域に記録・保存された画像を検索することができます。

検索には6つのサーチモードを選択できます。

検索に使用するボタン/ダイヤル



サーチモードを選択する

1 記録中または停止状態でSEARCHボタンを押す。

サーチメニュー（サーチモード選択画面）が表示されます。

< ｻｰﾁ >	
絞り込みｻｰﾁ	➔
ｱﾗｰﾑｻｰﾁ	➔
ｱﾗｰﾑｻﾑﾈｲﾙｻｰﾁ	➔
日時ｻｰﾁ	➔
ｱｰｶｲﾌﾞ領域ｻｰﾁ	➔
ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨｰﾃﾞｨﾃｸｼｮﾝｻｰﾁ	➔
ｼﾞｮｸﾞで移動、ｼｬﾄﾙで選択	

2 ジョグダイヤルを回して、実行したいサーチモードにカーソルを合わせる。

アラームログサーチ：記録領域に記録された画像を期間で絞り込んで検索するとき

アラームサーチ：記録領域に記録された画像をリストから検索するとき

アラームサムネイルサーチ：記録領域に記録された画像をサムネイル画像で検索するとき

日時サーチ：記録領域に記録された画像を記録日時で検索するとき

アーカイブ領域サーチ：アーカイブ領域に保存されている画像を検索するとき

アクティビティーディテクションサーチ： 記録領域に記録された画像を、アクティビティーディテクションセンサーを使用して検索するとき

3 シャトルダイヤルを右に回す。

選択したサーチモードの設定画面に切り換わります。

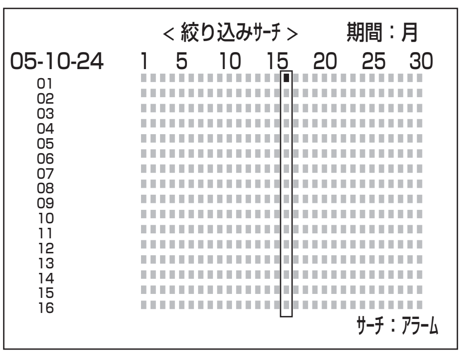
サーチ画面を抜けるには

SEARCHボタンをもう1度押します。

アラームログで画像を検索する

アラーム記録された画像を、期間（月、週、日、時間）で絞り込んで検索することができます。

1 サーチメニューで「アラームログサーチ」を選択する。
<アラームログサーチ>画面になり、現在の日時を含む月の画面が表示されます。
表示期間を変更するときは、ALARM ⏮ ボタン、⏭ボタンを押してください。



2 シャトルダイヤルを右に回す。

3 ジョグダイヤルを回して期間を選択し、シャトルダイヤルを右に回す。
選択した期間に対応した画面が表示されます。

4 ジョグダイヤルを回して検索する日（または時間）を選択し、シャトルダイヤルを右に回す。
選択した日が黄色で表示されます。
アラーム記録の部分は赤色、記録が無い部分はグレーで表示されます。

5 ジョグダイヤルを回して「サーチ」を選択し、シャトルダイヤルを右に回す。

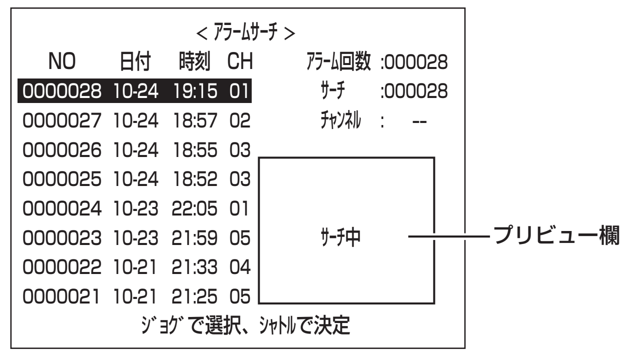
6 ジョグダイヤルを回して「アラーム」または「サムネイル」を選択し、シャトルダイヤルを右に回す。
アラームサーチ画面またはアラームサムネイルサーチ画面に切り換わり、検索結果が表示されます。

アラーム記録リストから検索する

アラーム記録された画像を、リストから検索することができます。

1 サーチメニューで「アラームサーチ」を選択する。

<アラームサーチ>画面になり、アラーム記録の番号と記録された日時がリスト表示されます。
検索できるアラーム記録イベントの総数が、右段の「アラーム回数」欄に表示されます。リストに1度に表示できるのは8件です。



SHIFTボタンを押すと、画面右の“サーチ”にカーソルが移動します。アラームNo.もしくはチャンネルを入力することにより、検索することもできます。

2 ジョグダイヤルを回して、表示したいイベントにカーソルを合わせる。

カーソルを合わせて1秒経過すると、カーソル位置のイベントのサムネイル画像が右段のプリビュー欄に表示されます。

3 シャトルダイヤルを右に回す。

選択したイベントの画像がマルチ画面で再生されます。ただし、手順1でチャンネルを指定して検索した場合は、選択したイベントの画像がフル画面で再生されます。

ご注意

アラーム記録した部分の再生が終わると、静止画モードに入ります。
再度、再生するときは、シャトルダイヤルを左に回してください。アラームの先頭で静止画モードになります。その後、PAUSEボタンを押してください。

ALARM ⏮ ボタンでひとつ前のアラーム記録イベントの画像、⏭ボタンで次のアラーム記録イベントの画像にスキップします。

サムネイル画像で検索する

アラーム記録された画像を、サムネイル（略記）画像で検索することができます。

1 サーチメニューで「アラームサムネイルサーチ」を選択する。

アラームサムネイルサーチ画面になり、最新9件のアラーム記録の画像が9分割表示されます。



上記の例では、0000029を選択（画像の番号が点滅）しているときにジョグダイヤルを左に回すと、前の9件に切り換えることができます。同様に0000021を選択しているときにジョグダイヤルを右に回すと、次の9件に切り換えることができます。

2 ジョグダイヤルを回して表示させたい画像の番号を点滅させる。

3 シャトルダイヤルを右に回す。

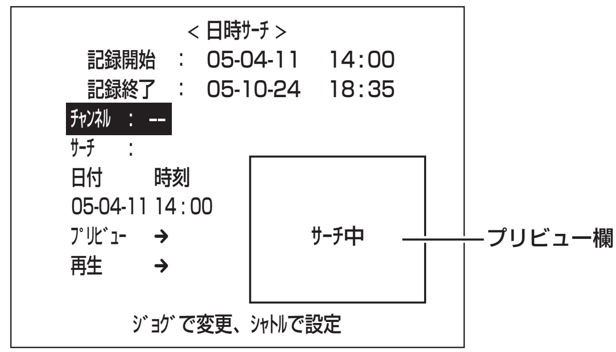
再生モードになり、選択した画像が表示されます。
ALARM ⏮ ボタンでひとつ前のアラーム記録イベントの画像、⏭ボタンで次のアラーム記録イベントの画像にスキップします。

記録した日時で画像を検索する

特定の日時に記録された画像を検索して再生することができます。

1 サーチメニューで「日時サーチ」を選択する。

＜日時サーチ＞画面に切り換わります。



「記録開始」欄には最も古い記録の日時、「記録終了」欄には最も新しい記録の日時が表示されます。

2 チャンネル（カメラ番号）を指定する。

ジョグダイヤルでカーソルをチャンネルの欄に合わせ、シャトルダイヤルを右に回すと、「– –」が点滅します。ジョグダイヤルでチャンネルを選択し、シャトルダイヤルを右に回して確定します。

3 検索したい日時を指定する。

ジョグダイヤルでカーソルを日時の欄に合わせ、シャトルダイヤルを右に回すと、「年」の欄が点滅します。ジョグダイヤルで数字を選択し、シャトルダイヤルを右に回すと「年」が確定され、次の欄に移動します。同様に、月、日、時、分 を指定します。（シャトルダイヤルを左に回すと前の欄に戻ります。）

プリビュー（サムネイル表示）するには

ジョグダイヤルでカーソルを「プリビュー」に移動し、シャトルダイヤルを右に回します。
手順**3**で指定した日時に記録されたイベントを検索し、サムネイル画像を右のプリビュー欄に表示します。
指定した日時に合致するイベントがない場合は、最も近い日時の画像が表示されます。

再生するには

ジョグダイヤルでカーソルを「再生」に移動し、シャトルダイヤルを右に回します。

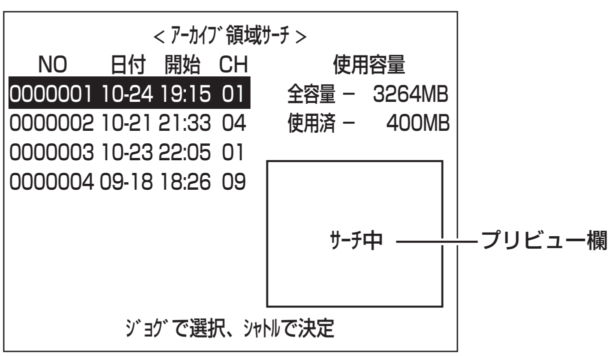
指定した日時に記録された画像が再生されます。

アーカイブ領域の画像を検索する

アーカイブ（記録保存）領域にコピーされ保存されている画像を検索し、再生することができます。

1 サーチメニューで「アーカイブ領域サーチ」を選択する。

＜アーカイブ領域サーチ＞画面になり、アーカイブ領域にコピーされ保存されている画像のイベントの番号、日付および先頭の画像の時刻がリストに表示されます。



「使用容量」欄には、アーカイブ領域の全容量および使用済み容量が表示されます。

リストに1度に表示できるのは8イベントです。

2 ジョグダイヤルを回して、表示したいイベントの行にカーソルを合わせる。

カーソルを合わせて1秒経過すると、カーソル位置のイベントの先頭画像のサムネイル画像が右段のプリビュー欄に表示されます。

3 シャトルダイヤルを右に回す。

再生モードになり、選択したイベントの画像が画面全体に表示されます。

アクティビティーで画像を検索する

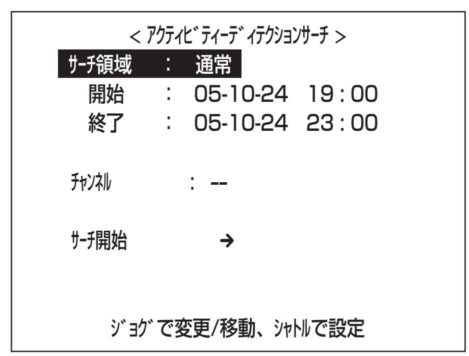
アクティビティーディテクションサーチは、記録済みの画像から、指定したポイントにおける輝度変化を検出し、画像を検索することができます。

例えば、ある地点に置かれた物が無くなった場合、その地点を指定して、アクティビティーディテクションサーチすることで、無くなった時点の画像を検索することができます。

アラーム記録および通常記録された画像から、期間を指定して検索できます。

1 サーチメニューで「アクティビティーデティクションサーチ」を選択する。

＜アクティビティーディテクションサーチ＞画面になります。



2 「サーチ領域」の行でサーチする領域を指定するときは、シャトルダイヤルを右に回す。

現在の設定が点滅します。

3 ジョグダイヤルで領域を選び、シャトルダイヤルを右に回して確定する。

アラーム： アラーム録画を検索する

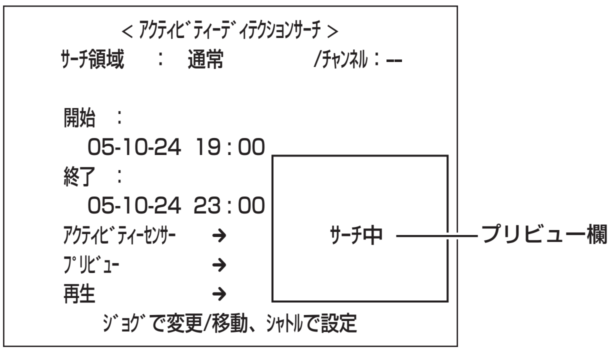
通常： 通常録画を検索する

アラーム＆通常： 通常録画とアラーム録画を検索する

4 チャンネル（カメラ番号）を指定する。

5 「サーチ開始」を反転表示させ、シャトルダイヤルを右に回す。

画面が切り換わり、指定した領域で最も古いデータのサムネイル画像がプリビュー欄に表示されます。

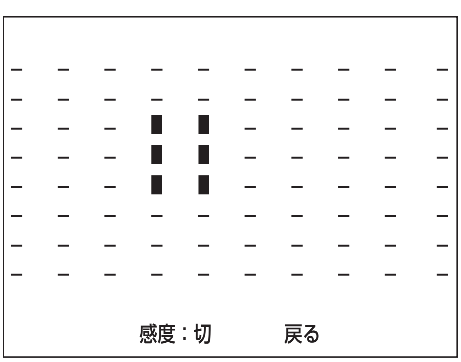


6 「開始」の欄で、検索開始の日時を指定する。

7 「終了」の欄で、検索終了の日時を指定する。

8 アクティビティーディテクションセンサーを設定するため、カーソルを「アクティビティーセンサー」に合わせてシャトルダイヤルを右に回す。

アクティビティーディテクションセンサーの設定画面になります。検索時は、8×10のセンサーポイントと感度の設定のみを行います。ジョグダイヤルとシャトルダイヤルでセンサーを働かせたい位置のマークを▮に設定し、感度（1～10）を設定します。



プレビュー画像（サムネイル）を表示するには

ジョグダイヤルでカーソルを「プリビュー」に移動し、シャトルダイヤルを右に回す。
指定した開始日時と終了日時の間に記録された画像において設定したセンサーポイントにおける輝度変化を検出し、変化のあった画像のサムネイル画像を右のプリビュー欄に表示します。

再生するには

ジョグダイヤルでカーソルを「再生」に移動し、シャトルダイヤルを右に回す。
検索した画像を再生します。

ROIの設定

注目領域(ROI:Region of Interest)を設定すると、画面上であらかじめ設定したエリアや、動きを検知したエリアに対し、画質を変更して録画できます。不審者周辺だけを高画質で録画することなどが可能です。

ROIを設定する

ROIでは3つの固定領域を設定することができます。
設定は、メインメニュー「8.管理者用設定」のサブメニュー「1.ROI設定」で行います。

1 メインメニューから「8.管理者用設定」を選択する。

2 管理者用設定メニューから「1.ROI設定」を選択する。

＜ROI設定＞画面が表示されます。

		< ROI設定 >	
CH-01		表示画質	ｱｸﾃｨﾌﾞ ROI
固定領域 1	:	切	切
固定領域 2	:	切	切
固定領域 3	:	切	切
対応記録ﾓｰﾄﾞ	:	通常記録	
領域/感度設定		→	

CH：ROIを設定するカメラ番号を選択します。
表示画質：3つの固定領域の画質を設定します。
アクティブ ROI：
　切：動きに関係なく、常にROIが有効となります。
　入：固定領域内において、動きを検出した場合のみ、ROIが有効となります。
対応記録モード：通常録画で実行するか、アラーム録画で実行するかなどを設定します。
領域/感度設定：時刻周期や感度、反応停止後の遅延時間を設定します。「領域/感度設定」にカーソルを合わせてシャトルダイヤルを右に回すと、＜領域/感度設定＞画面が表示されます。

3 ジョグダイヤルを回してカーソルを設定する項目に合わせ、シャトルダイヤルを右に回して確定する。

ROIの領域を設定する

ROIの対象とするエリアの位置を設定できます。
設定は、「ROI設定」のサブメニュー＜領域/感度設定＞画面で行います。

1 ＜ROI設定＞画面で、「領域/感度設定」にカーソルを合わせてシャトルダイヤルを右に回す。

表示画質を設定した固定領域のみ、＜領域/感度設定＞画面が表示されます。また、アクティブROIを設定した時のみ、時刻周期/感度/遅延時間が表示されます。



CH：＜ROI設定＞画面で選択したカメラ番号が表示されます。
T-1～T4：時刻周期を設定します。
感度：反応感度を設定します。数値が低いほど感度が高くなります。
遅延時間：反応停止後の遅延動作時間を設定します。

2 シャトルダイヤルを右に回す。

領域設定のモードになり、画面右上に[◀▶]マークが表示されます。

3 シャトルダイヤルを回して、カーソル(オレンジ色の□)を設定する位置の左上もしくは右下に移動させ、ジョグダイヤルを回して枠の縦方向の領域を設定する。
横方向の領域を設定するときは、SHIFTボタンを押します。画面右上のマークが変更されます。

カーソルが右下に移動されます。
カーソルを左右に移動するとき：ジョグダイヤルを回します。
カーソルを上下に移動するとき：SHIFTボタンを押して、ジョグダイヤルを回します。

4 枠1の領域設定が完了したら、シャトルダイヤルを右に回して、カーソル（オレンジ色の□）を設定する枠の右下に移動させる。

5 同様に枠2、枠3の領域を設定する。

領域の設定が完了したら、カーソルが表示されない状態で、シャトルダイヤルを左に回す。

設定が終わったら

EXIT/OSDボタンを押してメニューモードを解除します。

アラーム通知設定を確認する

本機をネットワークでご利用の場合、アラームイベントが発生したときにメールでお知らせすることができます。アラーム通知は本機では設定できません。

ネットワーク接続したコンピューターで設定してください。

設定内容は、メインメニュー「8.管理者用設定」のサブメニュー「2.アラーム通知設定」で確認できます。

◆アラーム通知の設定方法、各画面の項目について詳しくは、「アラーム通知設定」（103ページ）をご覧ください。

カメラコントロール設定

遠隔操作可能なカメラ（PTZカメラ）を、本機に接続する場合に設定します。

以下ようにカメラを接続してカメラコントロールを設定すると、1画面表示のときにカメラをコントロールできます。

遠隔操作するための接続

RS-485/422制御カメラは、制御端子内のRS-485A/Bプッシュロック端子に接続します。

◆カメラの接続方法について詳しくは、「カメラの接続（カメラ、PTZカメラ）」（21ページ）をご覧ください。

カメラを設定する

設定は、メインメニュー「8.管理者用設定」のサブメニュー「3.カメラコントロール設定」で行います。

1 メインメニューから「8.管理者用設定」を選択する。

2 「3.カメラコントロール設定」を選択する。

<カメラコントロール設定>画面が表示されます。

3 ジョグダイヤルを回してPTZカメラが接続されているカメラ番号を選択し、シャトルダイヤルを右に回す。

プロトコルの項目が点滅します。

4 ジョグダイヤルを回してプロトコルを選択し、シャトルダイヤルを右に回す。

切： カメラコントロールを行いません。

RS-485/422： リアパネルのプッシュロック端子に接続したカメラをコントロールします。

ご注意

アドレスは、本機が自動的に割り当てるため、選択できません。

アドレスを変更するには

<カメラコントロール設定>画面で、SHUTLLE HOLDボタンを3秒以上押すと、アドレスが選択できるようになります。ジョグダイヤルを回してアドレス（000-127）を設定し、シャトルダイヤルを右に回してください。

5 手順3～4を繰り返して他のカメラを設定する。

RS-485/422を選択したときは

1) 「RS-485/422プロトコル」にカーソルを合わせ、シャトルダイヤルを右に回す。

2) ジョグダイヤルを回して、セットするプロトコルを選択し、シャトルダイヤルを右に回す。

MIKAMI：MIKAMIを使用します。

ELMO：ELMOを使用します。

設定が終わったら

EXIT/OSDボタンを押してメニューモードを解除します。

カメラをコントロールする

1 SHIFTボタンを押す。

SHIFTボタンのインジケーターが点灯し、カメラコントロールモードになります。

2 各ボタンを押してカメラを操作する。

ボタン名	カメラコントロールモードでの機能・動作内容
INPUT SELECTOR	コントロールの対象となるカメラ番号を切り換えます。
AUTO PAN (MULTI)	オートパン動作をします。INPUT SELECTORボタンでプリセット番号を指定します。
TOUR (QUAD)	ツアー動作をします。
SEQUENCE (OPTION)	シーケンス動作をします。
AF (MONITOR 2)	フォーカスの自動調整をします。
ZOOM － (ALARM ⏮)	ズームのマイナス方向へ調整します。
ZOOM＋ (ALARM ⏭)	ズームのプラス方向へ調整します。
TIMER	タイマー待機状態の表示、およびタイマー待機/解除を行います。
REC STOP	録画状態を停止します。
REC	録画状態の表示、および手動録画の開始を行います。
C-MENU (MENU)	カメラ内蔵のメニューを表示します。
FOCUS －	フォーカスのマイナス方向へ調整します。
FOCUS ＋ (SHUTTLE HOLD)	フォーカスのプラス方向へ調整します。
PRESET（COPY）	プリセットを呼び出します。
ENTER	カメラ内蔵のメニュー上で項目内容を決定します。
CAM CONT (SHIFT)	カメラコントロールモードの入/切を行います。
IRIS － (SEARCH)	アイリスのマイナス方向へ調整します。
IRIS ＋	アイリスのプラス方向へ調整します。
TILT (JOG)	上下のチルトを操作します。
PAN (SHUTTLE)	左右のパンを操作します。

*（カッコ）内は通常モード時のボタン名です。

ご注意

- ライブ映像を監視しているときのみ、カメラをコントロールできます。再生時はコントロールできません。
- フル画面表示のときのみ、カメラをコントロールできます。マルチ画面表示のときはコントロールできません。

PPPの設定を確認する

ダイヤルアップでインターネット接続するための設定を表示します。PPPは本機では設定できません。ネットワーク接続したコンピューターで設定してください。

設定内容は、メインメニュー「8.管理者用設定」のサブメニュー「4.PPP設定」で確認できます。

◆PPPの設定方法、各項目について詳しくは、「PPPの設定」（104ページ）をご覧ください。

NTPの設定

インターネットまたはLAN上のNTPサーバーを使って時刻合わせができます。

設定は、メインメニュー「8.管理者用設定」のサブメニュー「5.NTP設定」で行います。

1 メインメニューから「8.管理者用設定」を選択する。

2 「5.NTP設定」を選択する。

＜NTP設定＞画面が表示されます。

< NTP 設定 >
NTP ｻｰﾊﾞ同期　：切
NTP ｻｰﾊﾞｱﾄﾞﾚｽ　：192. 168. 1. 30
同期時刻　：01: 00

NTPサーバ同期：NTPサーバーを使用するかどうかを設定します。

NTPサーバアドレス：NTPサーバーのアドレスを入力します。

同期時刻：同期する時刻を設定します。24時間に1回、設定された時刻にNTPサーバーと同期を取り、時刻を更新します。

設定が終わったら

EXIT/OSDボタンを押してメニューモードを解除します。

Web操作

ネットワークに接続し、Webブラウザを使用して本機を操作することができます。
ネットワークを介して画像や音声のモニタリング、記録再生、およびダウンロードをすることも可能です。

動作環境

ネットワークを介してHSR-J2009/2016を操作するには、次のような環境が必要です。

コンピューター： Pentium 4 2GHz、256MB以上
OS： Microsoft Windows 2000 SP2以上、Windows XP Professional またはWindows XP Home Edition
Webブラウザ： Internet Explorer 5.5 SP2以上

◆接続とHSR-J2009/2016側の設定については、「ネットワークの設定」（37ページ）をご覧ください。

HSR ViewerとJPEG2000用プラグインソフト

ダウンロードした画像や音声をコンピューターで再生するには、専用アプリケーションソフトHSR Viewerが必要です。
また、ネットワーク経由で画像や音声をモニタリングしたり、記録再生したり、ダウンロードするには、プラグインソフトが必要です。

◆ HSR Viewer（HSR_Viewer.msi）およびプラグインソフト（J2KPlng.msi）は、付属のCD-ROMに収録されています。

◆ プラグインソフトのインストール方法については、42ページをご覧ください。

◆ HSR Viewerのインストールおよび使いかたについては、69〜76ページをご覧ください。

ご注意

ネットワーク接続時にコンピューター上のブラウザソフトの設定がProxy ONの場合、ダウンロードした画像に抜けや部分的な欠落が発生することがあります。プロキシサーバーの機種設定によっては、これら以外にも様々な現象が発生する可能性があります。これらを回避するために、Proxy OFF設定で使用されることをお勧めします。

HSR-J2009/2016へのアクセス

1 Internet Explorerを起動する。

2 アドレスボックスに次のように入力し、Enterキーを押す。

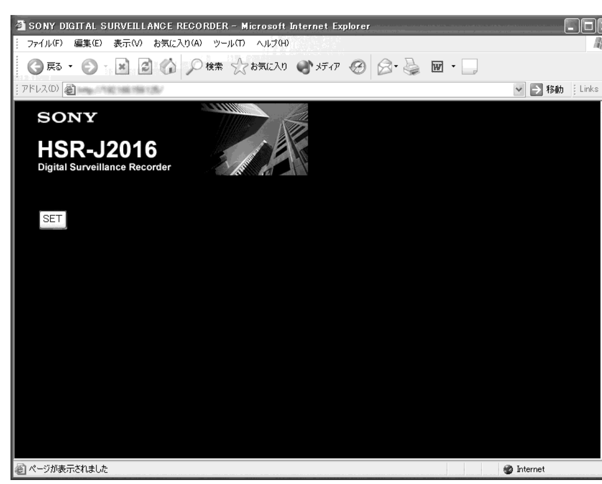
http：//<HSR-J2009/2016のIPアドレス>/

HSR-J2009/2016のIPアドレスは、メインメニュー「3. 一般設定」のサブメニュー「6. ネットワーク設定」で設定したIPアドレスです。
ユーザー名とパスワードを入力するウィンドウが開きます。



3 「ユーザー名」および「パスワード」には、「3.一般設定」>「7. ネットワーク操作設定」>「ユーザID設定」で設定したユーザーIDとパスワードを入力し、［OK］をクリックする。

パスワードが認証されると、HSR-J2009/J2016の画面が表示されます。



ご注意

ユーザーのレベルによって、アクセス可能な人数に制限があります。「ユーザーレベルと権限」（40ページ）をご覧ください。
また、本体がメニュー画面の場合はアクセスできません。アクセスできない場合は、エラーメッセージが表示されます。

ユーザーのレベル（LV）によって、操作できる機能が異なります。

LV1でアクセスしたとき： カメラからのライブ画像の閲覧のみが許可されます。

LV2でアクセスしたとき： ライブ画像、再生画像の閲覧、カメラコントロールやサーチ操作が許可されます。記録操作およびメニュー操作はできません。

LV3でアクセスしたとき： メニュー操作以外の操作が許可されます。

LV4でアクセスしたとき： ブラウザ画面に表示されるボタンの操作がすべて許可されます。

LV1～LV3でアクセスした場合、許可されていない機能を操作しようとすると、警告メッセージが表示されます。

ご注意

コピー/ダウンロード、カメラコントロールの権限について

＜ネットワーク操作設定＞において、操作権限を変更することが可能です。

4 SET ボタンをクリックする。

HSR-J2009/J2016のWeb操作画面が表示されます。

＜ネットワーク操作設定＞画面（38ページ）で「接続表示：入」に設定してある場合は、HSR-J2009/J2016側のモニター画面には、「ネットワーク接続中」が表示されます。

アクセスした時点で実行中の動作は継続されます。

ご注意

コンピューター側と2分以上通信がない場合、自動的にネットワークが切断されます。

HSR-J2009/J2016側でネットワークを切断するには

SHUTTLE HOLDボタンを3秒以上押します。

Web操作画面



❶ ステータス表示エリア

動作モード（ライブ/再生）： HSR-J2009/J2016が停止状態または記録モード時は「ライブ」、再生モード時は「再生」が表示されます。

日時： 停止状態または記録モード時は現在の日時、再生モード時は再生画像が記録された日時が表示されます。

通常記録モード： 通常記録/タイマー記録のステータスが表示されます。

停止： 記録停止中

記録中： 通常記録実行中

タイマー待機： タイマー記録待機中

タイマー記録： タイマー記録実行中

残量なし： 通常記録領域の残量がない

アラーム記録モード： アラーム記録のステータスが表示されます。

停止： 記録停止中

プリアラーム記録： プリアラーム記録実行中

アラーム記録： アラーム記録実行中

残量なし： アラーム記録領域の残量がない

再生領域： 再生モードになると再生中の画像の種類が表示されます。

アラーム： アラーム記録

プリアラーム： プリアラーム記録

通常： 通常記録

アーカイブ： アーカイブ領域の保存データ

速度： 再生モードでは再生のステータスが表示されます。

再生： 正方向標準再生

一時停止： 静止画再生

キュー： 正方向高速再生

スロー： 正方向低速再生

逆再生： 逆方向標準再生

レビュー： 逆方向高速再生

逆スロー： 逆方向低速再生

❷ 画像表示エリア

HSR-J2009/J2016が停止状態または記録モード時は現在のカメラ入力画像、再生モード時は再生画像が表示されます。

表示速度、サイズ、表示画質、音声、PCに保存のそれぞれを、ドロップダウンリストから選択して［セット］をクリックすることによって変更することができます。

表示速度： 画像の表示速度を1～5の範囲で選択できます。数字が大きいほど高速になります。5が最高速度です。

サイズ： 表示画像サイズを選択します（単位：ピクセル）。

	フル画面	Quad画面	9chマルチ画面	16chマルチ画面
1	320×240	240×180	160×120	120×90
2	400×300	320×240	220×165	160×120
3	640×480	400×300	260×195	240×180
4	800×600	480×360	320×240	320×240
5	1024×768	560×420	380×285	400×300
6	1280×960	640×480	420×315	480×360

表示画質（ライブ時のみ）： 表示画質を1～4の範囲で選択できます。数字が大きいほど高画質になります。

音声（フル画面表示時のみ）： 転送するオーディオチャンネルを選択します。

切： 音声を転送しません。

A1： オーディオ1の音声を転送します。

A2： オーディオ2の音声を転送します。

A12： オーディオ1、2の音声をミックスして転送します。

秒数： バッファの時間を設定します。

◆ 詳しくは「ネットワーク経由で音声を転送する」（98ページ）をご覧ください。

PCに保存（フル画面表示時のみ）： モニターしている画像および音声をコンピューターに保存します。

◆ 詳しくは、「モニターしている画像および音声をダウンロードする」（100～102ページ）をご覧ください。

カメラコントロール（ライブ時のみ）： 遠隔操作可能なカメラ（PTZカメラ）を本機に接続している場合、コンピューターからカメラをコントロールできます（1画面表示のときのみ）。

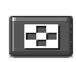
［カメラコントロール］ボタンをクリックすると、操作ボタンがカメラコントロール用のボタンに切り換わります。

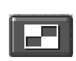
カメラコントロールを止めるときは、再度［カメラコントロール］ボタンをクリックします。

❸ 表示選択エリア

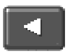
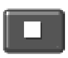
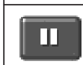
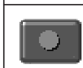
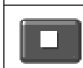
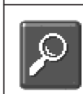
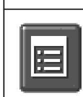
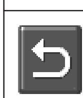
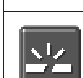
現在選択されている入力番号がチャンネル表示フィールドに表示されます。

01～16：画面に表示するライブ/再生画像のチャンネルを選択します。クリックした番号に対応するチャンネルが表示されます。

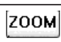
：9画面、16画面で表示します。ボタンをクリックするたびに、9画面と16画面を切り換えます。

：4画面で表示します。ボタンをクリックするたびに、4チャンネルずつ表示が切り換わります。

❹ 操作ボタン

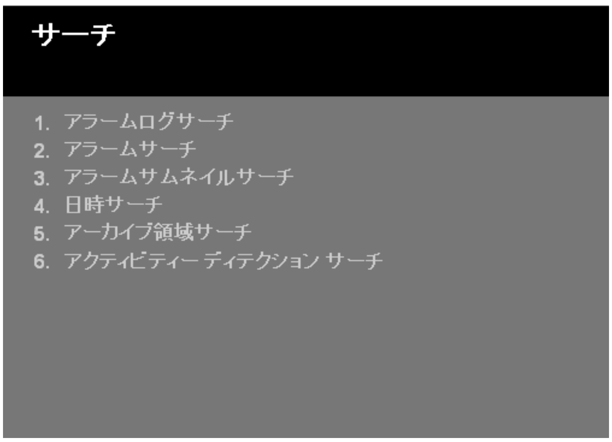
ボタンアイコン	ボタン名	機能	アクセス権			
			LV1	LV2	LV3	LV4
	前のイベント	アラーム記録された画像を再生中にクリックすると、ひとつ前のアラーム記録にスキップします（本体のALARM ⏮ ボタン相当）。	無	有	有	有
	次のイベント	アラーム記録された画像を再生中にクリックすると、次のアラーム記録にスキップします（本体のALARM ⏭ボタン相当）。	無	有	有	有
	スピードダウン	再生速度を1段階落とします（再生中に本体のジョグダイヤルを左に回すのと同じ動作）。	無	有	有	有
	スピードアップ	再生速度を1段階あげます（再生中に本体のジョグダイヤルを右に回すのと同じ動作）。	無	有	有	有
	逆再生	逆方向に再生します。	無	有	有	有
	再生停止	再生を停止します。 ライブ画以外のモードからライブ画モードへ戻ります。	無	有	有	有
	再生	再生を開始します。	無	有	有	有
	前の画像	静止画モードでクリックすると、ひとコマ前の静止画を表示します （静止画モードで本体のジョグダイヤルを左に回すのと同じ動作）。	無	有	有	有
	一時停止	静止画モードにします。	無	有	有	有
	次の画像	静止画モードでクリックすると、ひとコマ次の静止画を表示します （静止画モードで本体のジョグダイヤルを右に回すのと同じ動作）。	無	有	有	有
	記録	記録を開始します。	無	無	有	有
	記録停止	記録を停止します。	無	無	有	有
	タイマー	タイマー記録をON/OFFします。	無	無	有	有
	サーチ	画像を検索します （本体のSEARCHボタンを押したときと同じメニューが表示されます）。	無	有	有	有
	コピー	記録領域の画像データをアーカイブ領域にコピーします。	無	無	有	有
	ダウンロード	記録領域、アーカイブ領域の画像データをコンピューターにダウンロードします。	無	無	有	有
	メニュー設定	メニュー設定を行います （本体のMENUボタンを押したときと同じメニューが表示されます）。	無	無	無	有
	リターン	メニュー画面からライブ画面に戻ります。	無	無	無	有
	切断	ネットワーク接続を切断します。	有	有	有	有

操作ボタン（カメラコントロール用）

ボタンアイコン	ボタン名	機能
	パン・チルト	カメラの向きを変えます。カメラ内蔵のメニュー画面表示時は、メニュー項目の選択に使用します。
	メニューセット	カメラ内蔵のメニュー項目設定値を決定します。
	メニュー	カメラ内蔵のメニュー画面を表示します。
	コントロール速度	パン・チルト操作時の、動作速度を調整します。 1～7の7段階で設定でき、値が大きいほど動作速度が速くなります。
	ZOOM	－/＋ボタンをクリックしてズーム操作を行います。
	FOCUS	－/＋ボタンをクリックしてフォーカス調整を行います。
	IRIS	－/＋ボタンをクリックしてアイリス調整を行います。
	－/＋	ズーム操作、フォーカス調整、アイリス調整時に使用します。
	AF	オートフォーカスを行います。
	SEQ	カメラ自動切換動作を開始します。 再度［SEQ］ボタンをクリックするか、他の操作（自動パンまたはツアー）を行うと停止します。
	PAN	自動パン動作を開始します。 再度［PAN］ボタンをクリックするか、他の操作（カメラ自動切換またはツアー）を行なうと停止します。
	TOUR	カメラに登録されているツアー動作を開始します。 再度［TOUR］ボタンをクリックするか、他の操作（カメラ自動切換または自動パン）を行うと停止します。
	プリセット呼出	プリセット番号に登録されているポジションにカメラを移動させます。 プリセット番号9以降は、ドロップダウンリストから選択して、［GO］ボタンをクリックします。
	プリセット登録	ドロップダウンリストからプリセット番号を選択し、［ENTER］ボタンをクリックすると、 現在のカメラポジションが登録されます。

画像の検索

LV2～LV4でアクセスした場合は、画像の検索が可能です。
（サーチ）をクリックすると、サーチメニューが表示されます。



実行したいサーチを選択します。

1. アラームログサーチ

記録領域に記録されたアラーム画像を期間（月、週、日、時間）で絞り込み、その中からアラームサーチやアラームサムネイルサーチを行います。

◆本体で「アラームログサーチ」を選択したときと同様の情報が表示されます（81ページ）。

ページの切り換えは［前］/［次］ボタンで行います。

2. アラームサーチ

記録領域に記録されたアラーム画像をリストから検索します。

◆本体で「アラームサーチ」を選択したときと同様の情報が表示されます（81ページ）。

ページの切り換えは［前］/［次］ボタンで行います。
アラーム番号のボタンをクリックするとプリビュー画像が表示されます。プリビュー画像をクリックするとメイン画面に戻り、選択したイベントの画像が再生されます。

3. アラームサムネイルサーチ

記録領域に記録されたアラーム画像をサムネイル画像で検索します。

◆本体で「アラームサムネイルサーチ」を選択したときと同様の情報が表示されます（82ページ）。

ページの切り換えは［前］/［次］ボタンで行います。
サムネイル画像をクリックするとメイン画面に戻り、選択したイベントの画像が再生されます。

ご注意

すべてのサムネイル画像（9画面）が表示される前に、［前］/［次］ボタンでページ切り換えを繰り返すと、アラーム番号がランダムに表示される場合があります。これは番号が連続しないだけで、誤表示ではありません。ページ送りは9画面が完全に表示された後に行ってください。

4. 日時サーチ

通常記録された画像を記録日時で検索します。

◆本体で「日時サーチ」を選択したときと同様の情報が表示されます（82ページ）。

「サーチ」のドロップダウンリストで記録日時を指定して［プリビュー］ボタンをクリックすると検索を実行し、プリビュー画像を表示します。
プリビュー画像をクリックするとメイン画面に戻り、指定した日時に記録された画像が再生されます。

ご注意

指定した日時に合致するイベントがない場合は、最も近い日時の画像が検索されます。

5. アーカイブ領域サーチ

アーカイブ領域に保存されている画像を検索します。

◆本体で「アーカイブ領域サーチ」を選択したときと同様の情報が表示されます（83ページ）。

ページの切り換えは［前］/［次］ボタンで行います。
イベント番号のボタンをクリックするとプリビュー画像が表示されます。プリビュー画像をクリックすると再生モードになり、選択したイベントの画像が画面全体に表示されます。

6. アクティビティーディテクションサーチ

アクティビティーセンサーを使用して画像を検索します。

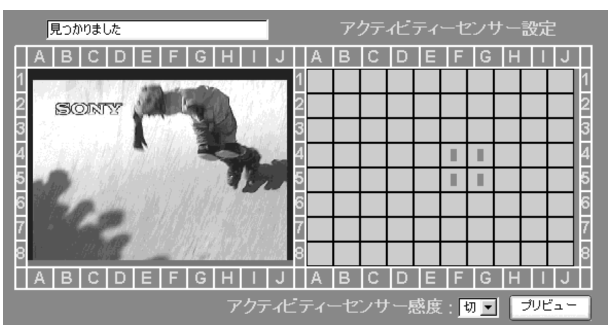
◆本体で「アクティビティーディテクションサーチ」を選択したときと同様の情報が表示されます（83ページ）。アクティビティーセンサーの設定も同一画面上で行えます。

検索範囲の設定

「サーチ領域」、「チャンネル」、検索の「開始」、「終了」をドロップダウンリストで設定し、［セット］ボタンをクリックして確定します。

センサーのON/OFF

センサーをONにしたい位置に対応する升目の上をクリックして、チェックマーク（▮）をつけます。OFFにするときは、再度クリックしてチェックマークを消してください。



感度の設定

センサー感度をドロップダウンリストで設定します。
1～10の範囲で選択できます。数字が小さいほど高感度になります。1が最高感度です。

検索の実行

［プリビュー］ボタンをクリックすると、検索が始まります。該当する画像のプリビュー画像が表示されます。
［プリビュー］ボタンをクリックする毎に、次のポイントを検索します。
表示されたプリビュー画像をクリックすると、再生が始まります。

画像のコピーとダウンロード

LV3、LV4でアクセスした場合は、HSR-J2009/J2016の記録領域の画像をアーカイブ領域やCFカードにコピーしたり、コンピューターにダウンロードすることができます。
アーカイブ領域からコンピューターへダウンロードすることもできます。

画像をアーカイブ領域へコピーする

ご注意

マルチ画面表示のときは、コピーを実行することができません。コピーする場合は、01～16のいずれかのチャンネルを指定してフル画面表示に切り換えてください。

1 コピーしたい画像を静止画モードで表示させる。

連続する画像をコピーするときは先頭の画像を表示させてください。

2 （コピー）をクリックする。

コピー画面になります。

3 コピーする枚数を設定し、［スタート］ボタンをクリックする。

コピー実行中は「アーカイブ領域へのコピー中」が表示されます。コピーが終了すると、「コピー終了」が表示されます。

コピーモードを抜けるには

■（再生停止）をクリックします。

画像をダウンロードする

ご注意

マルチ画面表示のときは、ダウンロードを実行することができません。ダウンロードする場合は、01～16のいずれかのチャンネルを指定してフル画面表示に切り換えてください。

1 ダウンロードしたい画像を静止画モードで表示させる。

連続する画像をコピーするときは先頭の画像を表示させてください。

2 （ダウンロード）をクリックする。

ダウンロード画面になります。



3 ダウンロードする枚数または時間を設定する。

音声が記録されている画像をダウンロードする場合は、「音声」を［入］に設定すると、音声も一緒にダウンロードすることができます。

◆詳しくは「音声をダウンロードする」（99ページ）をご覧ください。

4 ［参照］ボタンをクリックして保存するフォルダを指定する。

5 ［開始］をクリックする。

記録保存領域の画像が表示されているときは、ただちにダウンロードが始まります。

ダウンロードが完了すると

メッセージ「ダウンロード終了」が表示されるので、［OK］をクリックします。



ご注意

- ネットワーク経由でコンピューターへダウンロードを行う場合、最大40,000枚までダウンロードすることが可能です。
- 1台のコンピューターで2つのブラウザを使用して2台のHSR-J2009/J2016をネットワーク接続している場合、同時にダウンロードを行わないようにご注意ください。正常にダウンロードすることができません
- ダウンロード中は、再生系の操作を受け付けない仕様になっています。ただし、ネットワークのレスポンスが異常に遅いと、操作を受け付けてしまう場合がありますので、ダウンロード中は再生系の操作をしないようにご注意ください。こうした場合の再生については動作保証できません。

メニューの設定

LV4でログインした場合は、メニュー操作が可能です。
(メニュー設定)をクリックして、メニュー選択画面を呼び出し、設定したいメニューをクリックして選択します。

各メニュー画面では、各項目のドロップダウンリストから希望の設定値を選択し、[保存] ボタンをクリックすることによって設定を行います。

1. **初期設定**
   1. **時刻設定：**HSR-J2009/J2016の内蔵時計を設定します。
      ◆本体メインメニュー「1. 初期設定」のサブメニュー「1. 時刻設定」と同様に設定できます（31ページ）。
   2. **外部時刻設定：**外部時計合わせに必要な設定を行います。
      ◆本体メインメニュー「1. 初期設定」のサブメニュー「1. 時刻設定」と同様に設定できます（31ページ）。
   3. **休日設定：**休日の設定を行います。
      ◆本体メインメニュー「1. 初期設定」のサブメニュー「4. 休日設定」と同様に設定できます（63ページ）。
   4. **プリリバース再生設定：**
      ◆本体メインメニュー「1.初期設定」のサブメニュー「6.プリリバース」と同様に設定できます（78ページ）。

2. **記録設定**
   1. **記録領域設定：**記録領域の情報を表示します。領域の割り当てを変更することはできません。[記録再開許可] ボタンは有効です。
      ◆本体メインメニュー「2. 記録設定」のサブメニュー「2. 記録領域設定」と同様に設定できます（34ページ）。
   2. **記録条件設定：**各種の記録に関する設定を行います。
      ◆本体メインメニュー「2. 記録設定」のサブメニュー「3. 記録条件設定」と同様に設定できます（34ページ）。
   3. **通常記録設定：**通常記録の条件を設定します。
      ◆本体メインメニュー「2. 記録設定」のサブメニュー「4.通常記録設定」と同様に設定できます（51ページ）。
   4. **プログラム記録設定：**プログラム記録の設定を行います。
      ◆本体メインメニュー「2. 記録設定」のサブメニュー「5.プログラム記録設定」と同様に設定できます（51ページ）。
   5. **タイマー設定：**タイマー記録の設定を行います。
      ◆本体メインメニュー「2. 記録設定」のサブメニュー「6.タイマー設定」と同様に設定できます（62ページ）。
   6. **アラーム記録設定：**アラーム記録の条件を設定します。
      ◆本体メインメニュー「2. 記録設定」のサブメニュー「7. アラーム記録設定」と同様に設定できます（58ページ）。

3. **一般設定**
   1. **データ表示設定：**モニター画面に表示される項目をON/OFFします。
      ◆本体メインメニュー「3. 一般設定」のサブメニュー「1. データ表示/VIDEO LOSS設定」と同様に設定できます（38ページ）。
   2. **ブザー設定：**ブザーを鳴らす条件を設定します。
      ◆本体メインメニュー「3. 一般設定」のサブメニュー「2.ブザー設定」と同様に設定できます（39ページ）。
   3. **セキュリティーロック設定：**セキュリティに関する設定を行います。
      ◆本体メインメニュー「3.一般設定」のサブメニュー「3.セキュリティロック設定」と同様に設定できます（39ページ）。
   4. **ユーザID設定：**ユーザーIDを設定します。
      ◆本体メインメニュー「3.一般設定」>「3.セキュリティロック設定」のサブメニュー「ユーザID設定」と同様に設定できます（40ページ）。
   5. **RS-232C/RS-485設定：**RS-232C/RS-485端子に外部機器を接続する場合に設定します。
      ◆本体メインメニュー「3.一般設定」のサブメニュー「4. RS-232C/RS-485設定」と同様に設定できます（41ページ）。
   6. **ハードディスク設定：**本体メインメニュー「3. 一般設定」のサブメニュー「5. ハードディスク設定」（33ページ）で設定されたHDDに関する情報を表示します。ミラーリングの設定が「入」の場合、再生に使用するドライブの選択のみ、ネットワークを介して行えます。
   7. **ネットワーク設定：**ネットワーク接続の条件を設定します。
      ◆本体メインメニュー「3. 一般設定」のサブメニュー「6. ネットワーク設定」と同様に設定できます（37ページ）。
      ネットワークスピードは、ドロップダウンリストから選択します。ネットワークスピード以外で設定変更可能な項目は、直接数値を入力して設定します。

ご注意

設定を変更した場合は、ネットワークの接続が自動的に切断され、画面上にメッセージ「ネットワークが切断されました」が表示されます。新しい設定で、再度ネットワークに接続し直してください。

8. **ネットワーク操作設定：**ネットワーク接続時の操作権限などを設定します。

◆本体メインメニュー「3.一般設定」のサブメニュー「7.ネットワーク操作設定」と同様に設定できます（37ページ）。

4. **画面設定**

1. **画面自動切換周期：**カメラ映像の自動切り換えに関する設定を行います。

◆本体メインメニュー「4.画面設定」のサブメニュー「メインモニター/モニター2設定」と同様に設定できます（47ページ）。

2. **マスク設定：**マスクの条件を設定します。

◆本体メインメニュー「4.画面設定」のサブメニュー「3.マスク設定」と同様に設定できます（47ページ）。

5. **停電情報/使用時間：**本体メインメニュー「5.停電情報/使用時間」（106ページ）と同様に、停電情報、使用時間の積算値やファームウェアのバージョンを表示します。

6. **初期化履歴：**本体メインメニュー「6.初期化履歴」（106ページ）と同様に、HDDの初期化および各領域の記録再開の履歴（日時と領域）を最近から8件表示します。

7. **メニュー設定コピー：**メニューの設定内容をコンピューターに保存したり、保存した設定を読み込みます。

8. **管理者用設定**

1. **アラーム通知設定：**アラームイベントが発生したときに、メールでお知らせします。

2. **カメラコントロール設定：**遠隔操作可能なカメラを本機に接続する場合に設定します。

◆本体メインメニュー「8.管理者用設定」のサブメニュー「3.カメラコントロール設定」と同様に設定できます（86ページ）。

3. **PPP設定：**ダイヤルアップでインターネット接続する場合に設定します。

◆本体メインメニュー「8.管理者用設定」のサブメニュー「4.PPP設定」と同様に設定できます（87ページ）。

4. **NTP設定：**インターネットまたはLAN上のNTPサーバーを使って時刻合わせをします。

◆本体メインメニュー「8.管理者用設定」のサブメニュー「4.NTP設定」と同様に設定できます（87ページ）。

音声操作

フル画面（1画面）表示のときは、ネットワーク経由で音声を転送したり、ダウンロードすることができます。

ご注意

マルチ画面表示のときは、音声の転送/ダウンロードはできません。

1. ネットワーク経由で音声を転送する

ネットワーク接続時、ライブモードおよび再生モードでの音声転送が可能です。コンピューター上で音声をモニターすることができます。

◆ 詳しくは「ネットワーク経由で音声を転送する」（98ページ）をご覧ください。

ご注意

- 音声を優先して転送するため、画像転送に遅延が生じます。また、音声の途切れ対策としてバッファを持たせるため、ライブモードであっても遅延が生じます。バッファの時間は5、10、15、20、30秒から選択可能です。ネットワークの環境に応じて時間を設定してください。バッファの時間が長いほど音声の途切れ対策として有効ですが、音声・画像共に遅延が大きくなりますのでご注意ください。
- 音声転送は、LV2〜LV4で可能になります。LV1では音声転送のメニューが表示されません。
- 音声転送モードを選択した場合は、ライブモードか通常再生しかできません。PAUSEやSEARCHなどの特殊再生はできません。特殊再生を行う場合は、音声転送モードを解除してください。

2. 音声をダウンロードする

CFカードへ音声をダウンロードすることが可能です。ネットワーク経由でコンピューターへ音声をダウンロードすることもできます。

◆ 詳しくは「音声をダウンロードする」（99ページ）をご覧ください。

ご注意

- ダウンロードした画像と音声を再生するには、HSR Viewer が必要です。

◆HSR Viewerについては、69～76ページをご覧ください。

- ネットワーク経由でコンピューターへ音声を転送し、モニターしたり、ダウンロードするには、プラグインソフトが必要です。

◆プラグインソフトについては、42ページをご覧ください。

3. ネットワーク経由でアラームイベント音声を通知する

アラーム記録が開始されると、ネットワークに接続されたコンピューターに、オリジナルサウンドで通知することができます。

◆ 詳しくは「ネットワーク経由でアラームイベントを音声通知する」(100ページ) をご覧ください。

4. モニターしている画像および音声をダウンロードする

ネットワーク経由でモニターしている画像および音声を直接コンピューターへダウンロードすることができます。
ライブ画面および再生画面で画像や音声をモニターしているとき、コンピューター画面上の［開始］ボタンをクリックすることにより、あらかじめ設定しておいたフォルダに画像および音声をダウンロードすることができます。あらかじめ設定しておいた時間だけ保存することが可能ですが、途中でダウンロードを中止することもできます。
この機能は、コンピューター上に転送された画像および音声をそのままダウンロードするものです。

◆ 詳しくは「モニターしている 画像および音声をダウンロードする」(100ページ) をご覧ください。

ご注意

- ネットワーク経由でコンピューターに転送された画像および音声をそのままダウンロードするため、最大でも1秒間に数枚程度しか保存できません。
  また、ネットワーク環境によっては、画像が更新されなかったり、音声が途切れたりして、正常にダウンロードできない場合がありますので、ネットワーク環境に適した表示画質、音声のバッファ時間を設定してください。
- 記録済みの画像および音声を、すべて漏れなくダウンロードしたい場合は、これまで同様 （ダウンロード）ボタンを使用してください。

◆詳しくは、「画像をダウンロードする」(94ページ) をご覧ください。

ネットワーク経由で音声を転送する

ライブ画面



音声転送機能（初期設定：切）

画像と共に音声も一緒に転送するかどうかを、「音声」①で設定できます。

音声：転送するオーディオチャンネルを選択します。

切：音声を転送しません。

A1：オーディオ1の音声を転送します。

A1：：オーディオ2の音声を転送します。

A12：オーディオ1、2両方の転送を再生します。

秒数:バッファの時間を設定します。秒数はバッファ時間であり、同時に音声遅延時間になります。ライブモードであっても遅延が生じます。ネットワーク速度が遅い場合は、音声の途切れを防止するために時間を長めに設定してください。

音声を転送する場合は、転送するオーディオチャンネルとバッファ時間を選択して［セット］ボタンをクリックしてください。

ご注意

- バッファ時間が長いほど音声の途切れ対策として有効ですが、音声・画像共に遅延が大きくなります。
  音声優先で転送されますので、環境によっては画像が表示されない場合もあります。
- 音声転送にはユーザーレベルLV2以上の操作権限が必要です。操作権限がLV1の場合は、音声転送のメニューは表示されません。
- 音声転送モードを選択した場合は、ライブか通常再生しかできません。PAUSEやSEARCHなどの特殊再生は操作できません。特殊再生を行う場合は、音声転送モードを解除してください。
- Web画面の上部に表示している時刻やステータス情報の更新速度は、通常1秒ですが、音声転送モードを選択した場合は、5秒間隔となります。
- 音声を記録していない画像を再生する場合、音声を「入」にして再生すると音声のバッファリングを繰り返し、画像を再生することができません。この場合は、音声を「切」にして再生してください。

音声をダウンロードする

ダウンロード画面



音声のダウンロード（初期設定：切）

画像と共に、音声も一緒にダウンロードする場合は、「音声」②を［入］に切り換えます。
画像のみをダウンロードする場合は初期設定（切）のままにしておいてください。

ダウンロードを実行した後、下記の画面が表示されたら、［OK］をクリックしてください。ダウンロードが終了します。



ネットワーク経由でアラームイベントを音声通知する

アラームの発生をネットワーク接続しているコンピューターに通知することができます。
コンピューターの特定フォルダに保存したサウンドファイルを繰り返し再生し、オリジナルの警告音を鳴らします。サウンドが1秒以上の場合、最初の1秒間を繰り返し再生します。

1 警告音のサウンド（WAV）ファイルを作成する。

2 指定ファイル名（BUZZER.WAV）を付けて、C:¥BUZZERディレクトリに保存する。

C: ¥BUZZER¥BUZZER.WAV

アラーム記録をしている間、警告音は鳴り続けます。

警告音を停止するには

操作パネルの再生停止ボタンをクリックしてください。

モニターしている画像および音声をダウンロードする

LV3、LV4でネットワークに接続した場合は、「PCに保存」②が表示されます。



1 ダウンロード機能を有効にする。

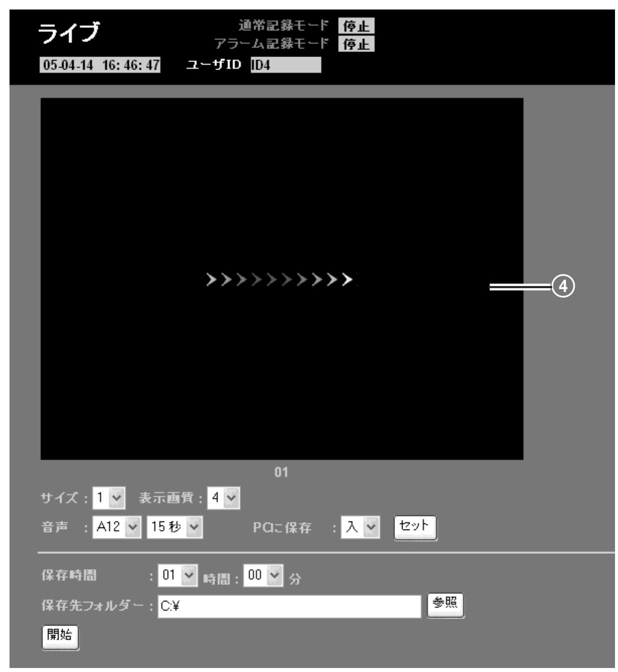
をクリックして「PCに保存」②のプルダウンメニューから「入」を選択してください。

音声も保存する場合は

「音声」①のプルダウンメニューから、保存するオーディオチャンネルを選択してください。

◆「音声」の設定について詳しくは、「ネットワーク経由で音声を転送する」（98ページ）をご覧ください。

［セット］ボタン③をクリックすると、音声のバッファリングが開始され、画像エリアが下記④のような状態に変わります。
「音声」①で設定した時間分のバッファがFULLになるまで、この状態が継続します。音声のバッファがFULLになると、画像が表示され、音声が聞こえてきます。



2 ダウンロード時間を設定し、画像/音声を保存するフォルダを指定する。



ダウンロード時間は、「保存時間」⑤で設定します。
ダウンロード開始後、設定した時間が経過した時点で自動的に保存が完了します。
途中で中止することも可能です。例えば、保存時間を1時間に設定しても、ダウンロード開始10分後に［キャンセル］ボタンをクリックすると、開始後10分間の画像および音声が保存されます。

「保存先フォルダー」は、初期値が「C:¥」になっていますので、［参照］ボタン⑥をクリックしてフォルダを選択するか[1)]、または保存したいフォルダ名を直接書き込んでください[2)]。

1) 参照ボタンをクリックすると、「フォルダの参照」画面が現れますので、フォルダを選択してください。新しいフォルダを作成することも可能です。
2) 直接入力する場合、存在しないドライブ名を入力した場合は、エラー「保存停止、エラー」が表示されますが、存在しないフォルダを入力した場合は、フォルダ作成されます。

3 ダウンロードを開始する。



［開始］ボタン⑦をクリックすると、画像および音声のダウンロードが始まります。

ダウンロード中は



「保存時間」のカウンター⑧がカウントアップされ、「保存中」のメッセージ⑨が表示されます。
ダウンロード中に［キャンセル］ボタン⑩をクリックすると、中止することができます。この場合、中止する前までの画像と音声がダウンロードされます。

ダウンロードが完了すると

「保存完了」のポップアップ⑪が表示されます。
[OK] ボタン をクリックすると、ダウンロード作業が終了し [開始] ボタンを押す前の状態に戻ります。



ご注意

状況に応じて下記のようなポップアップが表示されます。



- コンピューターのHDD容量が少なくなり、ダウンロードが完了する前に強制終了した場合、⑫の表示は次のようになります。
  「STOP SAVE, コンピューター DISK FULL」
- その他のエラーにより、ダウンロードが完了する前に強制終了した場合、⑫の表示は次のようになります。
  「STOP SAVE, ERROR」

メニュー設定の保存/読み込み

メニュー設定を保存する

本機のメニュー設定をコンピューターに保存します。

1  ボタンをクリックする。

＜メインメニュー＞画面が表示されます。

2 「7. メニュー設定コピー」をクリックする。

＜メニュー設定コピー＞画面が表示されます。

3 [保存] ボタンをクリックする。

4 保存先を指定して実行する。

メニュー設定が保存されます。

メニュー設定を読み込む

コンピューターに保存しているメニュー設定ファイルを、本機に読み込みます。
またこのとき、ユーザーIDの設定やネッワーク設定などを読み込むかどうかを設定できます。

ご注意

記録領域の設定も読み込むことができますが、実行するとハードディスクを初期化します。

1  ボタンをクリックする。

＜メインメニュー＞画面が表示されます。

2 「7. メニュー設定コピー」をクリックする。

＜メニュー設定コピー＞画面が表示されます。

3 [参照] ボタンをクリックして、メニューを保存しているフォルダを指定する。

4 「ユーザID設定のコピー」で、ユーザーIDの設定を読み込むかどうかを選択する。

5 「記録領域設定」で、記録領域の設定を読み込むかどうかを選択する。

6 「ネットワーク設定のコピー」で、ネットワーク設定を読み込むかどうかを選択する。

7 「読込み」ボタンをクリックする。

読み込みが開始されます。

アラーム通知設定

本機をネットワークでご使用の場合、アラームイベントや機器の異常が発生したときにメールでお知らせすることができます。

1 ボタンをクリックする。

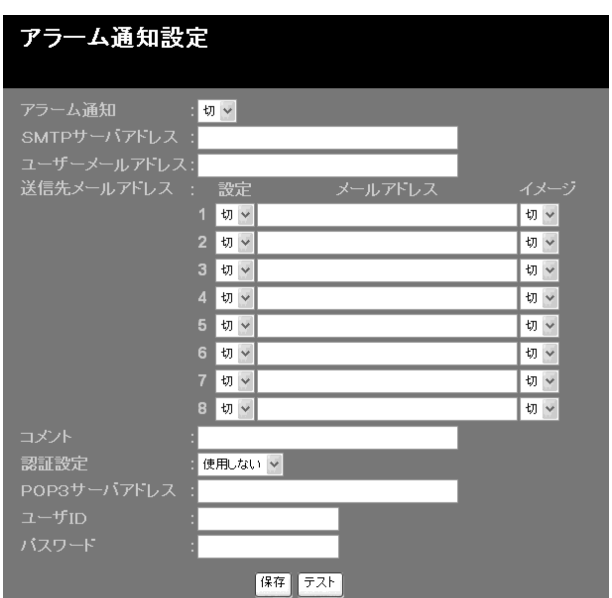
<メインメニュー>画面が表示されます。

2 「8. 管理者用設定」をクリックする。

<管理者用設定>画面が表示されます。

3 「1. アラーム通知設定」をクリックする。

<アラーム通知設定>画面が表示されます。



アラーム通知：アラーム通知するかどうかを設定します。

SMTP サーバアドレス：SMTP サーバアドレスを設定します。

ユーザメールアドレス：通知元メールアドレスを設定します。

送信先メールアドレス

設定：送信先にアラーム通知するかどうかを設定します。

メールアドレス：送信先メールアドレスを設定します。

イメージ：アラーム画像をメールに添付するかどうかを設定します。

コメント：メールの件名を設定します。

認証設定：ユーザー認証を行うかどうかを設定します。POP3 を選択した場合は、POP3 サーバアドレス、ユーザID、パスワードを設定します。

POP3サーバアドレス：POP3サーバーアドレスを設定します。

ユーザ ID：ユーザー ID を設定します。

パスワード：パスワードを設定します。

4 各項目を設定する。

5 ［保存］ボタンをクリックする。

設定内容が本体に反映されます。

カメラコントロール設定

遠隔操作可能なカメラを本機に接続する場合に設定します。

1 ボタンをクリックする。

<メインメニュー>画面が表示されます。

2 「8. 管理者用設定」をクリックする。

<管理者用設定>画面が表示されます。

3 「2. カメラコントロール設定」をクリックする。

<カメラコントロール設定>画面が表示されます。

4 各項目を設定する。

◆各項目について詳しくは、「カメラコントロール設定」(86ページ)をご覧ください。

5 ［保存］ボタンをクリックする。

設定内容が本体に反映されます。

PPPの設定

ダイヤルアップでインターネット接続する場合に設定します。

1 ボタンをクリックする。

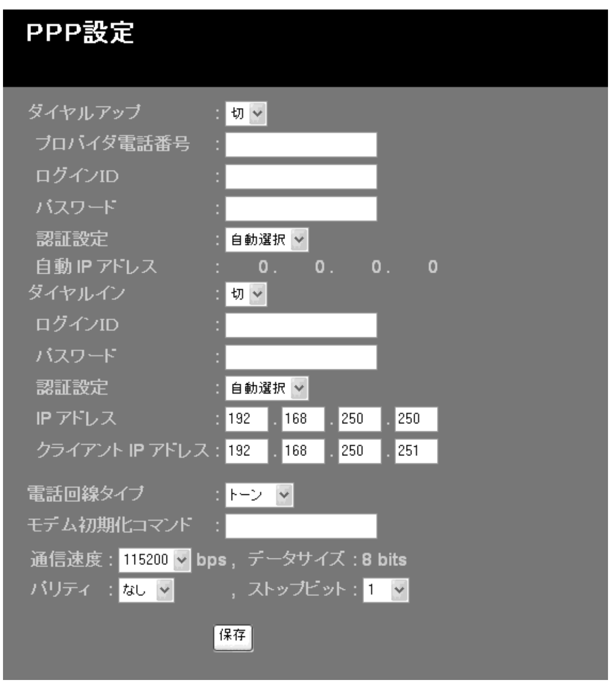
＜メインメニュー＞画面が表示されます。

2 「8.管理者用設定」をクリックする。

＜管理者用設定＞画面が表示されます。

3 「3.PPP設定」をクリックする。

＜PPP設定＞画面が表示されます。



ダイヤルアップ：ダイヤルアップ接続するかどうかを設定します。
　プロバイダ電話番号：プロバイダの電話番号を設定します。
　ログインID：ログインIDを設定します。
　パスワード：パスワードを設定します。
　認証設定：認証プロトコルを設定します。
　自動IPアドレス：IPアドレスを表示します。

ダイヤルイン：ダイヤルイン接続するかどうかを設定します。
　ログインID：ログインIDを設定します。
　パスワード：パスワードを設定します。
　認証設定：認証プロトコルを設定します。
　IPアドレス：本体側のIPアドレスを設定します。
　クライアントIPアドレス：コンピューターのIPアドレスを設定します。

電話回線タイプ：モデムを接続している電話回線の種類を設定します。

モデム初期化コマンド：モデムを制御するためのATコマンドを設定します。

通信速度：通信速度を設定します。

データサイズ：データサイズが表示されます。

パリティ：パリティを設定します。

ストップビット：ストップビットを設定します。

4 各項目を設定する。

5 ［保存］ボタンをクリックする。

設定内容が本体に反映されます。

NTPの設定

インターネットまたはLAN上のNTPサーバーを使って時刻合わせができます。

1 ボタンをクリックする。

＜メインメニュー＞画面が表示されます。

2 「8.管理者用設定」をクリックする。

＜管理者用設定＞画面が表示されます。

3 「4.NTP設定」をクリックする。

＜NTP設定＞画面が表示されます。

4 各項目を設定する。

◆各項目について詳しくは、「NTPの設定」（87ページ）をご覧ください。

5 ［保存］ボタンをクリックする。

設定内容が本体に反映されます。

保守・点検

トラブルシューティング

修理をご依頼になる前に、もう一度点検してください。

症状	原因	処置
モニター画像が映らない。	接続は正しいですか?	正しく接続してください。
	モニターやカメラの電源は入っていますか?	電源を入れてください。
操作ボタンを押しても動作しない。	アラーム録画が行われている。	アラーム録画終了までお待ちください。
	セキュリティロックが働いている。	セキュリティロックを解除してください。 (39ページ)
	タイマー記録待機中またはタイマー記録中です。	TIMERボタンを押して、ボタンのインジケーターを消灯させてください。(64ページ)
タイマー記録ができない。	時計が正しく設定されていない。	時計を正しく合わせてください。 (31ページ)
	タイマー記録が「入」になっていない。	TIMERボタンを押して、ボタンのインジケーターを点灯させてください。(64ページ) 「タイマー設定」画面で「入/切」欄が「入」になっているか確認してください。(62ページ)
日時が記録されない。	日時が非表示になっている。	EXIT/OSDボタンを押してください。 (19ページ)
	日付と時刻のデータ表示が「切」になっている。	「データ表示設定」で「入」にしてください。 (38ページ)
警告メッセージが消えない。	故障の可能性があります。	お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

システムダウン

もし本機がまったく動作しなくなったときは、次の手順を行ってみてください。

1 本機がコンセントにつながっているか確認する。

2 後面パネルのオールリセットボタンを押して、復帰するかどうかを確認する。復帰しない場合は、**3**、**4**を実施する。

3 電源を切り、電源コードをコンセントから抜いて、約10分間放置する。

4 電源コードをコンセントにつなぎなおし、電源を入れる。

上記を行っても動作しないときは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

HDDの異常検出

起動時または稼動中にHDDエラーを検出した場合は、“DISK ERROR”のエラーメッセージがモニターに表示され、前面パネルのPOWERインジケーターが点滅します。

HDDエラーの場合には、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

停電情報と使用時間の確認

メインメニュー「5. 停電情報/使用時間」で、停電による記録の中断があったかどうかや、HDDの累積使用時間などを確認することができます。
本機のファームウェアのバージョンも表示されます。

メインメニューから「5. 停電情報/使用時間」を選択すると、＜停電情報/使用時間＞画面が表示されます。

< 使用時間 >

停電情報	発生日時		復旧日時	
002回	04-18	23 : 02	04-18	23 : 06
	07-21	02 : 12	07-21	03 : 05
	-----	--:--	-----	--:--
	-----	--:--	-----	--:--
	-----	--:--	-----	--:--
	-----	--:--	-----	--:--
	-----	--:--	-----	--:--
	-----	--:--	-----	--:--

使用時間 ➔

停電情報
最近8件分の停電発生時刻と回復時刻を表示します。

「使用時間」にカーソルを合わせてシャトルダイヤルを右に回すと、＜使用時間＞画面になります。

内部ハードディスク
内蔵HDDの累積使用時間と本機の累積通電時間を表示します。

F/W
本機のファームウェアのバージョンを表示します。
ハードディスクを増設している場合、それぞれの使用時間と総通電時間が表示されます。

メニューを抜けるには、EXIT/OSD ボタンを押します。

初期化履歴の確認

メインメニュー「6. 初期化履歴」で、HDDの初期化（全領域の初期化）および各領域の記録再開の履歴を、直近から8件確認することができます。

メインメニューから「6. 停初期化履歴」を選択すると、＜初期化履歴＞画面になります。

< 初期化履歴 >

月-日	時 : 分	領域	操作	ﾕｰｻﾞ
03-25	12 : 00	全領域	(初期化)	ID4
-----	--:--	-------	(-------)	-----
-----	--:--	-------	(-------)	-----
-----	--:--	-------	(-------)	-----
-----	--:--	-------	(-------)	-----
-----	--:--	-------	(-------)	-----
-----	--:--	-------	(-------)	-----
-----	--:--	-------	(-------)	-----

初期化および記録の再開が実行された日時とその領域を表示します。

メニューを抜けるには、EXIT/OSD ボタンを押します。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお確かめください。特に、前項「保守・点検」に該当する項目がないか、お調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店またはお近くのソニーのサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

保証期間中の修理など、アフターサービスについてご不明な点は、お買い上げ店またはお近くのソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

仕様

一般

記録方式	JPEG2000 compression
信号方式	EIA標準、NTSC方式
解像度	720×240ピクセル
動作温度	5℃～40℃
動作湿度	20～80% (最大湿球温度：29℃) (結露のないこと)
電源	AC100 V、50/60 Hz
消費電力	HSR-J2016：48w HSR-J2009：40w
外形寸法	420×96×371 mm (幅/高さ/奥行き)
質量	HSR-J2016：7.2kg HSR-J2009：7.1kg

映像入出力

カメラ入力	IN 1～16（HSR-J2016)、IN 1～9（HSR-J2009)：1 Vp-p、75 Ω、不平衡(BNC型)
カメラ出力	OUT 1～16（HSR-J2016)、OUT 1～9（HSR-J2009)：各カメラ入力のスルー出力 1 Vp-p、75 Ω、不平衡(BNC型)
モニター出力	メインモニター（MON 1）： 1 Vp-p、75 Ω、不平衡(BNC型) モニター2（MON 2)： 1 Vp-p、75 Ω、不平衡(BNC型) 前面VIDEO出力：RCA端子
水平解像度	500本以上（HYPERモード）
S/N	48 dB（HYPERモード）

音声入出力

入力	－8 dBs、27 k Ω、不平衡RCA×2
出力	－8 dBs、600 Ω、不平衡RCA×2（前面、後面）
マイク入力	－60dBs、10 k Ω、不平衡∅3.5mmミニジャック
S/N	40 dB

アラーム/制御入出力

SCSI	Ultra160 SCSI（68ピン高密度）
USB	USB2.0×2（前面、後面）
LAN	10Base-T/100Base-TX、RJ-45
RS-485 A/B	RJ-11×2
RS-232C	D-SUB 9ピン
R1/R2	抵抗ラダー式
CLOCK IN	無電圧メーク接点 （パルス幅100 ms以上）
CLOCK OUT	オープンコレクタ/1 k Ω（動作時0 V）
EXT TIMER IN	無電圧メーク接点 （パルス幅100 ms以上）
SENSOR ALARM OUT	オープンコレクタ/1 k Ω （動作時0 V）
ALARM RESET	無電圧メーク接点 （パルス幅100 ms以上）
NON REC（VIDEO LOSSと切り換え）	＋5 V、5.7 k Ω（動作時0 V）
WARNING	＋5 V、5.7 k Ω（動作時0 V）
FULL	＋5 V、5.7 k Ω（動作時0 V）
ARCHIVE FULL	＋5 V、5.7 k Ω（動作時0 V）
TIMER REC OUT	＋5 V、5.7 k Ω（動作時0 V）

付属品

AC電源コード（1）
電源コード固定クリップ（1）
ラックマウント金具（1式）
クイックスタートガイド（1）
CD-ROM（1）
保証書（1）
ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内（1）

• 仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

コマンド

データ形式

RS-232C

データフォーマットは、次の通りです。

モード	非同期
キャラクター長	8ビット
データ伝送速度	2400、4800、9600、19200
パリティチェック	なし
ストップビット	1ビット

データ伝送速度のみHSRのメインメニュー「3. 一般設定」のサブメニュー「4. RS-232C/RS-485設定」(55ページ)で設定することができます。

通信プロトコル

通信は1バイト単位で行います。コンピューターが1バイト送信した後、HSRから返ってくる返答を持って次のバイトを送信します。HSRの返答の中には、1バイトのものだけでなく、複数バイトのものもあります。

RS-232C使用時の注意

コマンドを使用するために以下の準備をしてください。

RS-232C TABLE ONコマンド (F6H) をHSRに送る

- HSRは、ACK (0AH) を返します。
- RS-232C TABLE OFFコマンド (F7H) を送るまで、HSRはコマンドを受け付けます。

RS-485

データフォーマットは、次の通りです。

モード	非同期
キャラクター長	8ビット
データ伝送速度	2400、4800、9600、19200
パリティチェック	なし
スタートビット	1ビット
ストップビット	1ビット

通信線：2芯

通信方式：半2重方式 (Half Duplex方式)

データ伝送速度のみHSRのメインメニュー「3. 一般設定」のサブメニュー「4. RS-232C/RS-485設定」(55ページ)で設定することができます。

RS-485使用時の注意

- メインメニュー「3. 一般設定」のサブメニュー「4. RS-232C/RS-485設定」(55ページ)で設定したアドレスと一致しないとHSRは動作しません。
- グループ番号を設定したときは、設定したグループ番号と一致しないとHSRは動作しません。

通常コマンド

特に指定のないコマンドでは、1つのコマンドに対して必ずACK (0AH) またはNAK (0BH) が返されます (ブロードキャスト送信時は除く)。

RS-232C専用コマンド

■ RS-232C TABLE ON (F6H)

RS-232C制御を開始する。

■ RS-232C TABLE OFF (F7H)

RS-232C制御を終了する。

RS-485専用コマンド

■ RS-485 TRANS START (FDH)

RS-485制御を開始する。

■ RS-485 RCV CHK (FEH)

RS-485制御コマンドの受け取り準備ができているかどうかを確認する。

RS-232C/RS-485共通コマンド

■ PLAY (3AH)

再生を開始する。

■ STOP (3FH)

再生を停止する。

■ SEARCH (4AH)

録画中または停止中にサーチ設定メニューを表示する。

■ PAUSE (4FH)

再生中に静止画にする。

■ SHIFT← (53H)

本体シャトルダイヤルの左回しに相当する操作を行う。

■ SHIFT↑ (54H)
本体ジョグダイヤルの左回しに相当する操作を行う。
例外：① 実行中の再生のスピードを上げる。
② メニュー画面で設定値を上げる。

■ TIMER ON/OFF (60H)
タイマー録画の「入」/「切」を切り換える。

■ SHIFT→ (63H)
本体シャトルダイヤルの右回しに相当する操作を行う。

■ SHIFT↓ (64H)
本体ジョグダイヤルの右回しに相当する操作を行う。
例外：① 実行中の再生のスピードを落とす。
② メニュー画面で設定値を下げる。

■ PLAY SPEED UP (65H)
• メニュー画面で設定値を上げる。
• 再生時、再生スピードを上げる。

■ PLAY SPEED DOWN (66H)
• メニュー画面で設定値を下げる。
• 再生時、再生スピードを下げる。

■ SECURITY LOCK ON (69H)
本体のメニュー設定がセキュリティーロック可能な状態の場合、セキュリティーロックを「入」にする（本体のSHUTTLE HOLDボタンの3秒押し操作に相当）。

■ SECURITY LOCK OFF (6AH)
セキュリティーロックを「切」にする。

■ MENU (74H)
• メニューモードにする。
• メニューモード時、メニュー画面を選択する。

■ MULTI (82H)
メインモニターを9または16分割画面表示に切り換える。

■ QUAD (83H)
メインモニターを4分割画面表示に切り換える。

■ OPTION (84H)
メインモニターをオプション画面を含む分割画面表示に切り換える。

■ ZOOM (85H)
• ズーム設定モードに入る。この後：
1 SHIFT↑(54H)またはSHIFT↓(64H)でズーム領域の水平位置を指定する。
2 SHIFT→(63H)で水平位置を確定する。
3 SHIFT↑(54H)またはSHIFT↓(64H)でズーム領域の垂直位置を指定する。
4 SHIFT→(63H)で垂直位置を確定する。
• ズームを解除する。

■ SEQUENCE (87H)
表示画面を自動的に切り換える。

■ MONITOR 2 (88H)
モニター2の設定モードに切り換える。

■ ALARM RESET (8AH)
アラーム動作を解除する。

■ COPY (8DH)
コピー設定画面の「入」/「切」を切り替える。

■ OSD/EXIT (8EH)
• 画面表示データの「入」/「切」、および表示位置を切り替える。
• メニューモードを解除する。

■ FULL 1 - FULL 16 (90H - 9FH)
フル画面表示の入力を切り換える。

■ ALARM F SKIP (ABH)
再生中に、直後のアラームを検索して再生する。

■ ALARM R SKIP (ACH)
再生中に、直前のアラームを検索して再生する。

■ REC STOP (CFH)
録画を停止する。

■ CLOCK ADJUST (E0H)
内蔵の時計の分と秒の設定を00に合わせる。
例: 13:30:00から14:29:59の間に送ると、時計は14:00:00になる。

■ MENU RESET (E1H)
表示されているメニュー画面の設定のみ初期値に戻す。

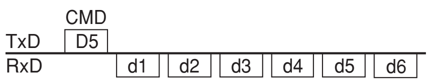
ステータスコマンド

ステータス収集コマンド

■ MPX STATUS SENSE（D5H）

【指定した機器との1対1の通信時のみ有効】

HSRの各チャンネルの動作情報を収集する。

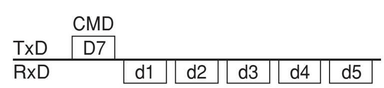


ビット		意味
d1（第1バイト）	7	ALARM ON 8
	6	ALARM ON 7
	5	ALARM ON 6
	4	ALARM ON 5
	3	ALARM ON 4
	2	ALARM ON 3
	1	ALARM ON 2
	0	ALARM ON 1
d2（第2バイト）	7	ALARM ON 16（HSR-J2009は予備）
	6	ALARM ON 15（HSR-J2009は予備）
	5	ALARM ON 14（HSR-J2009は予備）
	4	ALARM ON 13（HSR-J2009は予備）
	3	ALARM ON 12（HSR-J2009は予備）
	2	ALARM ON 11（HSR-J2009は予備）
	1	ALARM ON 10（HSR-J2009は予備）
	0	ALARM ON 9
d3（第3バイト）	7	SENSOR ON 8
	6	SENSOR ON 7
	5	SENSOR ON 6
	4	SENSOR ON 5
	3	SENSOR ON 4
	2	SENSOR ON 3
	1	SENSOR ON 2
	0	SENSOR ON 1
d4（第4バイト）	7	SENSOR ON 16（HSR-J2009は予備）
	6	SENSOR ON 15（HSR-J2009は予備）
	5	SENSOR ON 14（HSR-J2009は予備）
	4	SENSOR ON 13（HSR-J2009は予備）
	3	SENSOR ON 12（HSR-J2009は予備）
	2	SENSOR ON 11（HSR-J2009は予備）
	1	SENSOR ON 10（HSR-J2009は予備）
	0	SENSOR ON 9
d5（第5バイト）	7	VIDEO LOSS ON 8
	6	VIDEO LOSS ON 7
	5	VIDEO LOSS ON 6
	4	VIDEO LOSS ON 5
	3	VIDEO LOSS ON 4
	2	VIDEO LOSS ON 3
	1	VIDEO LOSS ON 2
	0	VIDEO LOSS ON 1
d6（第6バイト）	7	VIDEO LOSS ON 16（HSR-J2009は予備）
	6	VIDEO LOSS ON 15（HSR-J2009は予備）
	5	VIDEO LOSS ON 14（HSR-J2009は予備）
	4	VIDEO LOSS ON 13（HSR-J2009は予備）
	3	VIDEO LOSS ON 12（HSR-J2009は予備）
	2	VIDEO LOSS ON 11（HSR-J2009は予備）
	1	VIDEO LOSS ON 10（HSR-J2009は予備）
	0	VIDEO LOSS ON 9

■ STATUS SENSE（D7H）

【指定した機器との1対1の通信時のみ有効】

HSRの動作情報を収集する。



ビット		意味
d1（第1バイト）	7	00: 再生停止，01: 静止画，10: 再生，
	6	11: 各種メニュー
	5	1: アラーム記録領域フル
	4	00: 停止，01: プリアラーム記録，10: アラーム記録
	3	11: 使用禁止
	2	1: 通常記録領域フル
	1	00: 記録停止，01: 通常記録
	0	10: タイマー記録，11: タイマー記録待機
d2（第2バイト）	7	再生モード　00: 通常，01: アラーム，10: 保存
	6	11: 予備
	5	0に固定
	4	1: 正方向，0: 逆方向
	3	再生スピード　00H～0FH
	2	
	1	
	0	

d3（第3バイト）	7	1: チャンネル選択中
	6	予備
	5	予備
	4	予備
	3	選択入力番号　00H～0FH: 1～16チャンネル
	2	
	1	
	0	
d4（第4バイト）	7	予備
	6	予備
	5	予備
	4	予備
	3	予備
	2	予備
	1	予備
	0	予備
d5（第5バイト）	7	予備
	6	予備
	5	予備
	4	予備
	3	予備
	2	予備
	1	予備
	0	予備

ステータス情報発信コマンド

【ブロードキャスト送信時のみ有効】
HSRに関する情報を随時発信するためのコマンドです。各コマンドに続けて1バイトのデータを送信することができます。ただし、送信可能なデータは、00H～EFHの範囲に限定されます（F0H～FFHは使用禁止）。

■ STATUS LOG-1（BFH）

CMD
TxD [BF] [d1]
RxD

ビット	意味
7	1: ワーニング　　0: ノーマル
6	10: アラーム記録開始
5	01: アラーム記録停止　　00: ノーマル
4	予備
3	動作モード　（下記）
2	
1	
0	

ビット				動作モード
3	2	1	0	
0	0	0	0	モード変更なし
0	0	0	1	再生停止
0	0	1	0	静止画
0	0	1	1	正方向スロー再生
0	1	0	0	逆方向スロー再生
0	1	0	1	正方向再生
0	1	1	0	逆方向再生
0	1	1	1	正方向早送り
1	0	0	0	逆方向早送り
1	0	0	1	通常記録停止
1	0	1	0	通常記録
1	0	1	1	タイマー記録
1	1	0	0	タイマー記録待機
1	1	0	1	アラーム記録停止
1	1	1	0	アラーム記録
1	1	1	1	予備

グループ制御コマンド

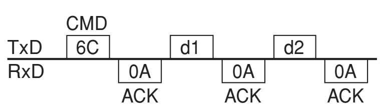
RS-485専用コマンド

各機器をグループ登録し、グループ制御することができます。
同時に複数のグループの登録・削除が可能です。

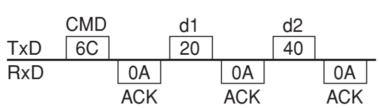
- GROUP SETおよびGROUP CLEARでd1、d2ともに00を指定すると、d2受信時にACK(0AH)の代わりにERROR(02H)が返る。
- GROUP SETおよびGROUP CLEARでd1の最下位ビットを1に指定すると、d1受信時にACK(0AH)の代わりにERROR(02H)が返る。

■ GROUP SET (6CH)

指定のグループに登録する。

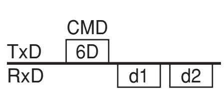


例: グループ5、グループ14に登録する場合

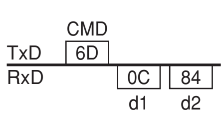


■ GROUP CHECK (6DH)

現在登録されているグループを確認する。

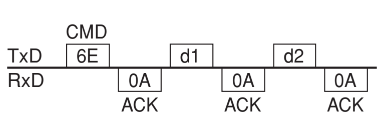


例: グループ2、3、10、15に登録されている場合

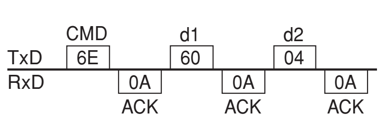


■ GROUP CLEAR (6EH)

指定のグループを削除する。



例: グループ5、6、10を削除する場合



ビット		意味
d1（第1バイト）	7	GROUP 7
	6	GROUP 6
	5	GROUP 5
	4	GROUP 4
	3	GROUP 3
	2	GROUP 2
	1	GROUP 1
	0	常に0
d2（第2バイト）	7	GROUP 15
	6	GROUP 14
	5	GROUP 13
	4	GROUP 12
	3	GROUP 11
	2	GROUP 10
	1	GROUP 9
	0	GROUP 8

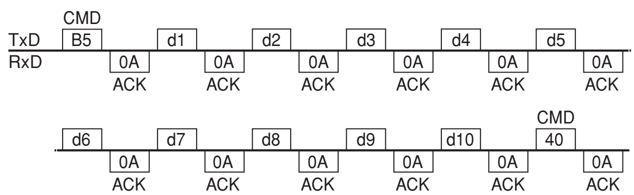
特殊コマンド

RS-232C専用コマンド

【指定した機器との1対1の通信時のみ有効】

■ T/D SEARCH 4 (B5H)

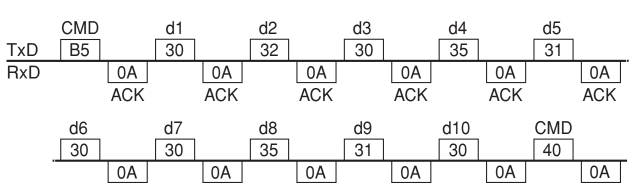
日時サーチモードにし、サーチする日付を数値データコマンド30H(0)～39H(9)で指定する。



d1: サーチする年の上位（30H～39H）
d2: サーチする年の下位（30H～39H）
d3: サーチする月の上位（30Hまたは31H）
d4: サーチする月の下位（30H～32H）
d5: サーチする日の上位（30H～33H）
d6: サーチする日の下位（30H～39H）
d7: サーチする時の上位（30H～32H）
d8: サーチする時の下位（30H～39H）
d9: サーチする分の上位（30H～35H）
d10: サーチする分の下位（30H～39H）

30H～39H以外のデータを送信すると、ACK（0AH）の代わりにERROR（02H）が返送される。
それぞれのデータに対し、有効範囲外の値を入力した場合は、ENTER（40H）を送信した後、ERROR（02H）が返送される。

例：2002年5月10日5時10分の場合



■ ENTER (40H)

T/D SEARCH 4コマンドの日時データ入力後、データを確定する。

■ CLEAR ERROR (41H)

- T/D SEARCH 4コマンドの日時データ入力中に、直前に入力した数値コマンドのみ取り消す。
- 無効データ入力によりT/D SEARCH 4コマンドがエラーになったとき、直前に入力した無効データのみを取り消してエラーを解除する。

■ CLEAR (56H)

- T/D SEARCH 4コマンドの日時データ入力中に、コマンド全体を取り消す。
- 無効データ入力によりT/D SEARCH 4コマンドがエラーになったとき、T/D SEARCH 4コマンド全体を取り消してエラーを解除する。

RS-232C/RS-485共通コマンド

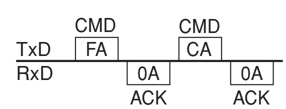
■ REC REQUEST (FAH)

RECコマンドの前に送信する。

■ REC (CAH)

REC REQUEST（FAH）の後に送信して、録画を実行する

【指定した機器との1対1の通信時】
FAH送信後、ACK(0AH)が返ったらREC(CAH)を送信する。



【ブロードキャスト送信時】
FAH送信後、バスの開放を確認してからREC(CAH)を送信する。



その他の特殊コマンド

RS-485専用コマンド

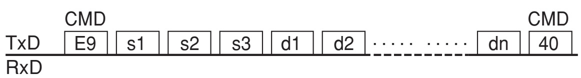
■ CLOCK DOWNLOAD (E9H)

【ブロードキャスト送信のみ有効】

サブコマンドs1～s3の値で定義されるデータの転送を行う。

s1, s2, s3 = 30H, 30H, 30Hの場合：年月日をダウンロード

s1, s2, s3 = 30H, 30H, 31Hの場合：時刻をダウンロード



s1～s3, dn＝数字アスキーコード30H～39H

d1～dn：ダウンロードデータ

E9Hを送信したデバイスは、バスの開放を待たずに40Hまで連続して送信する。

特殊コード

■ ERROR (02H)

- T/D SEARCH 4コマンドの日時データ入力中に無効なデータが入力され、HSRがエラー状態になったことを表す。
- RS-485でGROUP SET(6CH)またはGROUP CLEAR(6DH)コマンド実行中に、HSRが無効なデータを受信したことを表す。

コマンドテーブル

上位 / 下位	0	1	2	3	4	5	6	7
0				0	ENTER		TIMER ON/OFF	
1				1	CLEAR ERROR			
2	ERROR			2				
3				3		SHIFT←	SHIFT →	
4				4		SHIFT ↑	SHIFT ↓	MENU
5				5			RP UP (PLAY SPEED UP)	
6				6		CLEAR	RP DOWN (PLAY SPEED DOWN)	
7				7				
8				8				
9				9			SECURITY LOCK ON	
A	ACK			PLAY	SEARCH		SECURITY LOCK OFF	
B	NAK							
C							GROUP SET	
D							GROUP CHECK	
E							GROUP CLEAR	
F				PLAY STOP	PAUSE			

(薄い網掛け) : RS-232Cのみ
(濃い網掛け) : RS-485のみ

上位 / 下位	8	9	A	B	C	D	E	F
0		FULL 1					CLOCK ADJUST	
1		FULL 2					MENU RESET	
2	MULTI	FULL 3						
3	QUAD	FULL 4						
4	OPTION	FULL 5						
5	ZOOM	FULL 6		T/D SEARCH 4 (RS-232Cのみ)		MPX STATUS SENSE		
6		FULL 7						RS-232C TABLE ON (RS-232Cのみ)
7	SEQUENCE	FULL 8				STATUS SENSE		RS-232C TABLE OFF (RS-232Cのみ)
8	MONITOR 2	FULL 9						
9		FULL 10					CLOCK DOWNLOAD (RS-485のみ)	
A	ALARM RESET	FULL 11			REC			REC REQUEST
B		FULL 12	ALARM F SKIP					
C		FULL 13	ALARM R SKIP					
D	COPY	FULL 14						RS-485 TRANS START (RS-485のみ)
E	OSD/EXIT	FULL 15						RS-485 RCV CHK (RS-485のみ)
F		FULL 16		STATUS LOG 1 (RS-485のみ)	REC STOP			

(淡灰色): RS-232Cのみ
(濃灰色): RS-485のみ

- ブロードキャスト送信時は、BFHのコマンドに続けて1バイトのデータを送信することができます。ただし、送信可能なデータは、00H～EFHの範囲に限定されます（F0H～FFHは使用禁止）。
- D5H、D7Hに対しては、それぞれのコマンドに規定された連続するデータが返信されます。

お問い合わせは
「ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川6-7-35

http://www.sony.co.jp/